

第2回厚木市観光振興推進委員会会議次第

日時 令和2年9月10日（木）午後2時から

場所 厚木市役所第2庁舎 16階会議室B

1 開 会

2 挨拶

3 案 件

第2次厚木市観光振興計画の策定について

- | | |
|-----------------------|-------------|
| (1) 厚木市観光振興計画の構成について | 資料1 |
| (2) 厚木市観光振興計画の骨子について | 資料2、参考資料1 |
| (3) 各種調査結果の報告について | |
| ア 厚木市民の観光振興に対する意識調査結果 | 資料3、資料3別紙 |
| イ 厚木市の観光に対するニーズ調査結果 | 資料4 |
| ウ 観光事業者等に対する調査について | 資料5-1、資料5-2 |

4 その他

5 閉 会

厚木市観光振興推進委員会名簿

No.	役 職	氏 名	選 出 団 体
1	委員長	岸 康人	松蔭大学観光メディア文化学部
2	委員	熊澤 巖	小田急電鉄株式会社
3	委員	棟方 康志	神奈川中央交通株式会社
4	委員	鈴木 笑美	厚木ホテル協議会
5	委員	石川 義仁	飯山観光協会
6	委員	黄金井康巳	七沢観光協会
7	委員	青木 良衣	厚木商工会議所
8	委員	長谷川 和美	あつぎ観光ボランティアガイド協会
9	委員	平井 茂	市民公募
10	委員	菊池 祐美子	市民公募

【オブザーバー】

No.	役 職	氏 名	所 属
1	専務理事兼事務局長	森下 俊春	一般社団法人厚木市観光協会

【事務局】

No.	役 職	氏 名	所 属
1	部長	小野間善雄	厚木市産業振興部
2	課長	内田 良彦	厚木市産業振興部観光振興課
3	係長	川内 伴秀	厚木市産業振興部観光振興課観光振興係
4	副主幹	大川 勝	厚木市産業振興部観光振興課観光振興係

厚木市観光振興計画の構成

章	項目	小項目	主な記載内容
第1章 計画の策定に 当たって	1 計画改定の趣旨	—	計画改定の背景、目的
	2 計画の位置づけ	—	上位関連計画の中での本計画の位置づけ 「第10次厚木市総合計画」、「厚木市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「第2次厚木市産業マスタープラン」の概要
	3 計画期間	—	—
	4 本市の概要	(1) 本市の立地 (2) 人口および世帯数の推移 (3) まちづくりの将来像	—
	5 第1次厚木市観光振興計画の総括	(1) 目標の達成状況 (2) 実施した取組・施策 (3) 市内で実施した取組の整理	目標値、成果目標の達成状況の評価 平成29年度以降の取組年表、具体的施策の実施内容 厚木市観光協会、あつぎ観光ボランティアガイド協会の取組を整理
第2章 観光を取り巻く 現状	1 国の観光動向	(1) 国の観光政策	「観光立国推進基本計画（平成24.3）」の概要
		(2) 観光客の動向	国の旅行の人数、宿泊者数、消費額などについてデータ更新
	2 県の観光動向	(1) 県の観光政策	神奈川県観光振興計画（2019.3）の概要
		(2) 観光客の動向 (3) 周辺地域の動向	県の旅行の人数、宿泊者数、消費額などについてデータ更新 本市が周辺自治体と連携して実施した取組について整理
3 本市の観光の現状及び動向	観光客の動向	本市の旅行の人数、宿泊者数、消費額などについてデータ更新	
第3章 本市の 取り組み課題	1 調査に見る本市の現状	(1) アンケート調査 ア 厚木市の観光に関するニーズ調査 イ 厚木市民の観光振興に対する意識調査	今回実施したアンケート調査（市内、市外）結果からみた実態、ニーズ等
		(2) 関係団体ヒアリング調査	観光関係事業者ヒアリング調査からみた取組状況および課題意識、意向等
2 本市の観光の課題	—	第2章および第3章1. を踏まえた対応すべき課題の抽出	
第4章 計画改定の基本 方針・目標と 具体的施策	1 改定の基本方針	—	第3章の課題への基本的な対応方針
	2 目指すべきビジョンと目標	(1) 目指すべきビジョン (2) コンセプト	目指す将来のビジョンと取組のコンセプト
	3 目標値	—	具体的施策の推進により達成する目標（KPI）
	4 施策の体系	—	戦略、柱、施策の方向と具体的な施策の体系図
	5 具体的施策	—	具体的施策の内容について、戦略、柱ごとに記載
第5章 推進体制	1 役割分担	—	関係者の個々の役割
	2 推進体制と進行管理	—	PDCAサイクルの推進
資料編	1 観光を取り巻く社会経済環境の変化	(1) 人口減少、少子高齢社会の到来 (2) 地域活性化と観光の捉え直し (3) 交通ネットワークの拡充への対応 (4) 情報化社会への対応 (5) 感染症等への対応 (6) 令和3（2021）年東京オリンピック・パラリンピックの開催 (7) 観光ニーズの多様化と変わる観光スタイル	観光を取り巻く環境の変化について、「令和2年版国土交通白書」、「令和元年観光の状況」「令和2年度観光施策」（いずれも国土交通省資料）よりポイントを整理
		2 本市の観光の現状及び動向	(1) 本市の概況 (2) 観光資源
	3 基礎調査結果	(1) アンケート調査 ア 厚木市の観光に関するニーズ調査 イ 厚木市民の観光振興に対する意識調査 (2) 関係団体ヒアリング調査	各調査結果を記載（※今回の委員会では資料3・4に記載）

厚木市観光振興計画（骨子）

令和 2 年 9 月

厚 木 市

第1章 計画の策定にあたって

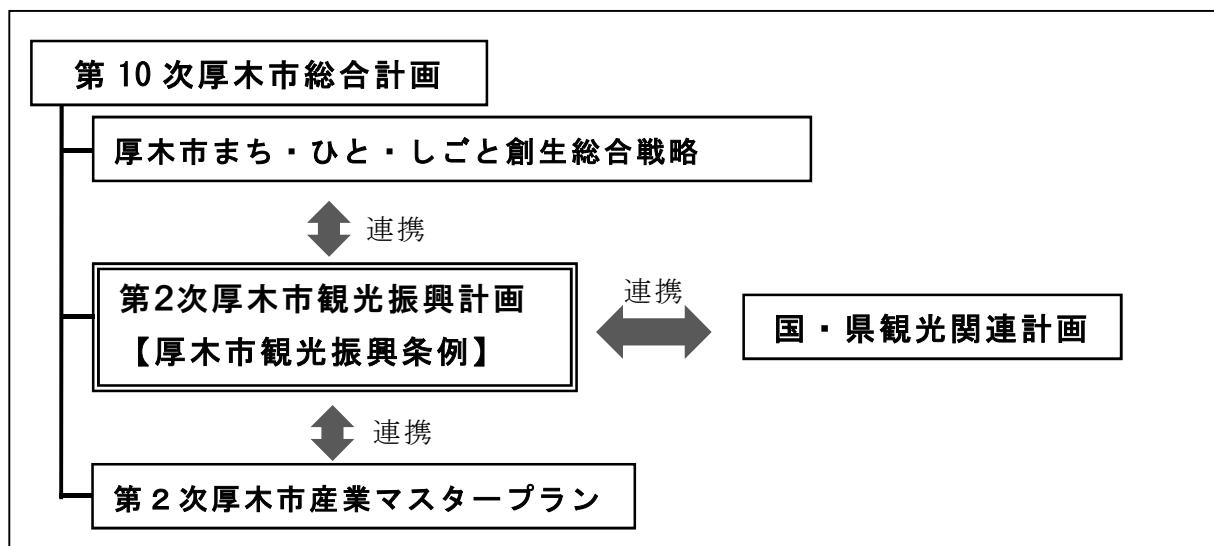
1 計画策定の趣旨

厚木市では、平成24年に「第1次厚木市観光振興計画」を策定（平成29年改定）し、観光振興に向けた具体的な施策を展開してきた。

この度、計画期間が令和2年度をもって満了を迎えることと併せ、昨今の観光振興を取り巻く環境の変化に的確に対応した新しい観光戦略の構築を図るため、令和3年度を始期とする新たな「第2次厚木市観光振興計画」を策定する。

2 計画の位置付け

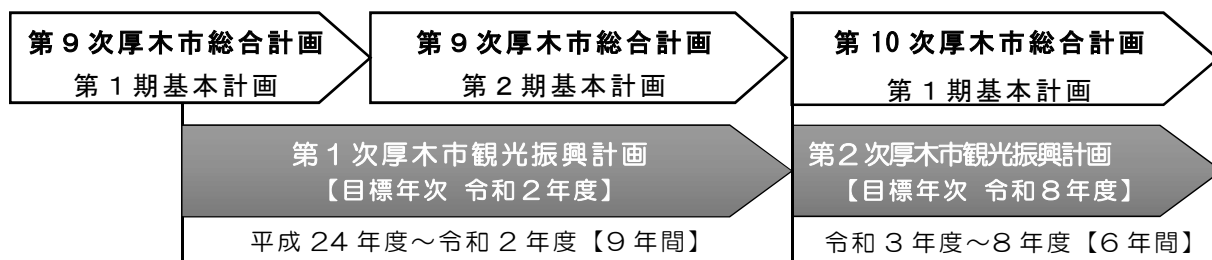
厚木市観光振興条例に基づく観光振興の基本的な計画として策定するものであり、第10次厚木市総合計画の施策を補完・具体化する個別計画として位置付けるものである。また、「厚木市産業マスタープラン」などの関連する計画を始め、国・県が策定した観光関連計画と連携した計画とする。



3 計画期間

第2次厚木市観光振興計画の計画期間は、第10次厚木市総合計画第1期基本計画の計画期間と合わせ、令和3年度から令和8年度までの6年間とする。

なお、観光を取り巻く環境の変化に対応するため、必要に応じて計画の見直しを行う。



4 本市の概要

(1) 本市の立地

本市は、神奈川県ほぼ中央部に位置し、横浜・鎌倉・小田原が約 30km 圏内に位置している。

市内には、鉄道では小田急小田原線が通っており、市の中心部に位置する本厚木駅までは、新宿駅から約 45 分（特急ロマンスカー利用）で来ることができる。また、高速道路では東名高速道路・新東名高速道路・圏央道が通っており、厚木インターチェンジから都心（東京インターチェンジ）まで約 30 分という良好なアクセスを有している。



図 1 本市の位置図

出典：厚木市観光協会ポータルサイト

(2) 人口および世帯数の推移

国勢調査によると、平成27年の本市の人口は225,714人、世帯数は95,824世帯となっており、いずれも増加傾向にある。本市の人口統計においても、令和2年8月の人口は224,019人（前年比832人増）、世帯数は101,104世帯（前年比772世帯増）と増加傾向にある。



図 2 本市の人口および世帯数の推移

出典：国勢調査（総務省統計局）

(3) まちづくりの将来像

ア 第10次厚木市総合計画（令和3年4月）

本市は、令和2年度に今後のまちづくりの指針となる「第10次厚木市総合計画」を策定した。計画では、将来都市像を「自分らしさ輝く 希望と幸せあふれる 元気なまち あつぎ」とし、人口減少に歯止めをかけることを目指し、令和14（2032）年における人口220,000人を目標に掲げている。

総合計画では、将来都市像に基づき、まちづくりのビジョンを6つ掲げて取組を進めている。また、観光振興は、「人が集い、交流し、新たな価値を生むまち」を目指すための1つの基本施策として位置づけられており、まちづくりの重要な要素となっている。

【第10次厚木市総合計画の概要】

将来都市像：自分らしさ輝く 希望と幸せあふれる 元気なまち あつぎ
目 標：令和14（2032）年の人口220,000人

まちづくりのビジョン

命、財産を守り抜くまち

支え合い、生き生きと暮らせるまち

夢や希望を持ち、自己実現ができるまち

人が集い、交流し、新たな価値を生むまち

環境に優しく、自然と共生するまち

市民と共に確かな成長を創り出すまち

「人が集い、交流し、新たな価値を生むまち」の基本施策

- 1 中心市街地の魅力向上に向けた取組の推進
- 2 地域の個性をいかした魅力あるまちづくりの推進
- 3 産業・商業振興に向けた取組の推進
- 4 安心して働くことができるまちづくりの推進
- 5 誰もが生活しやすいコンパクト・プラス・ネットワークの推進

6 観光振興に向けた取組の推進

【施策の方向】

広域観光の推進

観光資源の磨き上げの推進

情報発信の充実

- 7 シティプロモーションと定住促進の推進
- 8 農業・林業・水産業の振興に向けた取組の推進

イ 厚木市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和3年4月）

令和42（2060）年までの人口の将来展望や目指すべき将来の方向などを示す厚木市人口ビジョンに基づき、人口減少を克服するための施策をまとめた計画として、「厚木市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

【厚木市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要】

基本構想：
基本計画：
目 標：



将来像を実現するためのまちづくりの柱

本計画と同時期改定で、現在策定作業中である。
計画の策定状況を確認し、最終版には最新計画を反映予定。

ウ 第2次厚木市産業マスタープラン（令和3年4月）

本市の産業が力強く成長していくための方向性や具体的な方策を定めたものとして、「第2次厚木市産業マスタープラン計画」を策定した。

【第2次厚木市産業マスタープランの概要】

基本構想：

基本計画：

目 標：



将来像を実現するためのまちづくりの柱

本計画と同時期改定で、現在策定作業中である。

9月末頃に計画が固まる予定のため、10月の委員会の際に追記予定。

5 第1次厚木市観光振興計画の総括

(1) 目標の達成状況

本市では、現行計画の3つの戦略と7つの柱を踏まえ、観光事業者、観光関連団体、企業や商店街等と連携して、計画に位置付けた具体的施策に基づき、地域の魅力の情報発信、観光への市民参加の促進、広域観光拠点としての可能性の追求などに取り組み、その結果、観光客数の増加や観光客消費額が増額するなど、一定の成果を上げてきた。

平成27年の改定の際に設定した令和2年における目標値と、令和元年（最新データ）の実績値を比較すると、観光客消費額は既に目標を達成しているものの、観光客数と宿泊客数の達成率は低く、いずれも平成27年時点に比べて減少している状況である。

【目標値】

	平成27年 (現状)	令和2年 (目標)
観光客数	3,420,000人	4,500,000人
宿泊客数	343,000人	352,000人
観光客消費額	140億円	170億円

【達成状況】

	令和元年※ (実績)	令和2年 (目標)	達成率
観光客数	2,942,000人	4,500,000人	65.4%
宿泊客数	292,000人	352,000人	83.0%
観光客消費額	173億円	170億円	101.8%

※令和2年の実績値の公表が例年通りであれば令和3年夏ごろのため、最新データとなる令和元年の実績値と比較している。

(2) 実施した取組・施策

「自然と都会をつなぐ都市(まち)」の実現に向け、「情報発信(あつぎを楽しむ人へ)」「内なる醸成(あつぎに暮らす人へ)」「外との連携(あつぎとつなぐ人へ)」という三つの戦略を掲げ、77の施策を実施してきました。

ア 情報発信(30事業)

SNSを活用したイベント情報の配信、圏央厚木パーキングエリアやアウトドアショップへのパンフレット配架、大山ケーブル駅への電飾看板の設置、国道沿道への横断幕の掲出などを実施しました。

イ 内なる醸成(27事業)

観光事業者向けのおもてなし研修の開催、観光ガイドの育成、厚木市観光協会の事業拡充などを実施しました。

ウ 外との連携(20事業)

近隣市町村と連携したスタンプラリーの開催や厚木・伊勢原・秦野・愛川・清川の3市1町1村による新東名高速道路の全線開通(令和5年度)に向けた広域観光振興戦略の策定、インバウンド向け多言語化の推進、新たに友好都市となった沖縄県糸満市との友好交流などに取り組みました。

【具体的な施策の実施状況】

No.		柱	項目	実施済	担当課	継続
1	ア 情報発信	柱1) 自然と都市 (都会)を つなぐ観光 資源の再編 さん	観光まちづくりの推進	○	商業にぎわい課	○
2			ユニバーサルデザイン の推進	○	公園緑地課	○
3			おもてなし運動の推進	○	観光振興課	○
4			サイクリング観光の推 進	○	観光振興課	○
5			グリーンツーリズムの 推進	○	農業政策課	○
6			グリーンツーリズム観 光商品の開発	×	観光振興課	○
7			農業体験の場の整備	○	農業政策課	○
8			グリーンツーリズム受 入整備事業	○	環境政策課等	○
9			ヘルスツーリズムの推 進	○	観光振興課	○
10			河川活用の団体との水 辺環境づくりの協働事 業	○	河川ふれあい課	○
11			河川敷のバーベキュー 場としての活用	○	河川ふれあい課	○
12			鮎のつかみどりや魚釣 り教室の実施	○	観光振興課	○
13			あつぎ食ブランドによ る市のイメージアップ	○	観光振興課	○
14			川魚（鮎）を始めとし た地場産品の活用	○	農業政策課	○
15			鮎料理取扱い店舗のP R	○	観光振興課	○
16			「厚木のいいとコロ」 発信事業	○	観光振興課	○
17			「森林セラピー®体 験」、「健康づくり大学」 の実施	○	観光振興課	○
18			「花の里」づくりの推 進	○	観光振興課	○

No.		柱	項目	実施済	担当課	継続	
19		柱2) 観光客の 実態把握の 推進	入込観光客調査の充実	○	観光振興課	○	
20			観光モニターツアーの 実施	○	観光振興課	○	
21		柱3) ターゲット を絞った 情報発信力 の強化	SNSやインターネットなどICTの活用	○	観光振興課	○	
22			モバイルサイトの有効 活用	○	情報政策課	○	
23			インターネットの活用	○	広報課	○	
24			タイムリーな情報提供 によるパブリシティの 活用	○	広報課	○	
25			あつぎビジョンやケー ブルテレビなどの活用	○	広報課	○	
26			情報誌などへの積極的 な情報リリース	○	観光振興課	○	
27			「あゆコロちゃんクラ ブ」会員による発信	○	観光振興課	○	
28			大使などの活用	○	観光振興課	○	
29			厚木観光のブランド化 の推進	○	観光振興課	○	
30			「七沢エリア」ブラン ド化の推進	○	観光振興課	○	
31			「飯山エリア」ブラン ド化の推進	○	観光振興課	○	
32	イ 内なる 醸成	柱4) 観光への 市民参加の 促進	あつぎ観光ガイドの育 成	○	観光振興課	○	
33				自治会との連携	○	市民協働推進課	○
34				既存イベントへの市民 参加の促進	○	観光振興課	○
35				新しい市民参加スタイ ルの提示	×	観光振興課	○
36				市民の清掃活動、学校 等での環境教育の取組	○	生活環境課	○

No.		柱	項目	実施済	担当課	継続
37	イ 内なる醸成	柱4) 観光への市民参加の促進	企業の観光まちづくりへの参加	○	産業振興課	○
38			生活支援ロボットの観光資源活用	○	産業振興課	○
39			地域活性化包括協定や観光協定を通じた情報発信	○	企画政策課	○
40			大型バス観光客への対応とバス駐車場の確保	○	観光振興課	○
41			飲食店や物販店との連携事業の展開	○	農業政策課	○
42			若者による魅力発信	○	商業にぎわい課	○
43			学生合宿の誘致促進	○	スポーツ推進課	○
44		柱5) 観光まちづくりのための多様な場面設定	観光・歴史・文化の学習機会の提供	○	文化財保護課	○
45			小中学生への郷土教育の推進	○	文化財保護課	○
46			イベントの回遊性を高める効果的な開催	○	観光振興課	○
47			シンポジウムや講座、広報紙を通じた郷土の再発見	○	文化財保護課	○
48			「大山街道」再発見プロジェクト	×	観光振興課	○
49			厚木版「札所めぐり」の創設	×	観光振興課	○
50			市民利用施設の利用促進	○	文化生涯学習課	○
51	ガイドブックの発行		○	文化生涯学習課	○	
52	フィルムコミッション事業の推進		○	観光振興課	○	
53	「ストリートパフォーマンス」の創出		○	商業にぎわい課	○	
54	文化芸術活動の支援	○	文化生涯学習課	○		

No.		柱	項目	実施済	担当課	継続
55	イ 内なる醸成	柱5) 観光まちづくりのための多様な場面設定	旅行事業者と連携した修学旅行の誘致及びツアーの企画	○	観光振興課	○
56			大型バス駐車場の確保	○	観光振興課	○
57			関係機関との連携強化	○	観光振興課	○
58			収益事業の強化による財務体制の強化	○	観光振興課	○
59			日本版DMO候補法人についての検討	○	観光振興課	○
60			「厚木市観光振興条例」及び「厚木市観光振興計画」の推進	○	観光振興課	○
61			観光振興推進委員会の活動推進	○	観光振興課	○
62	ウ 外との連携	柱6) 広域観光の拠点としての可能性を追求	新たな観光の核候補地（第4の国際観光地）としての大山地域の観光振興	○	観光振興課	○
63			県央やまなみ地域等の魅力発信による観光客の誘客	○	観光振興課	○
64			大山巡礼トレイルツアーの実施や積極的なPR	○	観光振興課	○
65			交流拠点としてのパーキングエリアにおける丹沢・大山地域のPRの強化	○	観光振興課	○
66			本厚木駅連絡所の機能充実	○	観光振興課	○
67			丹沢・大山地域からのハイカー誘客の方策の検討	○	観光振興課	○
68			交通機関と連携したキャンペーン・イベント	○	観光振興課	○

No.		柱	項目	実施済	担当課	継続
69	ウ 外との 連携	柱6) 広域観光の 拠点として の可能性を 追求	駅施設や電車での観光 ポスターや中吊り広告 の活用	○	観光振興課	○
70			高速道路サービスエリ アでの観光キャンペー ン	○	観光振興課	○
71		柱7) 国際観光の 取組強化	立地を活かした誘客	○	観光振興課	○
72			事前キャンプ地の誘致 と外国人観光客に対す る受入体制の整備	○	企画政策課	○
73			外国語での観光情報の 発信	○	観光振興課	○
74			パンフレットや店舗看 板等の多言語化	○	観光振興課	○
75			神奈川県と連携した外 国人観光客を対象とし たツアーの商品化	×	観光振興課	○
76			宿泊施設の受入体制の 整備	○	観光振興課	○
77			観光客への観光案内の 実施	○	観光振興課	○
78			温泉文化発信事業の 推進	○	観光振興課	○
79			友好都市との交流促進	○	企画政策課	○
80			歴史文化にちなんだ 交流事業の推進	○	文化財保護課	○
81		市内外へのシティセー ルスの展開	○	観光振興課	○	
82		行政視察の積極的な 受入れ	○	議会総務課	○	

(3) 市内で実施した取組の整理

ア 厚木市観光協会の取組

現行の厚木市観光振興計画（平成 29 年 3 月）に沿って、厚木市観光協会で行っている令和元年度の取組は以下の通りである。

取組名	取組内容
観光 PR 活動の実施	<ul style="list-style-type: none">・ガイドブック（厚木市観光ガイドブック、観光資源を紹介したミニガイドブック、いちご狩りに関するリーフレット等）の作成や増刷を実施・観光プロモーション（小田急電鉄㈱と協力した観光キャンペーン、PR イベントへの参加、ホームページの拡充等）を実施
各種研修の実施	<ul style="list-style-type: none">・観光協会員や職員を対象とした研修や、JICA の「観光振興とマーケティング」研修の受け入れを実施
森林セラピー事業や健康づくり大学の実施	<ul style="list-style-type: none">・七沢、飯山地区において、森林や温泉等の観光資源を活かした森林セラピー事業や専門家の講演を交えながら温泉や食事を楽しむ健康づくり大学の実施
広域連携による観光振興事業	<ul style="list-style-type: none">・平成大山講プロジェクト推進協議会や広域行政連絡会観光推進専門部会、宮ヶ瀬湖周辺 DMO 推進ネットワーク会議へ参画・大山や宮ヶ瀬の観光資源を生かした回遊性の高い観光ルートでの誘客や、宮ヶ瀬湖周辺の地域クーポン券の広報宣伝を実施
「糸満フェア」への出展	<ul style="list-style-type: none">・友好都市である糸満市で開催された「糸満フェア」に出展し、観光 PR や名産品販売を実施
中町大型バス発着場の運営	<ul style="list-style-type: none">・協会の自主財源確保、市民の利便性向上、本厚木駅周辺の交通整流化等を目的とした、中町大型バス発着場の運営を継続して実施
観光案内所の運営	<ul style="list-style-type: none">・市内 3 か所（本厚木駅観光案内所、東丹沢七沢観光案内所、飯山臨時観光案内所）の観光案内所を運営

イ あつぎ観光ボランティアガイド協会の取組

あつぎ観光ボランティアガイド協会では、ハイキングや史跡探訪のガイドの他、市・観光協会等が主催する観光行事の支援や観光関連の研修会の実施等を行っている。

令和元年度の主な取組は以下の通りである。

取組名	取組内容
歴史探訪に関する活動	・協会企画のガイドツアー、依頼によるガイドツアー、会員向け研修を実施
ハイキングガイド	・ハイキングツアーを企画し、ツアーガイドを担当
各種イベント支援	・あつぎ鮎まつりなどのイベント、臨時飯山観光案内所の実証実験、白山ハイキングコースの点検整備、観光客入込調査などを実施
森林セラピー支援活動	・飯山・七沢の森林セラピー基地内のコースに専門の案内人を配置
外部研修参加	・かながわガイド協議会、県西観光ボランティアの会主催のイベントに参加
学習発表会・企画ガイドに関する勉強会	・ガイドが講演する学習発表会に加え、本年度は外部講師の講演会を実施

第2章 観光を取り巻く現状

1 国の観光動向

(1) 国の観光政策

ア 観光立国推進基本計画

【概要】

観光立国推進基本法（平成18年法律第117号）の規定に基づき、観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため閣議決定された計画。

【計画期間】

平成29（2017）～令和2（2020）年度

※令和2年度末に、観光立国推進基本計画の改定を予定

【関連項目（抜粋）】

《全国の観光目標（令和2年）》

◆国内観光の拡大・充実

○国内旅行消費額：21兆円

◆国際観光の拡大・充実

○訪日外国人旅行者数：4,000万人

○訪日外国人旅行消費額：8兆円

○訪日外国人旅行者に占めるリピーター数：2,400万人

○訪日外国人旅行者の地方部における延べ宿泊者数：7,000万人泊

(2) 観光客の動向

ア 日本人の国内延べ旅行者数

日本人の国内延べ旅行者数は、平成 29 年までは宿泊旅行者、日帰り旅行者共に増加傾向であったが、平成 30 年に豪雨、地震等の災害が相次いだことや、台風や猛暑等の天候要因の影響等により、前年比 87% まで減少した。令和元年はゴールデンウィークの 10 連休などにより前年よりは増加したものの、台風などによる災害の影響も受けたため、平成 27～30 年頃の旅行者数までの回復には至っていない。

令和元年の日本人の国内宿泊旅行者数は延べ 3 億 1,162 万人、国内日帰り旅行者数は延べ 2 億 7,548 万人となっている。



図 3 日本人の国内延べ旅行者数の推移

出典：旅行・観光消費動向調査、観光白書

イ 日本人の国内旅行消費額

日本人の国内旅行消費額（総額）は、平成 30 年は旅行者数の減少に伴って消費額も減少したものの、おおむね増加傾向にあり、令和元年は全体で 21.9 兆円となっている。

また、種類別に見ると、宿泊旅行での消費額が、平成 30 年から令和元年にかけて約 1.1 倍の大きな増加がみられる。



※小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の合計値と国内旅行者全体の数値が一致していない箇所がある。

図 4 日本人国内旅行消費額（総額）の推移

出典：旅行・観光消費動向調査、観光白書

また、日本人の国内旅行 1 人 1 回あたり消費単価は、平成 29 年より宿泊旅行者、日帰り旅行者共に増加傾向にある。

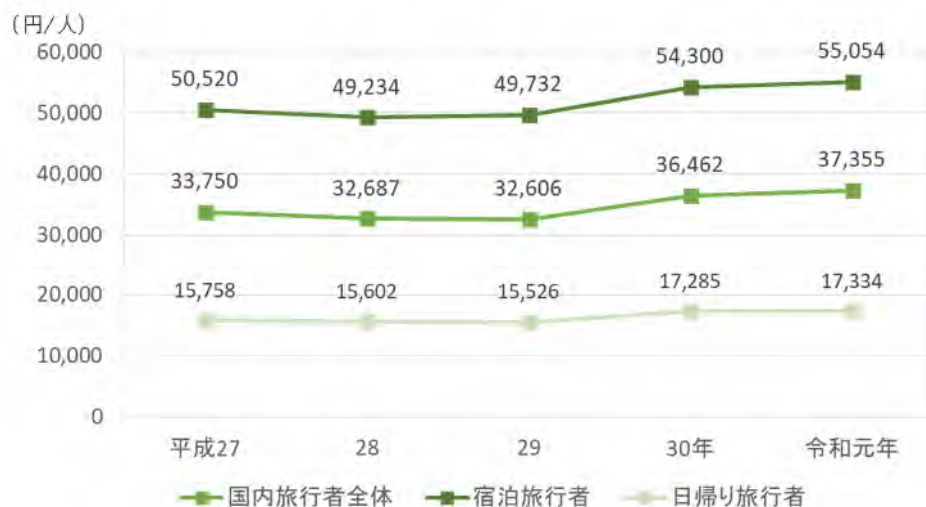


図 5 日本人国内旅行 1 人 1 回あたり消費単価の推移

出典：旅行・観光消費動向調査、観光白書

ウ 訪日外国人旅行者数

コロナ禍以前の訪日外国人旅行者数は、東日本大震災が発生した平成 23 年以降増加傾向にあり、平成 25 年以降は 7 年連続で過去最高を更新している。平成 30 年には、初めて 3,000 万人を突破し、令和元年は 3,188 万人となっている。



図 6 訪日外国人旅行者数の推移

出典：旅行・観光消費動向調査、観光白書

なお、地域別では、令和元年でみるとアジアからの訪日旅行者が2,637万人と、訪日外国人旅行者全体の82.7%を占めている。この要因としては、アジア等新興国の経済成長による海外旅行者数の増加を背景として「富士山」や「和食」などの文化遺産登録による国際的な認証と注目、ビザ緩和や空港発着枠拡大などの要因に加え、「ビジットジャパンキャンペーン」とし継続的に実施している訪日プロモーションの効果などが考えられる。

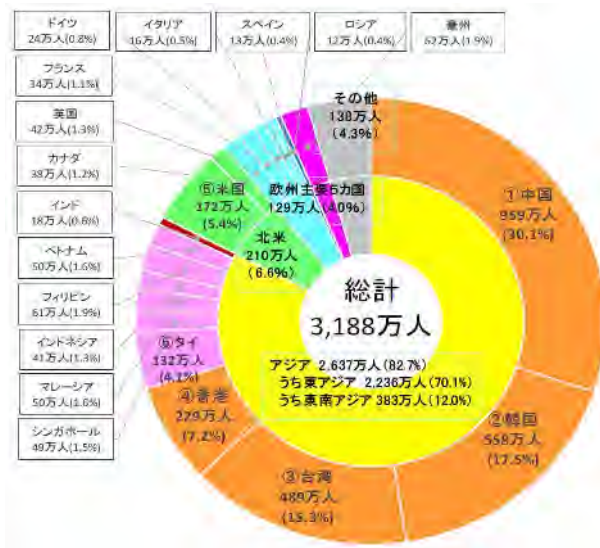


図 7 訪日外国人旅行者の国籍別の内訳（令和元年）

出典：令和2年観光白書（観光庁）

エ 宿泊者数

日本人延べ宿泊者数は、平成28年、平成29年に多少減少したものの、おおむね横ばいである。一方、外国人の延べ宿泊者数は増加傾向にあり、この5年間で約1.5倍に増加している。

令和元年の宿泊者数は、日本人延べ宿泊者数は4.42億人泊、外国人の延べ宿泊者数は1.01億人泊となっている。

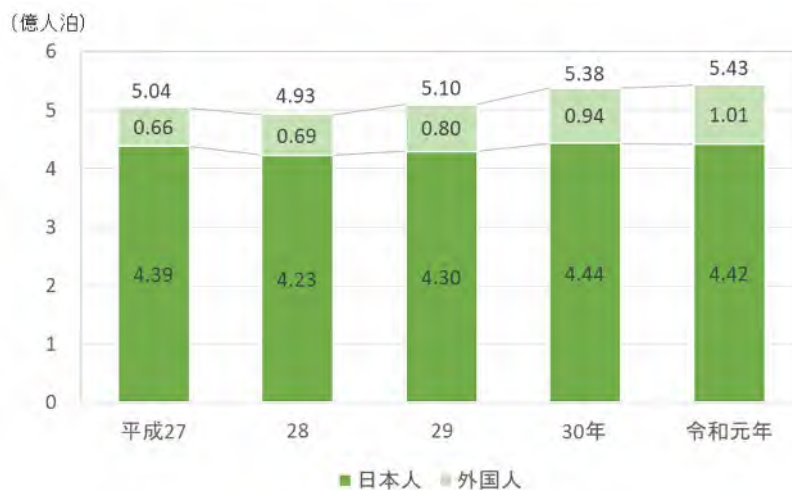


図 8 日本人・外国人の延べ宿泊者数の推移

出典：旅行・観光消費動向調査、観光白書

2 県の観光動向

(1) 県の政策動向

ア 神奈川県観光振興計画

【概要】

神奈川県観光振興条例（平成 21 年）に基づき、観光振興により将来にわたる持続的な本県の経済社会の発展が図られる「観光立県かながわ」の実現を図るために策定された計画。令和元年に、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、観光をめぐる環境の変化に対応するために計画を改定している。

【計画期間】

令和元（2019）～令和 3（2021）年度

【関連項目（抜粋）】

≪目標値（令和 3 年）≫

- 観光消費額総額：1 兆 3000 億円
- 入込観光客数：2 億 1,000 万人
- 延べ宿泊者数：2,500 万人泊
- 外国人延べ宿泊者数：300 万人泊

(2) 観光客の動向

ア 入込観光客数

入込観光客数は、県内を以下のエリア区分に分けて整理する。なお、本市は丹沢・大山地域に属している。



図 9 神奈川県 エリア区分

神奈川県の入込観光客数は、平成 28 年より増加傾向にあり、令和元年は 2 億 467 万人となっている。

令和元年のエリア別入込観光客数は、横浜・川崎地域（7,599 万人）、湘南地域（5,178 万人）、箱根・湯河原地域（3,141 万人）、三浦半島地域（1,650 万人）、丹沢・大山地域（1,518 万人）、相模湖・相模川流域（1,380 万人）の順になっており、本市が属する丹沢・大山地域は県全体の 7.4% を占めている。

平成 27 年を 100 とした指数推移では、本市が属する丹沢・大山地域は令和元年の指数が 100 を超えており、増加傾向がみられる。

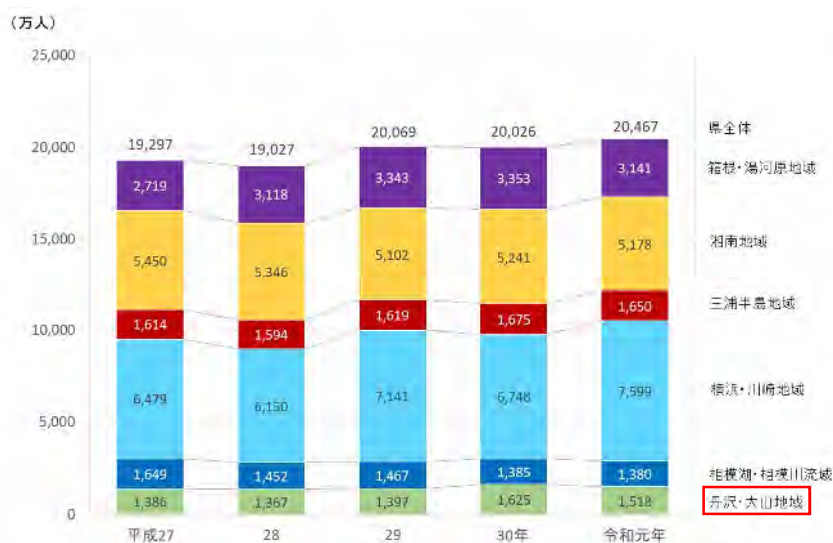


図 10 エリア別入込観光客数の推移

出典：神奈川県入込観光客調査

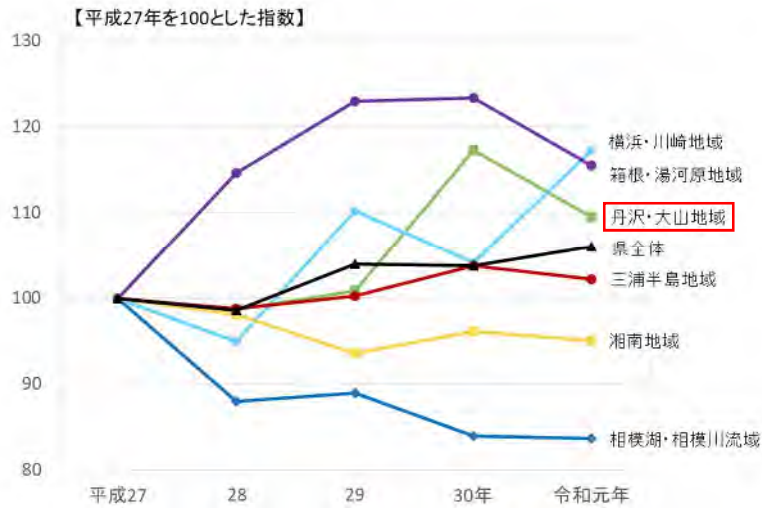


図 1 1 エリア別入込観光客数の伸び率の推移

出典：神奈川県入込観光客調査

イ 観光客消費額

神奈川県は、おおむね1兆円前後で推移しており、平成30年は1.07兆円となっている。

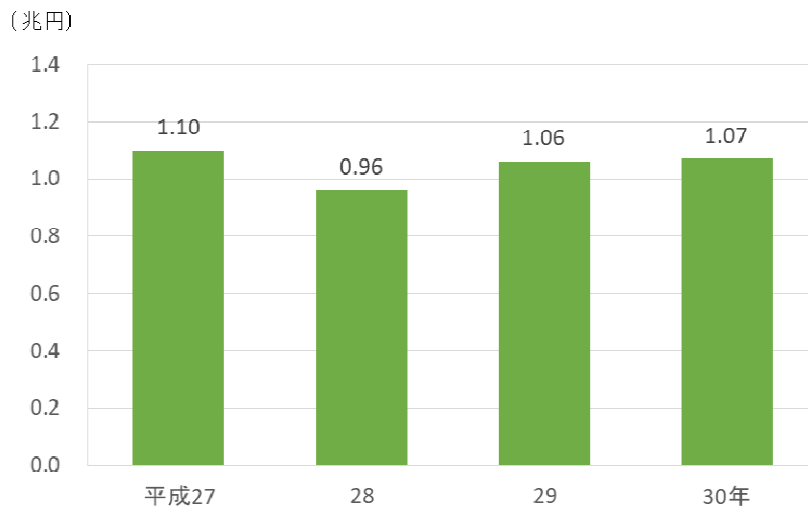


図 1 2 観光客消費額の推移

出典：観光入込客統計に関する共通基準（観光庁）

ウ 訪日外国人数

神奈川県を訪れる外国人数は、平成 22 年に 150 万人を超えたものの、平成 23 年の東日本大震災の影響により大きく減少している。

その後、国内の訪日外国人数が増加することに伴って、神奈川県を訪れる外国人数も増加し、令和元年には 250 万人が訪れている。

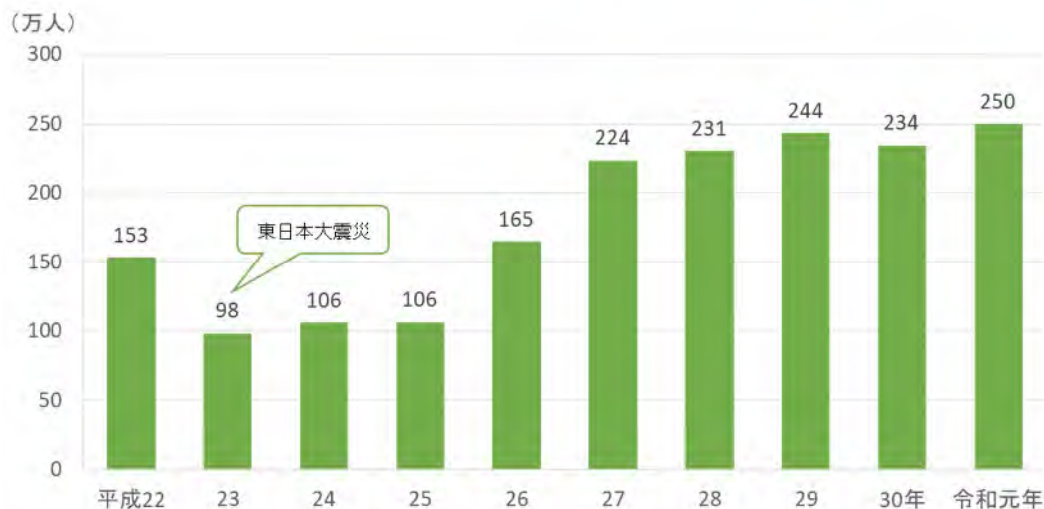


図 1 3 神奈川県を訪れた訪日外国人数の推移

出典：訪日外国人消費動向調査、日本政府観光局（JNTO）

エ 訪日外国人の主な来訪目的と国籍

観光庁が令和元年に実施した訪日外国人を対象としたアンケート調査（訪日外国人消費動向調査）によると、神奈川県を訪れた訪日外国人（回答者数 8,850 人）の来訪目的は「観光・レジャー」が 64.4% を占めている。

また、国籍別の割合を見ると、中国が最も多く 30.4%、次いで米国 12.3%、台湾 9.1%、韓国 6.8% の順になっている。



図 1 4 神奈川県を訪れた訪日外国人数の主な来訪目的

出典：訪日外国人消費動向調査

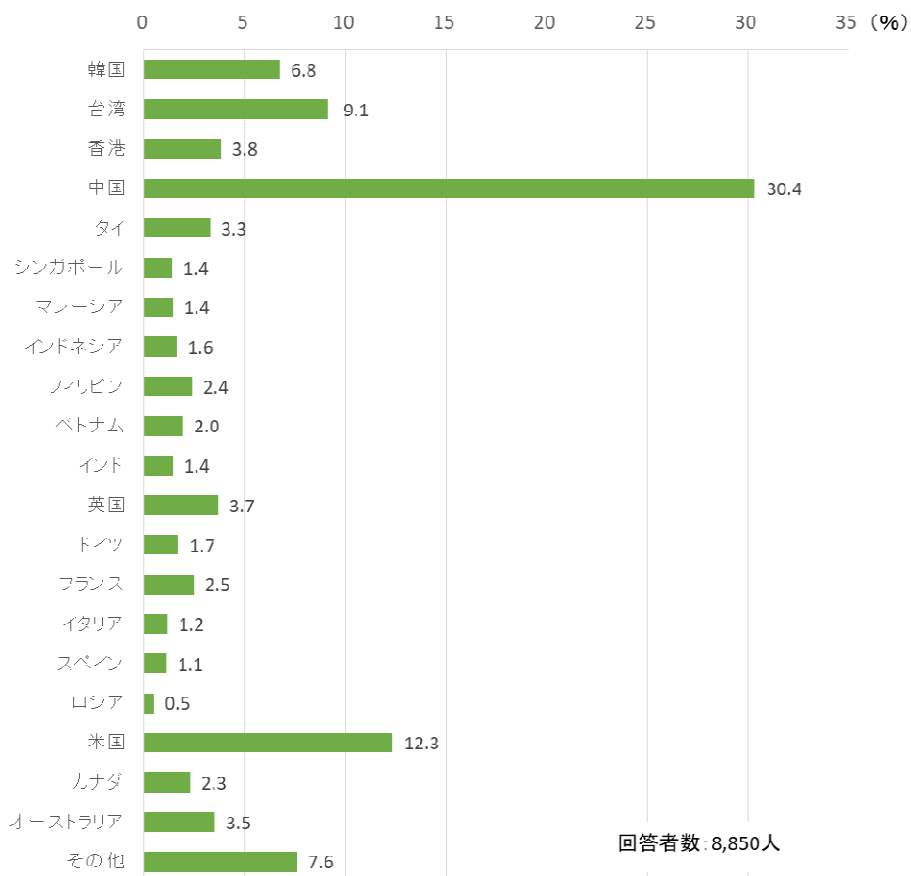


図 15 神奈川県を訪れた訪日外国人数の国籍

出典：訪日外国人消費動向調査

(3) 周辺地域の動向

ア 本市が周辺自治体と連携して実施した取組

本市では、周辺自治体との広域連携による観光振興を推進している。以下にその取り組み内容を示す。

(ア) 丹沢・大山・宮ヶ瀬エリアの活性化に向けた広域観光振興戦略

(広域行政連絡会(厚木市・秦野市・伊勢原市・愛川町・清川村)／令和元年度)

広域行政連絡会では、神奈川県県央地域の観光振興に向けた取組として、令和元年度に新東名高速道路の全線開業を契機とした、広域連携による観光戦略を策定した。

令和2年度は、広域観光マップの作成、観光客受け入れに向けた行政担当者や地域事業者等を対象とした研修の実施を予定している。

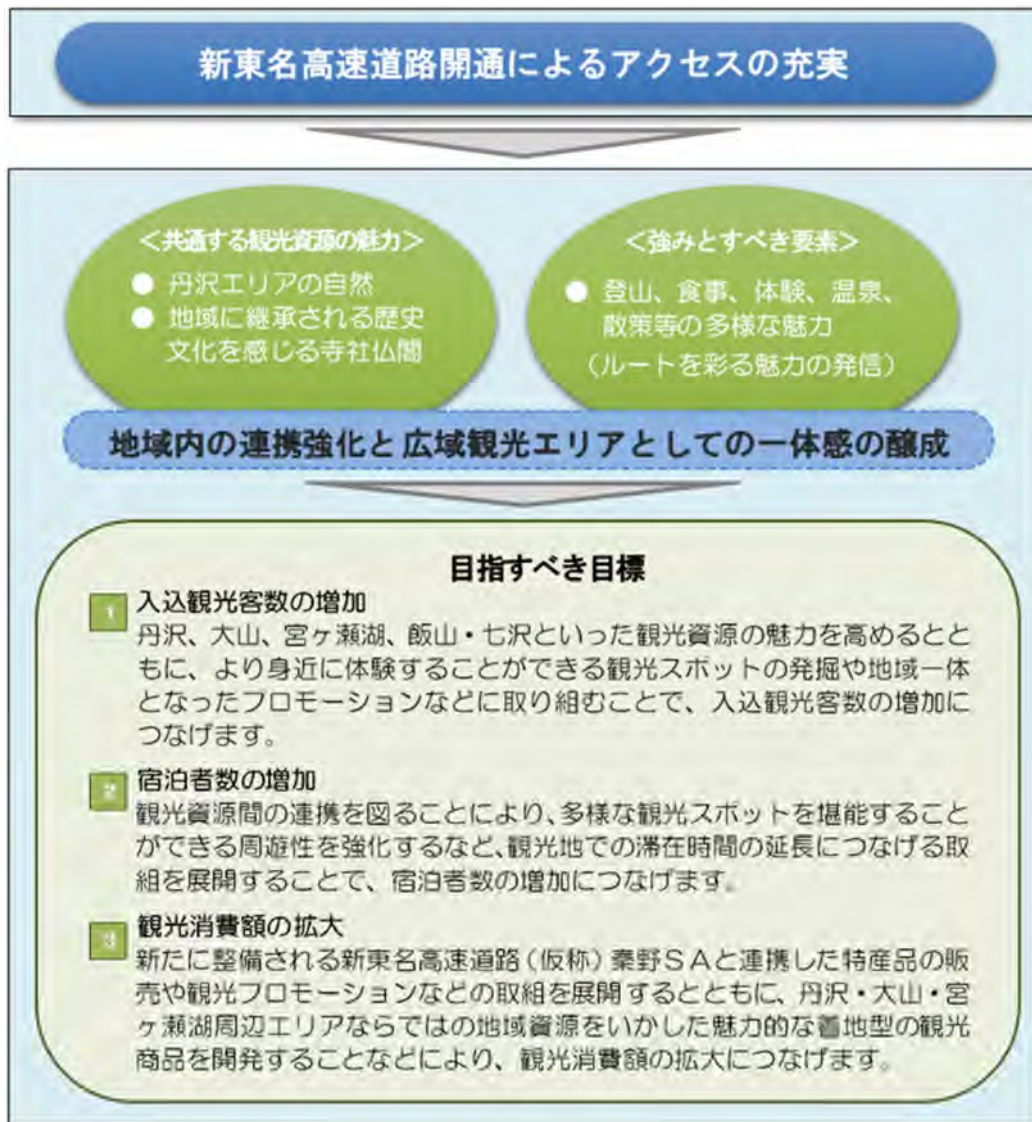


図 16 丹沢・大山・宮ヶ瀬エリアの活性化に向けた広域観光振興戦略の概要

(イ) 厚木・愛甲エリアの活性化に向けた広域観光振興戦略

(厚木愛甲まちづくり研究会 (厚木市・愛川町・清川村) / 令和元年度)

厚木愛甲まちづくり研究会では、神奈川県県央地域の観光振興に向けた取組として、令和元年度に新東名高速道路やリニア中央新幹線の開業などの交通環境の変化を踏まえた、広域連携による観光戦略を策定した。

今後、リニア中央新幹線の車両基地活用に向けた相模原市との新たな連携体制の構築や、宮ヶ瀬ダム周辺振興財団 (宮ヶ瀬 DMO) と連携した観光プロモーションなどの実施を予定している。

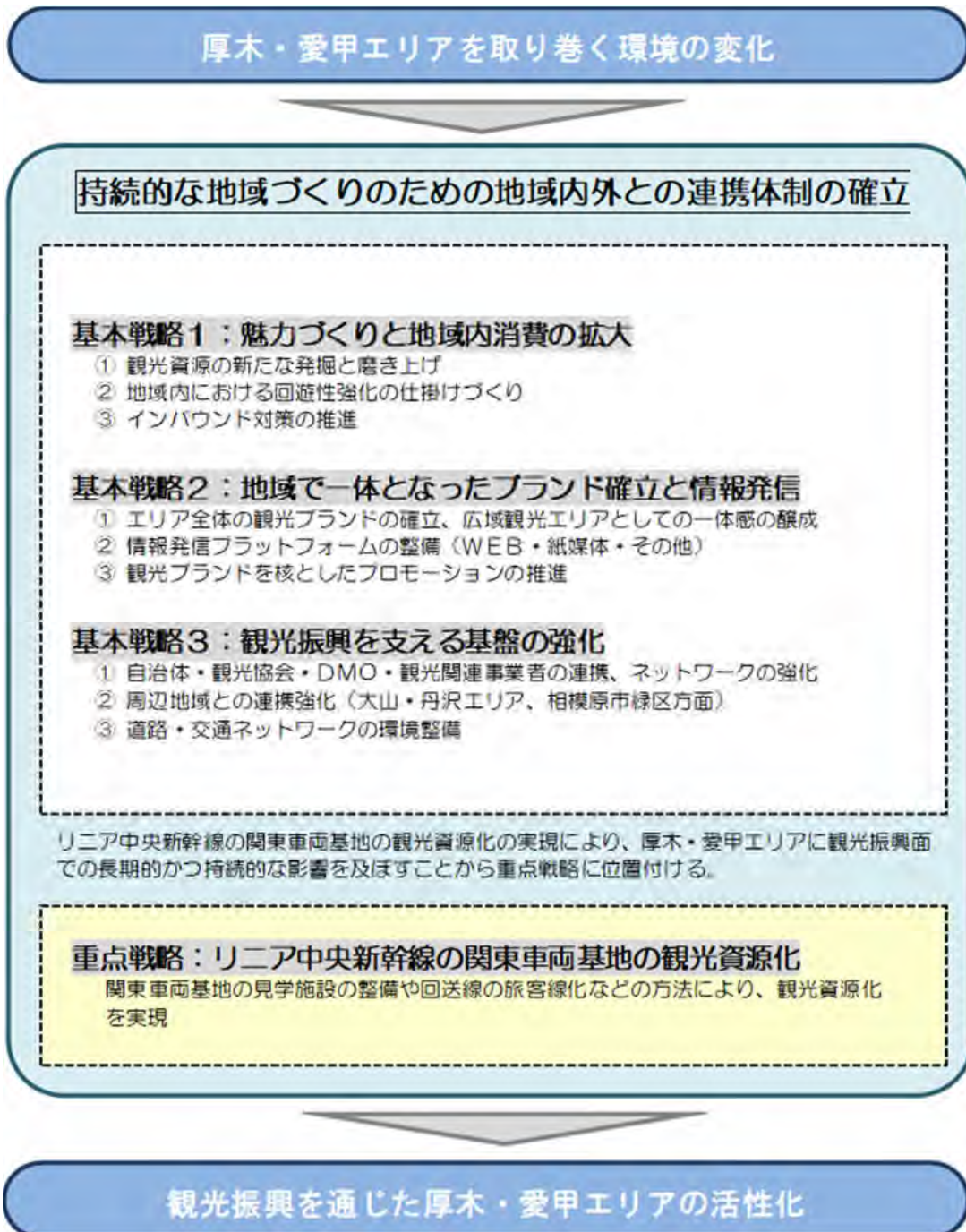


図 17 厚木・愛甲エリアの活性化に向けた広域観光振興戦略の概要

3 本市の観光動向

(1) 観光客の動向

ア 入込観光客数

本市の入込観光客数（日帰り客と宿泊客の合計値）は、平成27年の339万人をピークに減少傾向にあり、令和元年は294万人となっている。なお、入込観光客数全体に占める日帰り客・宿泊客の割合を見ると、日帰り客が毎年約9割を占めている。



図 1 8 市内入込観光客数の推移

出典：神奈川県入込観光客調査

主要観光地点等の観光客数は、令和元年ではあつぎ鮎まつり（祭り・イベント）が最も多く71万人、以降、相模川（地点）65.2万人、七沢42.7万人（地点）、飯山（35.9万人）の順になっている。

平成27年を100とした指数推移では、令和元年の数値を見ると、あつぎ国際大道芸（祭り・イベント）165、相模川（地点）124、あつぎ飯山桜まつり（祭り・イベント）121、厚木市みどりのまつり（祭り・イベント）120で一定の増加傾向がみられる一方、飯山（地点）、東丹沢グリーンパーク（地点）、七沢森林公園（地点）、広沢寺（地点）では減少傾向が見られる。

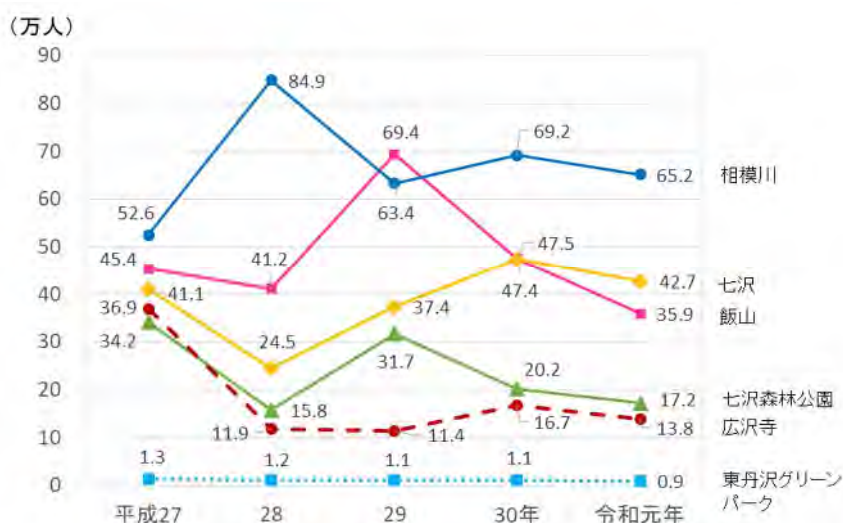


図 1 9 主要観光地点等の観光客数の推移（地点）

出典：神奈川県入込観光客調査

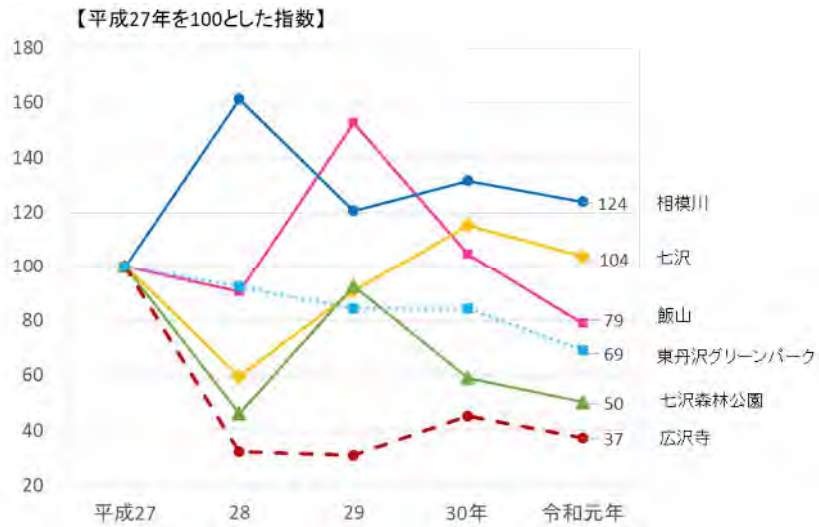


図 2 0 主要観光地点等の観光客数の伸び率（地点）

出典：神奈川県入込観光客調査

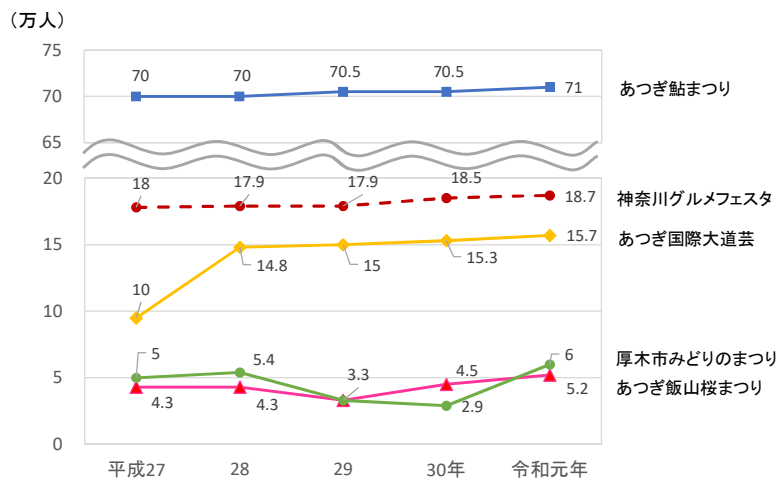


図 2 1 主要観光地点等の観光客数の推移（祭り・イベント）

出典：神奈川県入込観光客調査

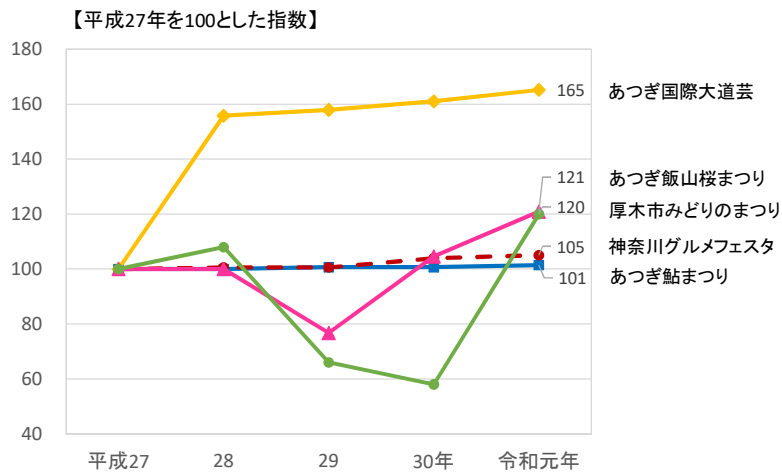


図 2 2 主要観光地点等の観光客数の伸び率（祭り・イベント）

出典：神奈川県入込観光客調査

令和元年の季節別の状況をみると、市の主要なイベントが開催される4月（39.2万人・神奈川グルメフェスタ開催月）、8月（87.6万人・あつぎ鮎まつり開催月）、11月（31.3万人・あつぎ国際大道芸開催月）の観光客数が多くなっている。なお、イベントの来場者数を除いた、地点別の来場者数を見ると、おおむね15万人前後の観光客数になっている。

また、令和元年の季節別の宿泊客数の状況を見ると、毎月2.5万人前後となっている。



※あつぎ 飯山桜まつりは、例年3月下旬～4月上旬に実施されるが、上記では4月実施としている。

図 2 3 月別延べ観光客数

出典：神奈川県入込観光客調査



図 2 4 月別延べ宿泊客数

出典：神奈川県入込観光客調査

イ 観光客消費額

本市の観光客消費額（宿泊費と飲食費、その他合計値）は、令和元年は約173億円となっている。消費額の内訳をみると、飲食費やその他の費用は一定の変動がみられるが、宿泊費はおおむね横ばいとなっている。

入込観光客数1人1回当たりの消費額は、平成27年は4千円台であったが、平成28年以降は5千円台で推移しており、平成29年以降は増加傾向にある。なお、令和元年の入込観光客数1人1回当たりの消費額は5,893円となっている。



図 25 市内観光客消費額の推移

出典：神奈川県入込観光客調査

宿泊客1人1回当たりの宿泊費は、近年増加傾向にあり、令和元年は9,048円となっている。



図 26 宿泊客1人1回当たり宿泊費の推移

出典：神奈川県入込観光客調査

月別の観光客消費額は、市の主要なイベントが開催され、観光客数が増加する4月・8月・11月が多い。なお、飲食費やその他の費用は月ごとに一定の変動がみられるが、宿泊費はおおむね横ばいとなっている。



図 27 月別観光客消費額（令和元年）

出典：神奈川県入込観光客調査

ウ 本市の観光に対する評価

観光スポットの満足度・認知度については、満足度は比較的高い施設が多く、神奈川県や首都圏の平均値 4.0 以上の施設が全体の 20 施設のうち 13 施設となっているが、認知度は低い傾向にある。

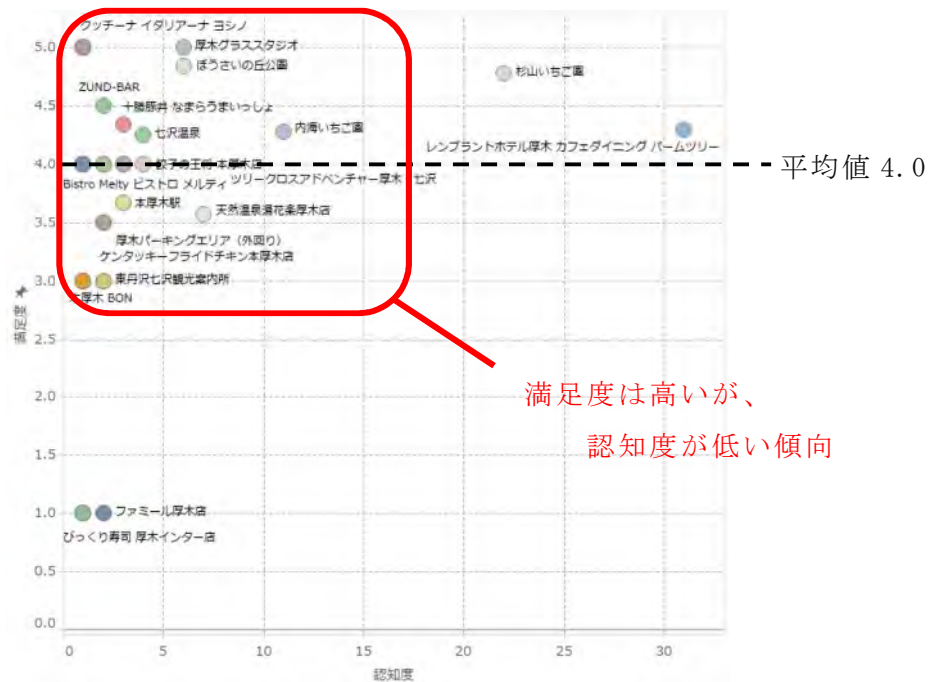


図 28 観光スポットの口コミ満足度と認知度

出典：地域コンディションレポート（じゃらんリサーチセンター）

宿泊施設の満足度・認知度について、総合評価の満足度が高い施設は多くはなく、神奈川県や首都圏の平均値 4.1 以上の施設は全体の 16 施設のうち 5 施設にとどまっている。また、認知度は施設によってばらつきがある。

なお、ジャンル別の満足度を見ると、部屋・風呂・料理（朝食）は神奈川県や首都圏の平均値を下回っている施設が半数以上みられる。

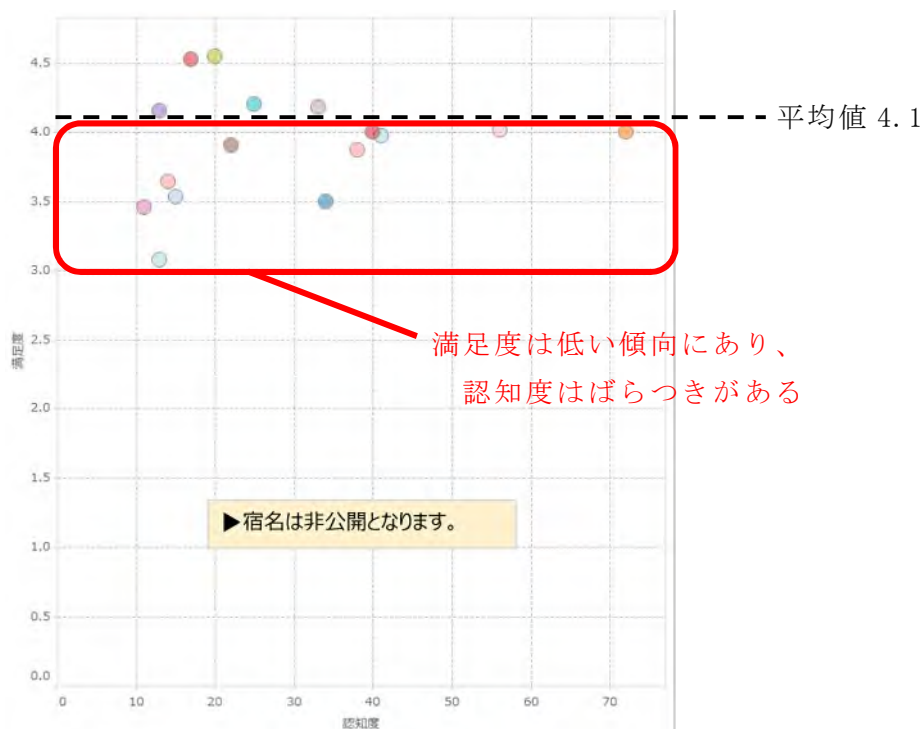


図 29 宿泊施設（総合評価）の 口コミ満足度と認知度

出典：地域コンディションレポート（じゃらんリサーチセンター）

※ここでの満足度は「口コミの平均評価」、認知度は「口コミ件数」によって算出している。

第3章 本市の取組課題

1 調査に見る本市の現状

ア 厚木市民の観光振興に対する意識調査

厚木市民約1,000人を対象に行ったアンケート結果によると、市民がおすすめする観光資源は、「あつぎ鮎まつり（花火大会）」が上位で、今後市内で力を入れるべき観光資源のジャンルとしては、「温泉」、「自然・風景」、「グルメ・名物」、「祭り・イベント」の4つが上位となっている。

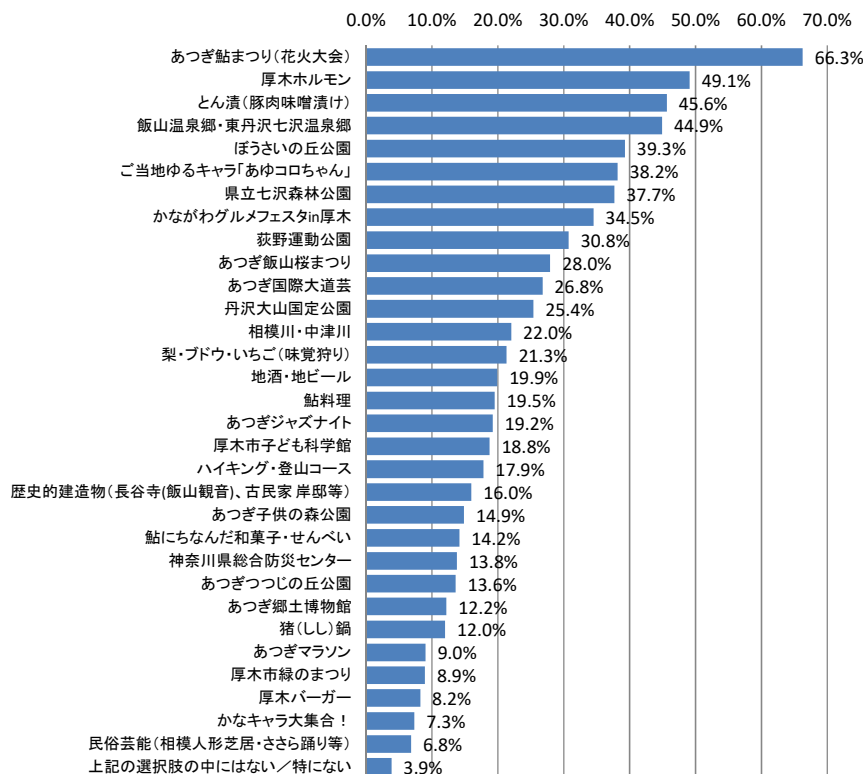


図 30 お薦めしたい観光資源

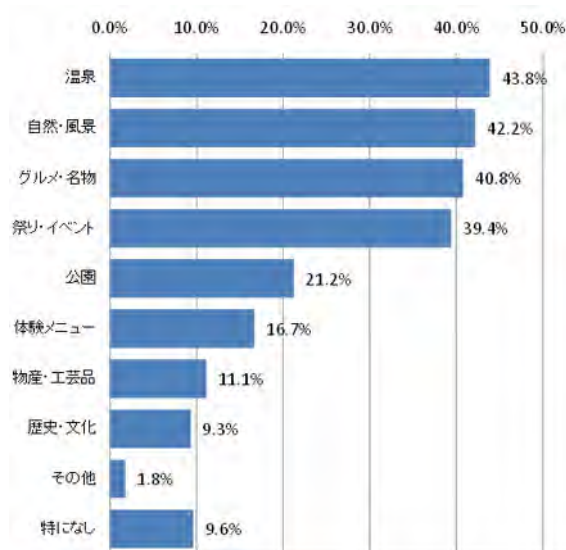
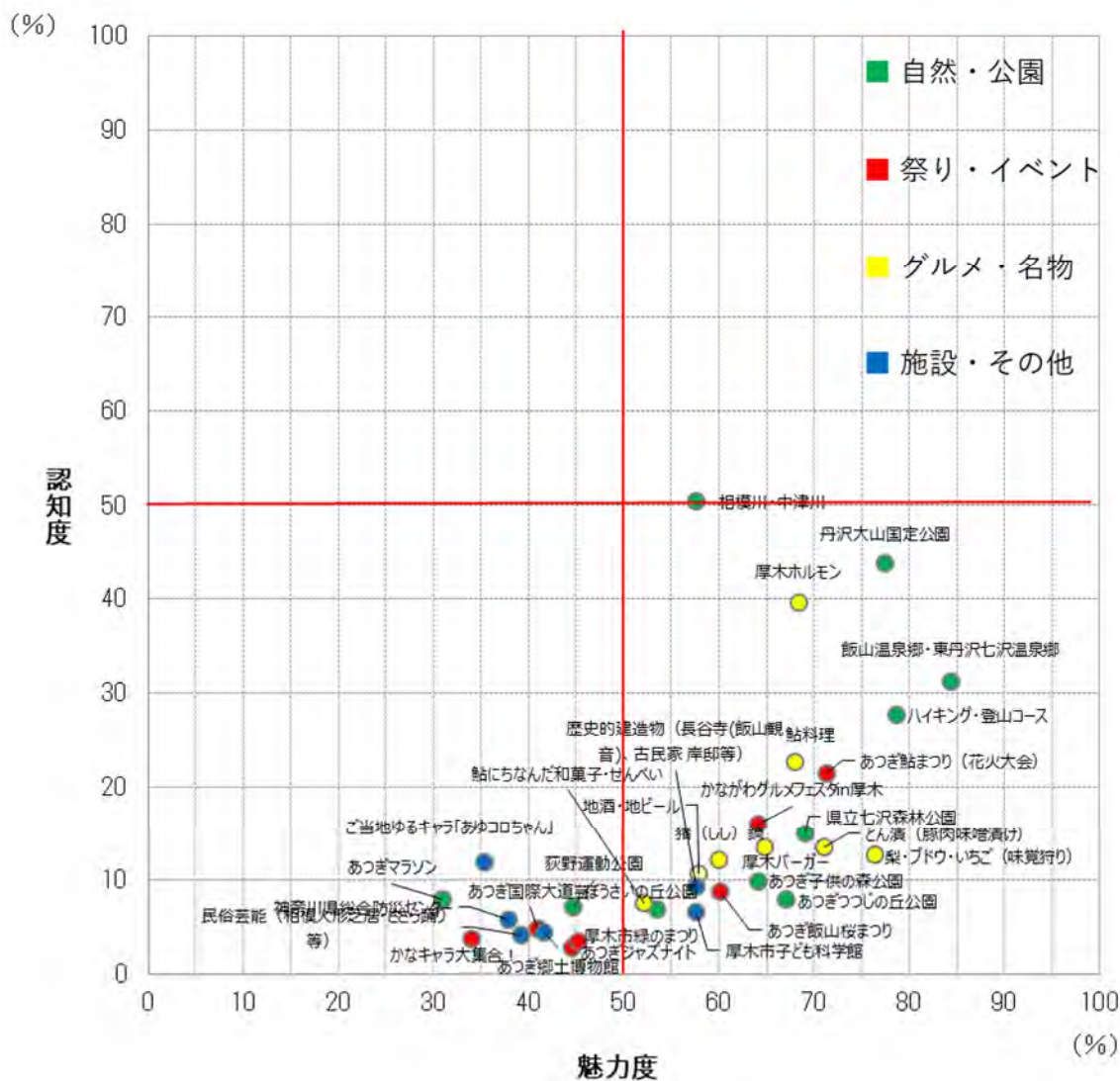


図 31 今後市内で力を入れるべき観光資源のジャンル

イ 厚木市の観光に対するニーズ調査

神奈川県内（厚木市外）及び、本市への来訪者数が比較的多い県の在住者約600人を対象としたアンケート結果によると、市内観光資源の魅力度・認知度について、「自然・公園」、「グルメ・名物」は比較的魅力度が高い傾向にあるが低認知とギャップがある。また、項目全体として認知度の低さが目立つ。



[n=600]

図 3 2 資源ごとの認知度・魅力度ギャップ

2 本市の観光の課題

(1) 新たな生活様式、価値観の多様化への対応

新型コロナウイルス感染症による感染拡大に伴い、本市への来訪者数が減少しており、観光施設、宿泊施設、商業施設、交通事業者等の観光関連産業が深刻な影響を受けている。

一方で、観光のスタイルや観光に求めるものに変化・多様化がみられ、観光客の受入れにあたっては、新たな生活様式に対応したコンテンツやサービスの提供が求められており、これらに対応することによって持続可能な観光振興を実現する必要がある。

(2) 誘客の強化を通じた観光消費の拡大

消費額を増加させるためには、観光客の更なる誘客と滞在時間の延長のいずれも重要であるが、本市の消費額の総額が減少傾向で、国内旅行者の消費単価や本市を訪れた人の消費単価、本市の1回あたりの宿泊費は増加傾向にある。今後はさらなる消費単価の拡大を目指すとともに、新型コロナウイルスの感染拡大対策にも配慮しつつ、これまであまり来訪していない層も含む更なる誘客が特に重要になる。

(3) 広域エリアでの周遊強化

厚木市が進める広域観光のエリアには、大山・宮ヶ瀬という二大観光拠点があり、それぞれの観光客数は190万人、300万人にまで増加している一方、両拠点の中間にある飯山・七沢地区の観光客数は90万人台と大きく下回っている。(表4) 同地区への誘客はもちろんのこと、広域エリアとして観光客を周遊(共有)させる施策を推し進める必要がある。

(単位：千人)

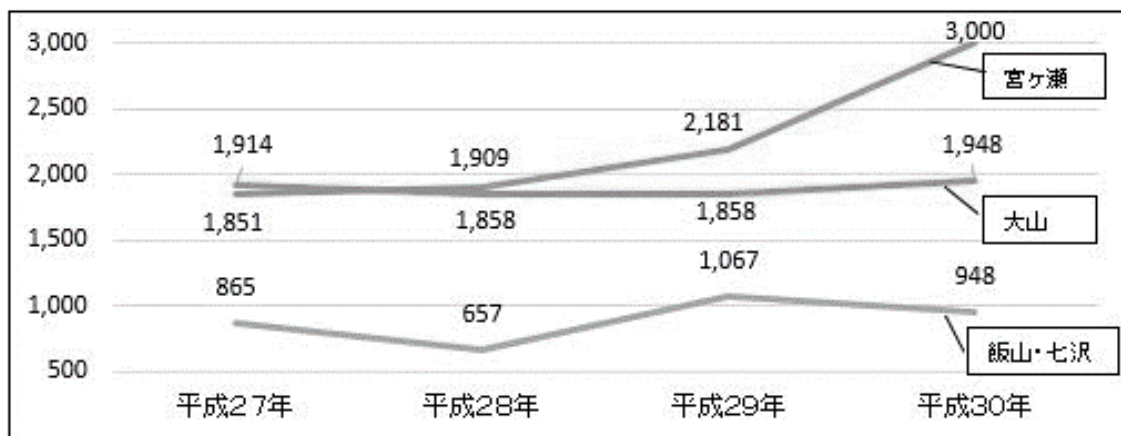


図 3 3 入込観光客数の推移

出典：神奈川県入込観光客数

(4) 受入環境の向上

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の時点において、本厚木駅周辺のビジネスホテルへの聞き取り結果によると、厚木市に滞在する訪日外国人の多くはビジネス客であることが明らかになっている。

今後、外国人観光客の復調に向けては、外国人観光客を迎え入れる体制としては、街中の案内・表示の多言語化や接客対応などがまだまだ不十分との声があるため、引き続き観光関連事業者と連携し、市全体として更なる受入環境の向上を図っていく必要がある。

(5) 市民意識の醸成

現行計画において様々な観光施策を展開しているが、市民の中にはいまだ市内に温泉があることを知らないという声を聞くことがある。地元の声や意識の高さは集客に影響する要素と言われているため、多くの市民に地元観光資源の良さを伝え、愛着を持ってもらうための施策・PRを展開していく必要がある。

第4章 計画改定の基本方針・目標と具体的施策

1 改定の基本方針

前出の課題を踏まえ、厚木市の観光振興による地域活性化を果たすため、以下の4つの基本方針を定め、それぞれに対して具体的施策を立案するものとします。さらに、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、観光分野との関連付けについても整理します。

以下に4つの基本方針とその考え方を示します。

基本方針1 観光資源のブラッシュアップ・再発掘



自然や温泉を始め、食や文化、体験といった既存の観光資源に加え、都心からのアクセスの良さや交通利便性の高さなど、観光資源をブラッシュアップ・再発掘することで、特徴をいかした厚木らしい観光地づくりと観光消費に直結するコンテンツづくりを進めます。

また、観光消費向上には旅行者の滞在時間の延長が重要になります。特に、消費単価の向上に最も有効なのが宿泊であることから、宿泊客を増やすための施策展開に取り組みます。

基本方針2 広域観光の推進、関連事業者等との連携



新東名高速道路の全線開通を始め、計画が進められるリニア中央新幹線の整備など、交通インフラの拡充で旅行者の流れが大きく変わることが予想されます。特に新東名高速道路においては、厚木・伊勢原・秦野の3市にインターチェンジができるため、丹沢・大山・宮ヶ瀬へのアクセスが多様化します。この機を捉え、広域エリアが一体となった周遊・誘客施策を進めます。

基本方針3 ターゲットを絞ったプロモーション



趣味に特化した旅行の増加、地域との交流や体験、健康志向の高まりといった旅行形態の多様化、スマートフォンの普及による旅情報の入手方法やタイミングの変化など、刻々と変化する旅行者ニーズや環境に対応するため、ターゲットを明確化し効果的・効率的なプロモーションを実施します。

基本方針4 受入環境の整備



東京オリンピック・パラリンピック及びねりんピックかながわの開催を機に、訪日外国人や大会関係者の誘客に向け、全ての観光客が安心して便利に過ごせるよう、表示や案内などの充実を図り、観光地として居心地の良い環境づくりを進めます。

2 目指すべきビジョンと目標

都心から豊かな自然へと誘うまちを目指すという現行計画の基本目標をビジョンとして継承し、目指すべき目標を次のとおり掲げる。

(ビジョン) **自然と都会をつなぐ^{まち}都市**

(目標) **集客促進と消費単価の増加を通じた観光消費額の拡大**

3 達成すべき計画の目標値

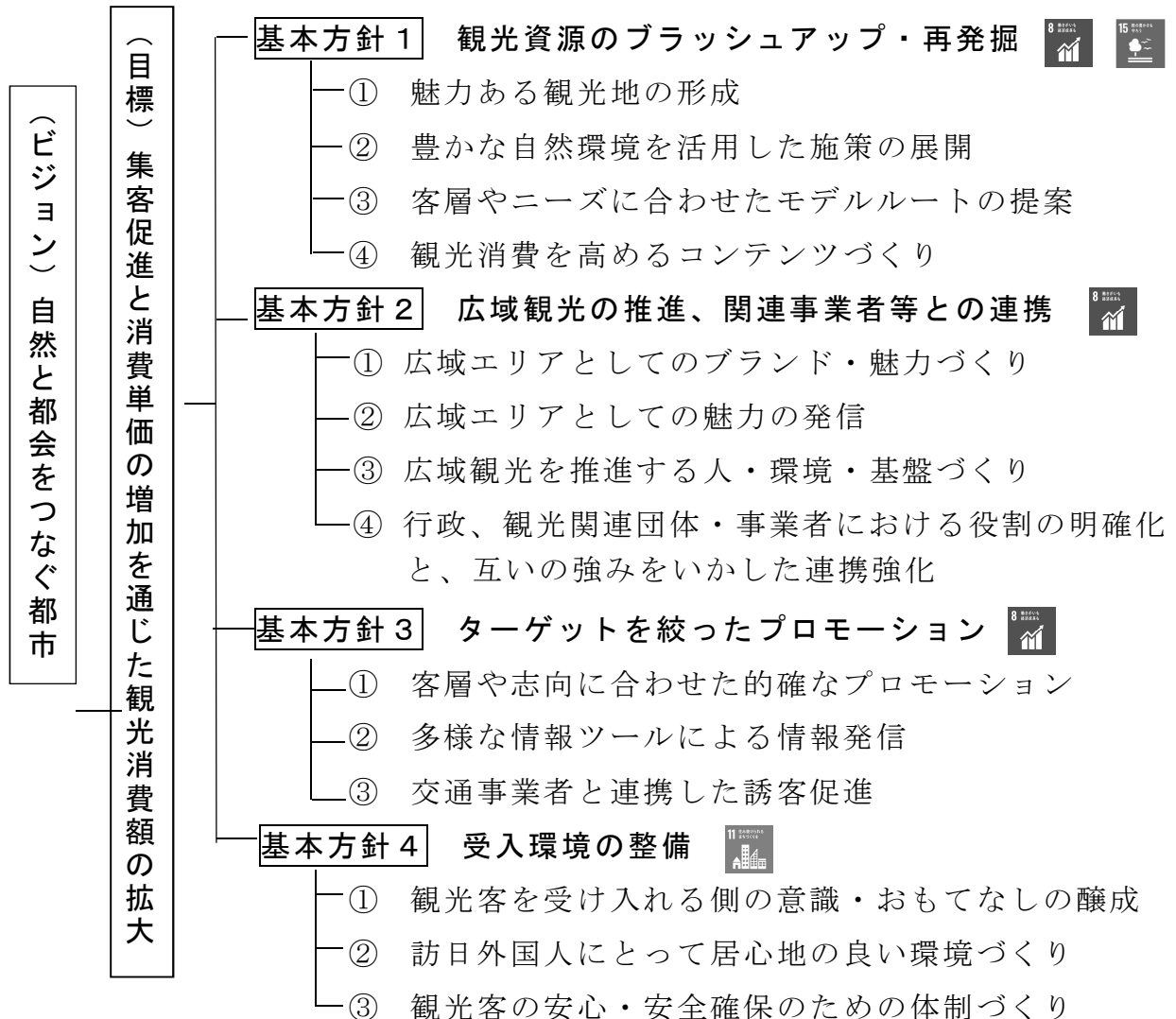
本観光振興計画の目標年次である令和8年度の目標を次のように設定します。

指標名	現状値 (令和元年)	目標値 (令和8年)
観光客数	2,942,000人	
宿泊客数	292,000人	
観光客消費額	173億円	

実態データに基づき、調査結果等を踏まえ
目標値を検討中

4 施策の体系

厚木市の強みである宿泊と飲食、イベントでの消費を維持しながら、観光地への集客を強化し、更なる観光消費額の拡大を図るため、次の4つの基本方針を掲げて施策を展開する。



資料編

1 観光を取り巻く社会経済環境の変化

(1) 人口減少、少子高齢社会の到来

我が国の人口は、平成 27（2015）年の 1 億 2,700 万人から、およそ 50 年後の平成 77（2065）年には 8,800 万人まで減少すると推計されている。人口の減少による経済活動の縮小が予想される中、観光にスポットを当てた交流人口増大による地域経済活性化への効果が期待されている。

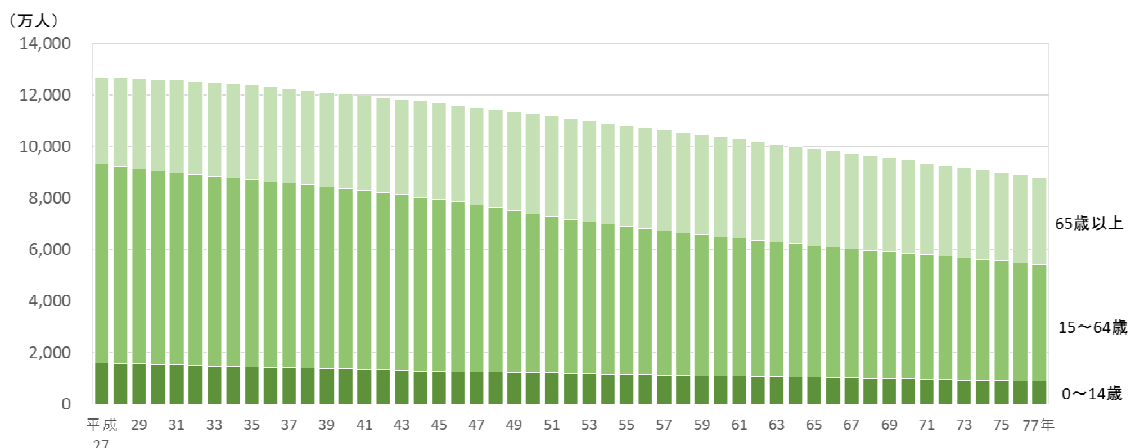


図 3 4 日本の将来推計人口

出典：国立社会保障・人口問題研究所（平成 29 年推計）

これに対し、本市の人口は、平成 27（2015）年をピークに減少に転じることが見込まれており、合計特殊出生率の上昇と 20 歳代の定住促進・転出抑制に取り組むことで実現することができる人口の将来展望として、平成 72（2060）年の目標人口を 197,617 人としている。



図 3 5 本市の将来推計人口

出典：厚木市人口ビジョン（平成 27 年推計）

(2) 地域活性化と観光の捉え直し

人口減少や高齢化が進む中で、農林漁業や商業など地場産業の衰退が目立つとともに、地域経済においては産業構造の変革に伴い雇用の不安定化や地域産業の縮小が懸念されている。

こうした状況に対応するため、今までの観光を捉え直し、観光振興による交流人口の拡大や地域の活性化を図ろうとする動きが強まりつつある。地域づくりと観光を連動させ、観光交流による地域活性化や地域経済の底上げ、地域の誇りの醸成などを目指す「着地型観光」や「滞在交流型観光」の推進に向けた取組が進められている。

(3) 交通ネットワークの拡充への対応

鉄道関連については、北陸新幹線や北海道新幹線が開通するなど、新幹線の高速度ネットワークが整備されつつある。

航空関連については、首都圏空港の機能強化を図るため、東京国際空港（羽田空港）の国際線旅客ターミナルビルの拡張、成田国際空港のLCC（格安航空会社）ターミナルの整備等により、両空港の年間合計発着枠75万回化を達成している。また、両空港の更なる機能強化に向け、東京国際空港（羽田空港）では国際線の増便が進められ、成田国際空港においては、滑走路の建設、延伸や夜間の飛行制限時間の短縮の検討が進められている。

高規格幹線道路ネットワークについては、首都圏では三つの環状道路の整備を進めており、一番外側である圏央道（首都圏中央連絡自動車道）では、平成28年度の茨城県内区間の全線開通により、東名高速道路から中央自動車道、関越自動車道、東北自動車道、常磐自動車道まで圏央道でつながったことで、都心の渋滞を避けて、定時性、定速性を保ちつつ、目的地に行けるようになり、観光交流の推進に寄与している。

また、新東名高速道路は、令和元（2020）年に伊勢原ジャンクションから伊勢原大山インターチェンジまでが開通した。また、令和5（2023）年度までに残りの伊勢原大山インターチェンジから静岡県の御殿場ジャンクションまでが完成予定となっており、各地の主要拠点間が高速道路によってつながりつつある。

(4) 情報化社会への対応

宿泊観光旅行の目的地を決定する際に参考にするものは、家族・友人・知人(32.7%)、宿泊施設の観光サイト(28.2%)が上位で、年々増加している。

その他、SNSが全体としては少ないものの年々増加傾向にあり、年代別に見ると20代は15%を超える利用率となっている。最近の観光地では、SNSなどを効果的に活用することにより、旅行者との間で双方向のコミュニケーションを行うことが可能になるなど、ICTの発達に対応した効果的な情報発信を進めることが重要となっている。

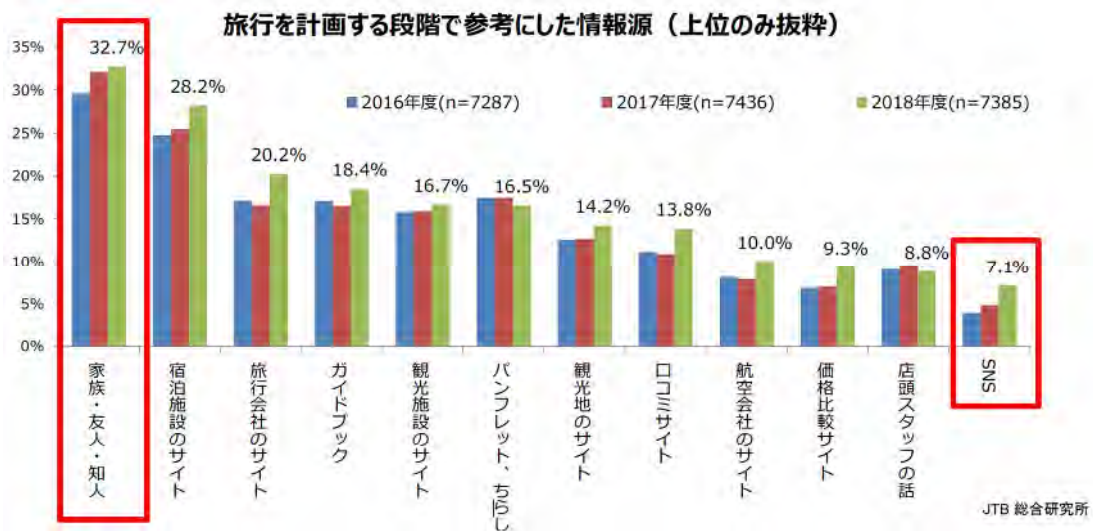


図 36 国内旅行を計画する段階で参考にした情報源

出典：進化し領域を拡大する日本人の国内旅行(2019)(JTB総合研究所)

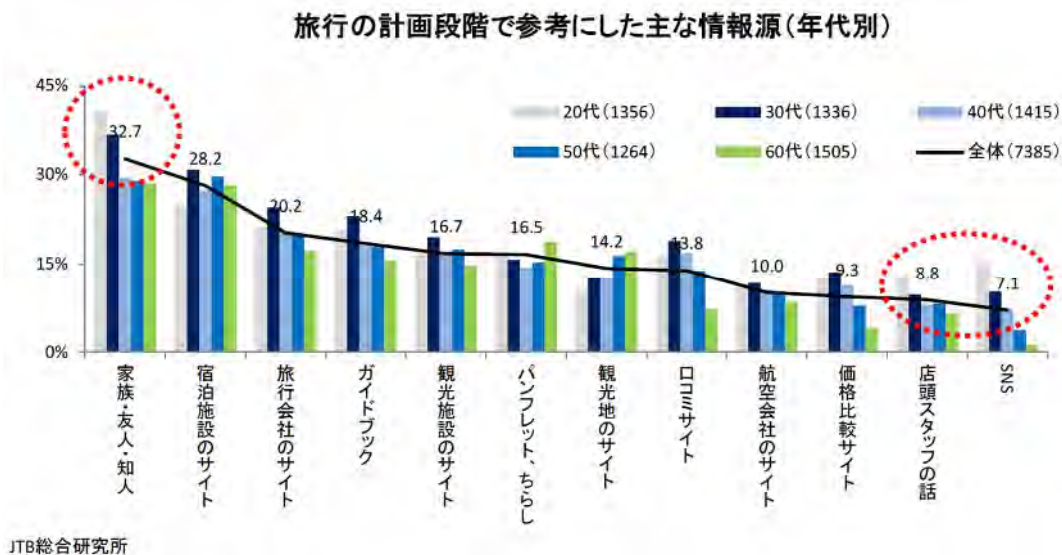


図 37 国内旅行を計画する段階で参考にした情報源(2018年・年代別)

出典：進化し領域を拡大する日本人の国内旅行(2019)(JTB総合研究所)

(5) 感染症等への対応

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大により、渡航の制限や自粛によって旅行者数が大幅に減少し、旅行業界に大きな影響が出ている。

今後、観光振興を進めるに当たっては、感染症対策を講じた「新しい生活様式」に沿った形での取組が求められる。令和2年5月には新型コロナウイルス感染症予防に対応したガイドラインを旅行業（日本旅行業協会・全国旅行業協会作成）、宿泊施設（全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会・日本旅館協会・全日本シティホテル連盟作成）などの業種別に策定し、随時更新されている。

今後、観光客の受け入れを進めるに当たっては、「新しい生活様式」に対応した、安心安全な観光地域づくりを目指すことが求められる。

(6) 令和3（2021）年東京オリンピック・パラリンピックの開催

令和元（2019）年にラグビーワールドカップが開催されるなど、日本国内での国際スポーツ大会の開催が相次いでおり、令和3（2021）年には東京オリンピック・パラリンピックの実施が予定されている。

外国人観光客の急増に伴い、都市部のホテルを中心として宿泊需給がひっ迫する状態が続くようになったことを受け、自宅や空室で宿泊サービスを提供する民泊への期待が高まっている。一方、こうした外需を地域経済の活性化に活用すべく、平成27年には関東1都7県の観光団体、鉄道事業者、旅行業者、地方自治体が「関東観光広域連携キャンペーン事業推進協議会」を設立するなど、国内の受入体制整備も進んでいる。

(7) 観光ニーズの多様化と変わる観光スタイル

近年、個人の価値観の多様化に伴い、観光客のニーズは従来の「見て」、「遊んで」、「食べて」、「泊まって」という旅行スタイルから自然や景観、街並み、歴史、産業など特色ある地域資源を「体験」したり、地元の人との「ふれあい」やその土地ならではの体験を求める『体験ツーリズム』など、これまでにない観光スタイルを望む観光客が多くなっている。そのため、集客規模は小さいが、地域らしさ、地元ならではの体験をセールスポイントにした地元企画型の観光商品づくりに向けた取組が全国各地で広がっている。

また、旅先での行動については、上位から自然の風景を見る（35.4%）、温泉浴（28.5%）、名所・旧跡を見る（26.8%）の順になっている。

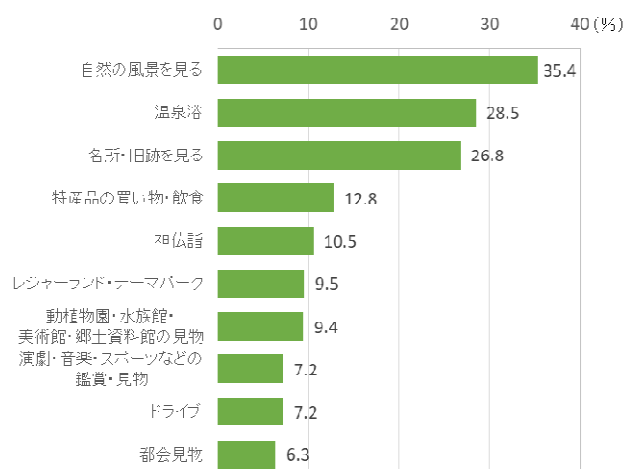


図 3 8 宿泊観光旅行の旅先での行動トップ 10 (2018 年度)

出典：数字が語る旅行業 2020 (日本旅行業協会)

近年の観光形態は、家族、友人、知人等と少人数で出かける個人旅行が主流となっており、旅行全体の個人旅行が占める割合は約 8 割強となっている。

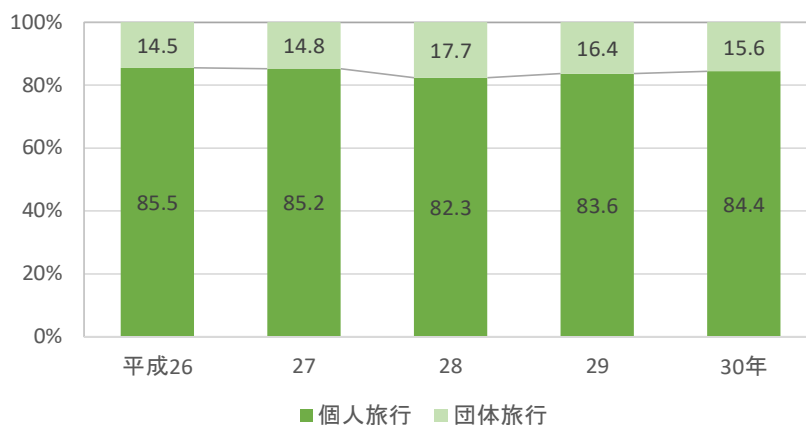


図 3 9 旅行形態別のシェア

出典：旅行年報 (日本交通公社)

厚木市の観光に関する調査、取組一覧

<現計画の計画期間（平成 29 年～令和 2 年）に策定された関連計画・調査等の取組み>

No	取組み名 (取組み主体／実施年度)	調査結果および取組の概要	記載事項の要点	計画において ふまえるべき事項
1	丹沢・大山・宮ヶ瀬エリアの活性化に向けた広域観光振興戦略 (広域行政連絡会(厚木市・秦野市・伊勢原市・愛川町・清川村)／令和元年度)	<ul style="list-style-type: none"> ○令和 5 年度の新東名高速道路全線開通を契機とした広域連携による観光戦略を策定 ○対象は、丹沢・大山・宮ヶ瀬地域を中心とした 3 市 1 町 1 村(厚木市・秦野市・伊勢原市・愛川町・清川村) ○地域内の連携強化と広域観光エリアとしての一体感の醸成を図るため、「入込観光客数の増加」・「宿泊者数の増加」・「観光消費額の拡大」を戦略における目指すべき目標として設定し、目標達成のために「広域観光エリアとしての魅力づくり・ブランドづくり」・「広域観光エリアとしての魅力の発信」・「広域観光を推進する人・環境・基盤づくり」の大きく 3 つの取組を実施 ○令和 2 年度は、「広域観光エリアとしての魅力づくり・ブランドづくり」の取組として広域観光マップの作成、「広域観光を推進する人・環境・基盤づくり」の取組として観光客受け入れに向けた行政担当者や地域事業者等を対象とした研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・丹沢・大山・宮ヶ瀬地域を中心とした、広域観光の視点で施策を整理している 	<ul style="list-style-type: none"> ・上位計画を整理する箇所に反映
2	厚木・愛甲エリアの活性化に向けた広域観光振興戦略 (厚木愛甲まちづくり研究会(厚木市・愛川町・清川村)／令和元年度)	<ul style="list-style-type: none"> ○今後の交通環境の変化(リニア中央新幹線・新東名高速道路・厚木秦野道路の開通等)による影響を踏まえた広域連携による観光戦略を策定 ○対象は、宮ヶ瀬地域を中心とした 1 市 1 町 1 村(厚木市・愛川町・清川村) ○持続的な地域づくりのための地域内外との連携体制の確立を図るため、「魅力づくりと地域内消費の拡大」・「地域で一体となったブランド確立と情報発信」・「観光振興を支える基盤の強化」を基本戦略として、また厚木・愛甲エリアに観光振興面で長期的かつ持続的な影響を及ぼす「リニア中央新幹線関東車両基地の観光資源化」を重点戦略として位置づけ ○今後、「リニア中央新幹線関東車両基地の観光資源化」の取組としてリニア中央新幹線の車両基地活用に向けた相模原市との新たな連携体制の構築や、「観光振興を支える基盤の強化」の取組として宮ヶ瀬ダム周辺振興財団(宮ヶ瀬 DMO)と連携した観光プロモーションなどを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮ヶ瀬地域を中心とした、広域観光の視点で施策を整理している 	<ul style="list-style-type: none"> ・上位計画を整理する箇所に反映
3	令和元年度(平成 31 年度)厚木市観光協会事業報告 (厚木市観光協会／令和元年度)	<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年度には、以下の取組を実施 ①広域からの誘客促進にむけ、小田急電鉄㈱の協力の下、観光キャンペーン「秋が彩るあつぎへようこそ」を実施し、駅での観光ガイドブックの配布、中吊り広告、全駅へのポスター掲示を実施 ②パブリシティの活用やイベント(新百合ヶ丘マルシェキャンペーン、神奈川県集中観光キャンペーン等)での宣伝活動の実施 ③厚木市観光ガイドブック「あつぎよくばり旅」の改定・増刷を実施 ④広域行政連絡会観光専門部会が実施した「ぐるっと丹沢・大山×宮ヶ瀬スタンプラリー」の関連事業で、冬季の観光資源を紹介したミニガイドブックや本市名産のいちご狩りに関するリーフレットを作成 ⑤英語版の観光ガイドブック「ATSUGI TRAVEL GUIDE」を作成し、市内宿泊施設、外国人ビジネスマンが多い事務所、観光事業者の施設、公共施設のほか周辺市町村及びキャンプ座間等に設置 ⑥七沢、飯山地区において、森林や温泉等の観光資源を活かした森林セラピー事業や専門家の講演を交えながら温泉や食事を楽しむ健康づくり大学の実施 ⑦(独)国際協力機構(JICA)が発展途上国の政府職員を対象に実施している「観光振興とマーケティング」研修を本市で受け入れ、健康づくり大学と森林セラピーを合わせたヘルスツーリズムを紹介 ⑧友好都市である糸満市で開催された「糸満フェア」に出展し、観光 PR や名産品販売を実施 ⑨情報発信の強化に向け、既存のホームページの充実や YouTube チャンネルでのドローンによる空撮動画等の公開を実施 ⑩広域連携による観光振興事業として、平成大山講プロジェクト推進協議会や広域行政連絡会観光推進専門部会、宮ヶ瀬湖周辺 DMO 推進ネットワーク会議へ参画し、大山や宮ヶ瀬の観光資源を生かした回遊性の高い観光ルートでの誘客や、宮ヶ瀬湖周辺の地域クーポン券の広報宣伝を実施 ⑪協会の自主財源確保、市民の利便性向上、本厚木駅周辺の交通整流化等を目的とした、中町大型バス発着場の運営を継続して実施 ⑫多様化する観光ニーズに対応するため、観光協会員や職員を対象とした研修を実施 ⑬入込観光客調査の実施(調査はあつぎ観光ボランティアガイド協会に依頼) ⑭観光案内所の運営(本厚木駅観光案内所、東丹沢七沢観光案内所、飯山臨時観光案内所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・厚木市観光協会では、本市独自の取組から、広域観光の推進を目指した取り組み等、幅広い取り組みを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取組を整理する箇所に反映

No	取り組み名 (取り組み主体/実施年度)	調査結果および取組の概要	記載事項の要点	計画において ふまえるべき事項
4	あつぎ観光ボランティアガイド協会ニュース 令和2年3月号 (VOL. 193) 令和2年8月号 (VOL. 196) (あつぎ観光ボランティアガイド協会/令和2年3月・8月)	【資料構成】 ・事業実施報告/会員投稿 ・コラム「気ままに歩いて」 ・編集後記 ・最近の活動報告(表整理) ・行事予定(表整理)	・ハイキングや史跡探訪のガイドの他、市・観光協会等が主催する観光行事の支援や観光関連の研修会、あつぎ観光ボランティアガイド協会ニュースの発行等を実施	・現状の取組を整理する箇所に反映
5	あつぎ観光ボランティアガイド協会 第16回通常総会議案書 (あつぎ観光ボランティアガイド協会/令和2年4月)	○令和元年度には、以下の取組を実施 ①歴史探訪に関する活動(協会企画のガイドツアー、依頼によるガイドツアー、会員向け研修を実施) ②ハイキングガイドツアー ③各種イベント支援(あつぎ鮎まつりなどのイベント、臨時飯山観光案内所の実証実験、白山ハイキングコースの点検整備、観光客入込調査など) ④森林セラピー支援活動(飯山・七沢の森林セラピー基地内のコースに専門の案内人を配置) ⑤外部研修参加(かながわガイド協議会、県西観光ボランティアの会主催イベントに参加) ⑥学習発表会・企画ガイドに関する勉強会 ※ボランティアガイド養成講座は、応募者がなく開催中止		
6	位置情報を活用した観光動向情報 (株式会社KDDI×株式会社コロプラ/令和元年度)	○調査目的:本市に来訪した人の観光動態から、来訪者全体の傾向を把握する。 ○調査期間:平成31年1月~令和元年12月 ○調査対象:30分以上本市に滞在し、本市居住者・通勤者、勤務地への立寄り、短距離のみの移動がない人。 ○調査方法:本市へ来訪した3000人のスマートフォンの位置情報データを活用した観光客の動向調査を実施 ○本市を訪れた観光客の傾向は以下の通り ①発地分析 ・都道府県別の来訪状況は、神奈川県内からの来訪が半数以上(53.3%)を占めている。県外からの来訪は、東京都(17.9%)、埼玉県(6.4%)、千葉県(4.5%)、静岡県(3.0%)、山梨県(1.7%)の順に多く、東京をはじめとした近隣県からの来訪が中心。 ・市区町村別の来訪状況は、小田原市(3.8%)、秦野市(3.4%)、平塚市(2.9%)、伊勢原市(2.4%)の順に多く、近隣や小田急線沿線の自治体からの来訪が中心になっている。 ②属性分析・旅程分析 ・性別・年代別の全体に占める割合は、男性35~49歳(24.4%)が最も多く、以降は男性15~34歳(20.8%)、男性50歳以上(19.4%)、女性15~24歳(14.9%)、女性35~49歳(10.4%)、女性50歳以上(10.1%)の順となっている。 ・日帰り客・宿泊客の割合は、日帰り客が約6割(61.7%)、市内宿泊施設を利用した宿泊客が約2割(18.3%)、市外宿泊施設を利用した宿泊客が約2割(20.0%)となっている。 ③宿泊地分析 ・本市に訪問し、市外に宿泊した人の宿泊先は、伊勢原市、海老名市、愛川町などの近隣市町村が多くなっている。 ④滞在時間分析 ・滞在時間の平均値は、訪問者全体では3時間16分である。旅程別にみると、日帰り客は2時間21分、市内宿泊施設を利用した宿泊客は8時間10分、市外宿泊施設を利用した宿泊客は2時間8分となっている。 ⑤時間帯別流入出者・滞在者分析 ・訪問者の流出・流入時間について、訪問者全体・日帰り客・市外宿泊施設を利用した宿泊客は流入のピークは9:00、流出のピークは16:00となっている。なお、市内宿泊施設を利用した宿泊客は、流出・流入の動きがあまり見られない。 ⑥基本エリア内周遊分析 ・市内の周遊について、本厚木駅のある「泉町」と、「七沢」・「飯山」方面への周遊している人はごく少数である。 ⑦基本エリア外周遊分析 ・周辺自治体との周遊についてもあまり見られず、最も多い伊勢原市で153人(全体の5.1%)、次いで愛川町との周遊が112人(全体の3.7%)、清川村との周遊が12人(全体の0.4%)となっている。	・来訪は神奈川県と東京をはじめとした近隣県からが中心 ・男性かつ中年代の来訪が多い ・日帰り利用が中心 ・市内外への周遊行動があまり見られない	・①発地分析の結果を踏まえ、市外向けアンケート調査の対象地域を設定 ・市内の観光動向の整理に反映

No	取り組み名 (取り組み主体/実施年度)	調査結果および取組の概要	記載事項の要点	計画において ふまえるべき事項
7	「じゃらん net 観光情報分析」 (じゃらんリサーチセンター/令和元年度)	<p>○調査目的：本市におけるじゃらん net での口コミやじゃらん経由で予約した人の宿泊者情報を把握することで、本市の観光資源の認知度や満足度、宿泊者の傾向を把握する。</p> <p>○調査期間：平成 31 年 1 月～令和元年 12 月</p> <p>○本市を訪れた観光客の傾向は以下の通り</p> <p>① 口コミ分析</p> <p>(1) 観光スポット</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光スポットの満足度・認知度について、満足度は比較的高い施設が多く、神奈川県や首都圏の平均値 4.0 以上の施設が全体の 20 施設のうち 13 施設となっているが、認知度は低い傾向にある。 <p>(2) 宿泊施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設の満足度・認知度について、総合評価の満足度が高い施設はあまり多くなく、神奈川県や首都圏の平均値 4.1 以上の施設は全体の 16 施設のうち 5 施設にとどまっている。また、認知度は施設によってばらつきがある。 ジャンル別の満足度を見ると、部屋・風呂・料理（朝食）は神奈川県や首都圏の平均値を下回っている施設が半数以上みられる。 <p>※ここでの満足度は「口コミの平均評価」、認知度は「口コミ件数」によって算出している。</p> <p>② 宿泊分析</p> <p>(1) 人泊数推移</p> <ul style="list-style-type: none"> 2017～2019 年にかけて減少傾向にあり、毎年 5%ほど宿泊者数が減少している。 毎年 3 月・5 月・8 月・12 月に宿泊者が多くなる傾向にある。 <p>(2) 予約者属性</p> <ul style="list-style-type: none"> 性別では男性が 70%（神奈川県全体では 60%）前後で、女性の来訪が少ない傾向。 年代別では、40 代の予約が最も多く 30%（神奈川県全体では 25%）前後、次いで 50 代が 20%（神奈川県全体では 17.5%）前後と、40～50 代で約半数を占めている一方、10～20 代の利用は 17%（神奈川県全体では 23%）ほどで、若者の利用は少ない傾向にある。 グループサイズは、1 人での利用が 65%（神奈川県全体では 45%）前後と最も多く、3 人以上やファミリーでの来訪は 10%未満（神奈川県全体では 15%前後）となっている。 <p>(3) 発地分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 都道府県別の来訪状況を見ると、神奈川県内からの来訪が最も多く 25%（神奈川県全体では 20%）前後を占め、次いで東京都が 15%（神奈川県全体では 18%）ほどとなっている。その他、埼玉県、愛知県、千葉県、静岡県などがそれぞれ 5～8%程度を占めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光スポットは、満足度は高いが認知度は低い傾向 宿泊施設は、満足度はあまり高くなく、風呂・料理（朝食）は神奈川県や首都圏の平均値を下回っている施設が多い 宿泊は、単身出張での利用が多く、若者や女性の来訪はあまり見られていない 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の観光動向の整理に反映
8	雑誌「とーりまかし」2019 年 9 月号掲載記事 観光のもやもやサイエンス	<p>○じゃらん宿泊旅行調査 2019 における「地元の人ホスピタリティを感じた」都道府県別ランキングで上位にランクインする場所の特徴として、サービス業に従事している人の評価が高い県と、地元民の県民性や彼らとのコミュニケーションが評価されている県の 2 つが挙げられる。</p> <p>○地元住民のふるまいひとつで旅の思い出が大きく左右されることから、旅行者の満足度を上げるためには、おもてなしの向上への地元住民の協力が不可欠になる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者の満足度を上げるためには、おもてなしの向上への地元住民の協力が不可欠 	<ul style="list-style-type: none"> 施策の基本方針 3①「観光客を受け入れる側の意識・おもてなしの醸成」の説明に記載

厚木市民の観光振興に対する意識調査結果

1. 調査目的

厚木市観光振興計画策定に当たり、現計画策定時点からの観光を取り巻く動向への変化を鑑み、市外在住者の厚木市の観光ニーズや、市民の観光振興に対する意識について把握するために、2種の調査を実施した。

本調査では厚木市の住民を対象に、観光振興に関する認知・意識、観光産業への関わりなどについて確認するとともに、今後の観光施策に対する要望および意識を把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

2. 調査概要

アンケート調査の実施概要を以下に示す。

調査名	厚木市民の観光振興に対する意識調査
調査対象	厚木市内の在住者
サンプル数	WEB形式：600 サンプル 紙形式：408 サンプル ※「男女比」が半数ずつとなるように割付
調査期間	WEB形式：8月21日（金）～8月23日（日） 紙形式：8月20日（木）～8月30日（日）
調査手法	WEBアンケート形式と紙形式を併用 WEB形式：WEB上で設問に回答可能なアンケートフォームを構築し、条件に対応したモニターが各設問に回答 紙形式：クーポン当選者へのクーポン販売時に併せ配布 (クーポンは市民、市外共に購入可能ではあるが、主に市民が購入するものと想定)
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・厚木市の魅力、誇れる観光資源 資源の認知度・お薦めしたい観光資源／力を入れるべき観光資源のジャンル ・観光振興における懸念事項・心配事・意見等 ・属性 年齢／性別／職業／世帯構成

3. 調査結果の概要

(1) 厚木市の魅力、誇れる観光資源

- ✓厚木市の観光資源の認知度は、「あつぎ鮎まつり（花火大会）」が98.2%、「とん漬（豚肉味噌漬け）」が96.2%、「厚木ホルモン」が95.8%となっている。
- ✓お薦めしたい観光資源は、「あつぎ鮎まつり（花火大会）」が66.3%、「厚木ホルモン」が49.1%、「とん漬（豚肉味噌漬け）」が45.6%となっている。
- ✓今後市内で力を入れるべき観光資源のジャンルとしては、「温泉」が43.8%、「自然・風景」が42.2%、「グルメ・名物」が40.8%となっている。

(2) 観光振興における懸念事項

- ✓今後の厚木市の観光振興における懸念事項・心配事としては、「交通渋滞の発生」が47.4%、「感染症の拡大」が41.7%、「ごみの増加」が37.6%となっている。

4. 各設問の調査結果

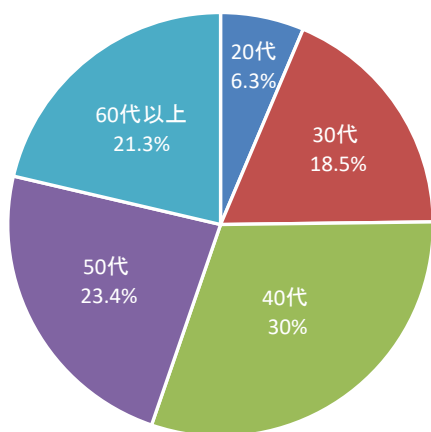
(1) 属性

○回答者の年代は、「40代」が30%と最も多く、次いで「50代」が23.4%、「60代以上」が21.3%となっている。

○回答者の職業は、「会社員」が41.3%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が19.5%、「主婦」が18.8%となっている。

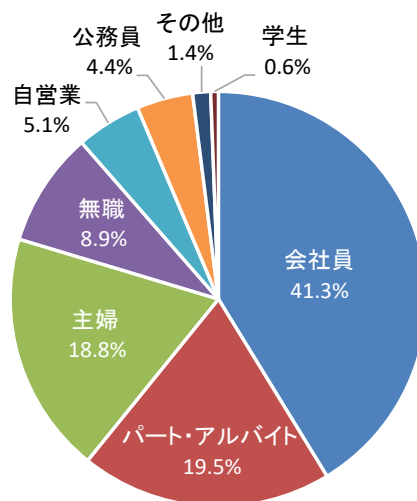
○回答者の世帯構成は、「配偶者又はパートナー」が44.4%と最も多く、次いで「親又は子と同居」が31.6%、「ひとり」が7.9%となっている。

ア 年代



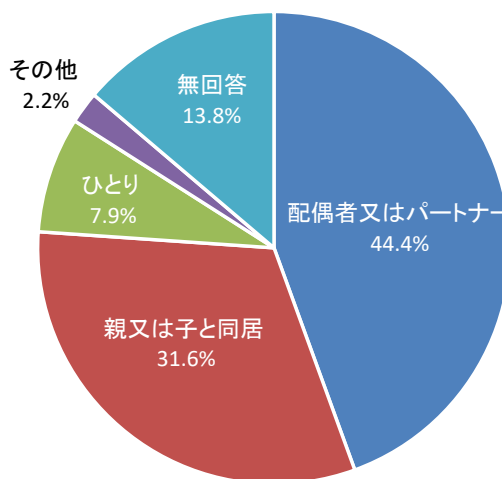
[n : 1008]

イ 職業



[n : 1008]

ウ 世帯構成



[n : 1008]

(2) 厚木市の魅力、誇れる観光資源

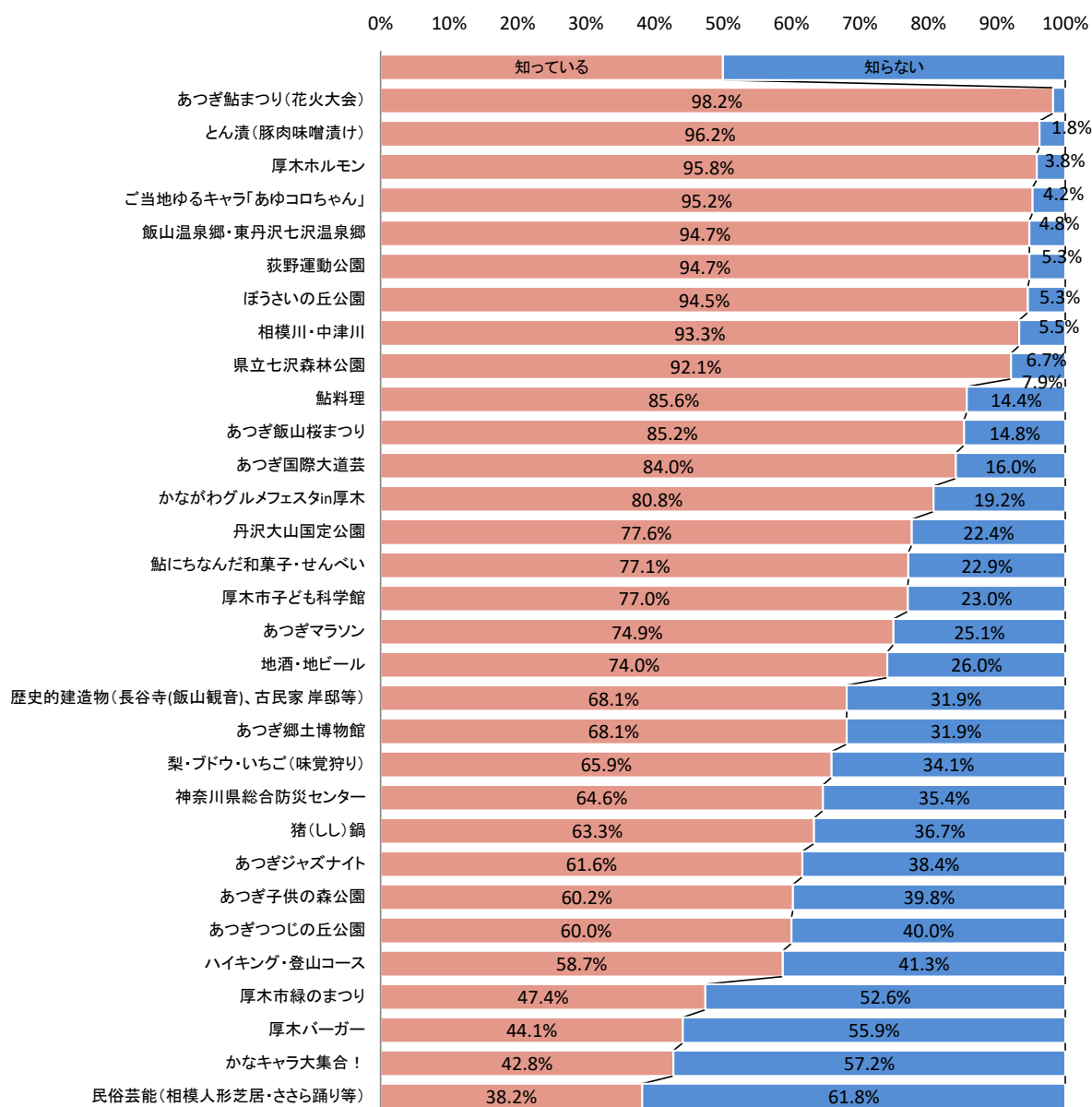
ア 厚木市の観光資源の認知度、お薦めしたい観光資源

○各観光資源の中で、「知っている」と回答した割合は「あつぎ鮎まつり（花火大会）」が98.2%と最も多く、次いで「とん漬（豚肉味噌漬け）」が96.2%、「厚木ホルモン」が95.8%となっている。

一方で、「知らない」と回答した割合は「民俗芸能（相模人形芝居・さらさ踊り等）」が最も多く61.8%、次いで「かなキャラ大集合！」が57.2%、「厚木バーガー」が55.9%となっている。

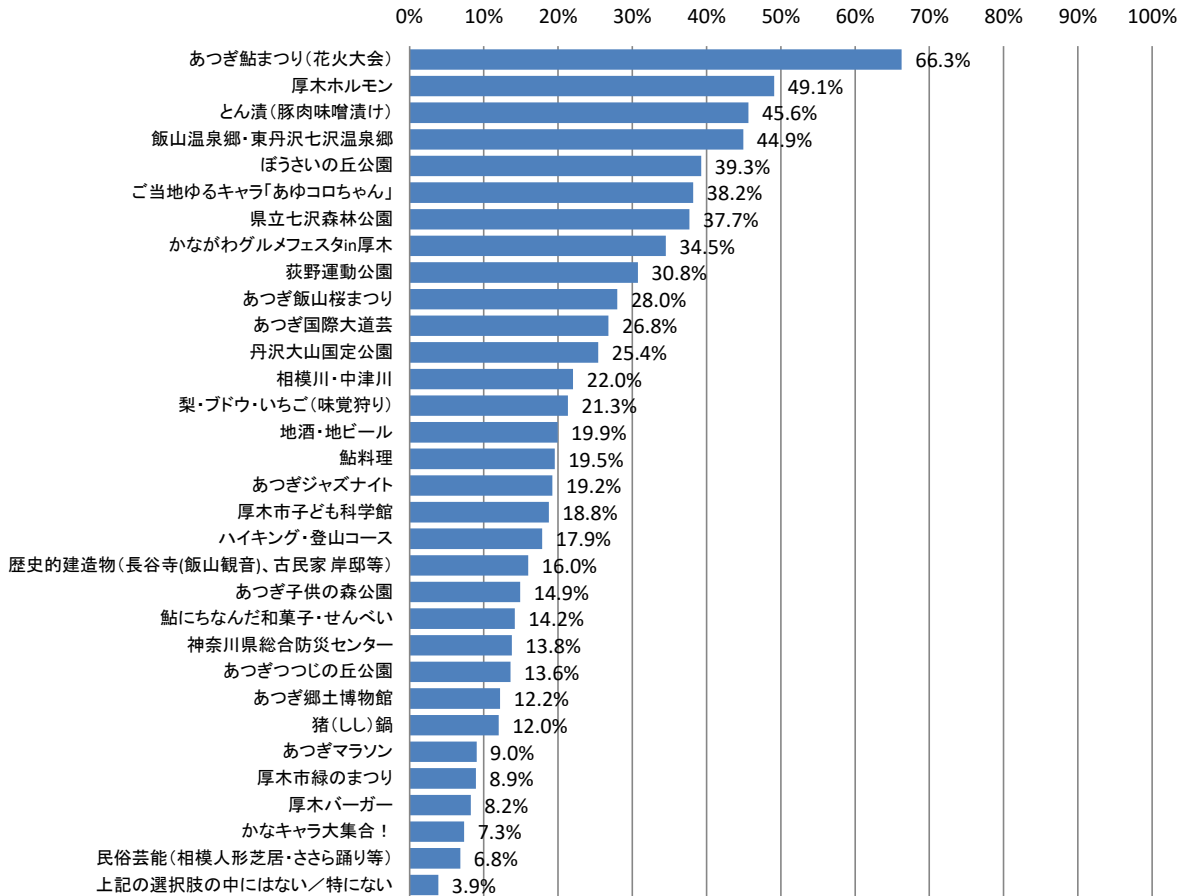
○各資源の中で「お薦めしたい観光資源」としては、「あつぎ鮎まつり（花火大会）」が66.3%と最も多く、次いで「厚木ホルモン」が49.1%、「とん漬（豚肉味噌漬け）」が45.6%となっている。

<認知度>



[n=1008]

<お薦めしたい観光資源（複数回答）>



[n=1008]

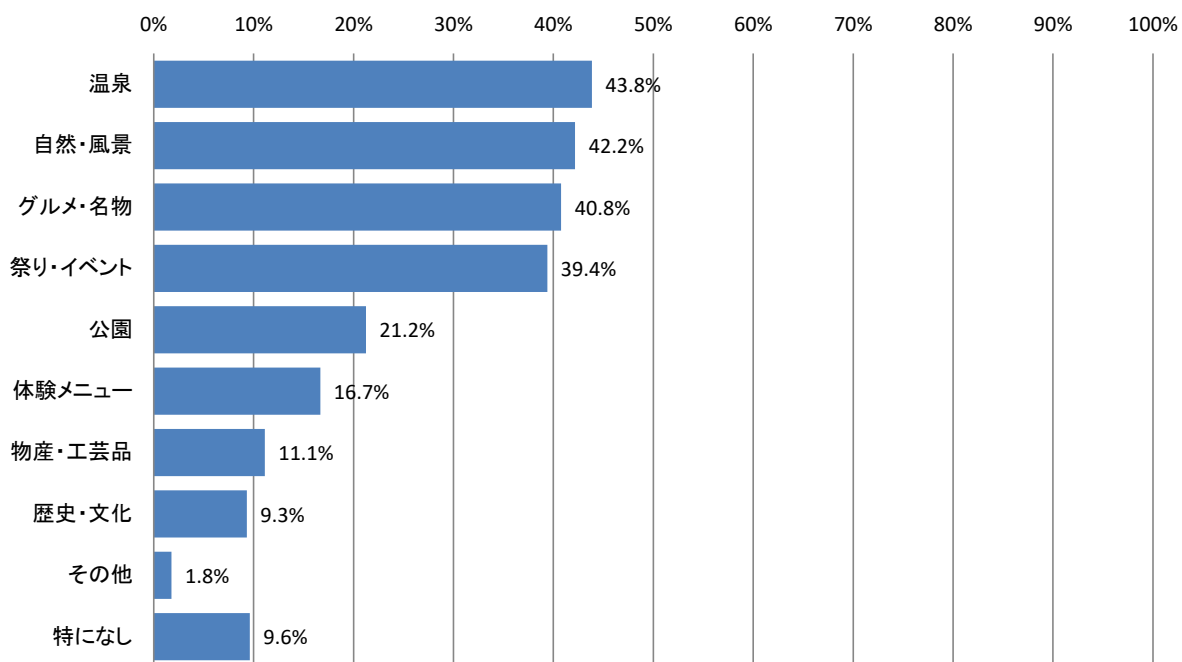
<その他の自由回答（紹介したい観光資源）>

分類	記載事項
自然・風景	<ul style="list-style-type: none"> 相模川の散歩コース 三田の広大な田園風景 恩曾川親水公園&河川散歩道 厚木市のインターチェンジ周りの景観 三川合流地点（魚釣り、水遊びをするのに良い） 相模川でバーベキューや鮎釣り 中津川川端の景色 相模大橋、あゆみ橋 荻野川 鳶尾山・鳶尾山展望台 七沢森林公園のバーベキュー場（手ぶらで楽しめる） 相模川の桜 高松山、高松山のハイキング 宮ヶ瀬ダム 丹沢山系が一望できる。 あゆみばし 服部牧場 相模川のバラ園 若宮公園 名水 昔ながらの農業用用水路 七沢ツリーアドベンチャー、グランピング フラワーパーク下依知のひまわり畑 七沢自然センター 鮎つかみどり 野鳥 厚木産の花、野菜 自転車やランニングがしやすい地形 地形（谷、ポットホール、オニオンストラクチャーなど） 相模川河川敷の遊歩道（ジョギングや散策の道） ホテル

分類	記載事項	
グルメ	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーセージ ・ラーメン ・夢末市や朝市、夕焼け市 ・路地野菜 ・厚木ハム ・あつぎ豚 ・洋菓子店（ツリーオープン、幸せの丘、ボニー、など厚木にしかない美味しい店が複数ある） ・ケーキハウス幸せの丘 ・東京農大収穫祭 	<ul style="list-style-type: none"> ・パン屋のフンパン ・パン屋（ユニックなど横浜元町のブラフベーカリーの流れをくむパン屋） ・江戸屋養豚場のお肉 ・市内の食堂 ・荻野パン ・七沢かぼす ・自家製焙煎コーヒーの店 ・老舗の中華料理屋 ・丹沢あんぱん（オギノパン）
歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・神社巡り ・荻野山中藩陣屋跡、七沢城址 ・愛甲三郎伝説の史跡巡り ・大釜弁財天 ・お水取りの場所等（占いの吉方位をとるもの） ・小野神社 	<ul style="list-style-type: none"> ・神社仏閣や遺跡など ・大山阿夫利神社 ・毛利発祥の地 ・三嶋神社 ・相模国飯山白龍太鼓
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・アミューあつぎ（旧パルコ） ・ゴルフ場（本厚木ゴルフ場、厚木国際ゴルフ場、大厚木ゴルフ場、中津川ゴルフ場など） ・かぶと湯温泉 ・ふれあいプラザ ・飯山の元湯旅館（ドラマや映画にもよく使われているので。） ・厚木トレリス 	<ul style="list-style-type: none"> ・妻田のドンキホーテ ・日産テクニカルセンター ・内陸工業団地 ・妻田のガラス工房 ・湯か楽 ・工場見学ツアー
人物	<ul style="list-style-type: none"> ・いきものがかり ・榊原郁恵 	
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・厚木中央公園で行われるフリーマーケット（規模が大きくて楽しい） ・駅前の冬のイルミネーション、年末の本厚木駅北口のイルミネーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスレジェント、ミュージカル ・恩増川のこいのぼり、森の里のこいのぼり
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーチーム 	

イ 今後市内で力を入れるべき観光資源のジャンル

○今後市内で力を入れるべき観光資源のジャンルとしては、「温泉」が43.8%と最も多く、次いで「自然・風景」が42.2%、「グルメ・名物」が40.8%となっている。



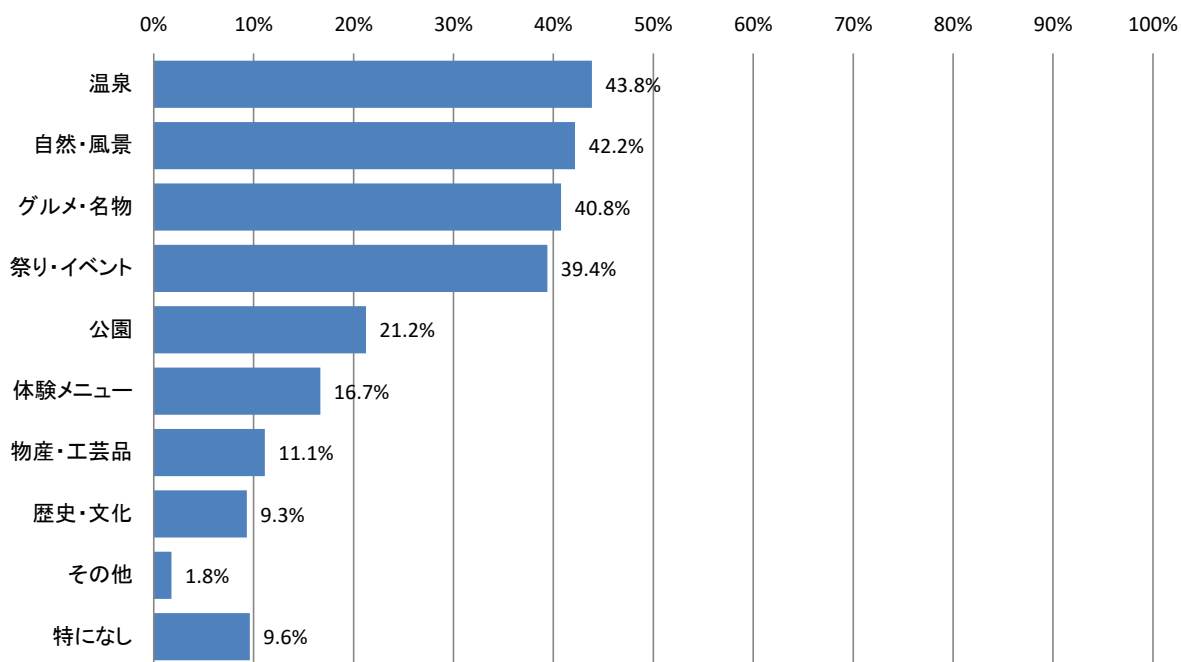
[n=1008]

<その他（自由回答）>

- 商店街の活性化
- 本厚木駅周辺の再開発
- 道路整備（少し奥になると道がガタガタたから）
- 内陸工業団地内にある企業と協力したイベント
- 芸術
- カヌー
- 子育て支援
- あゆコロちゃん
- ダイエット講座
- 駅周辺の充実
- 工場見学
- バーベキュー
- ジョギング
- サイクリングロード

(3) 今後の厚木市の観光振興における懸念事項・心配事

○今後の厚木市の観光振興における懸念事項・心配事としては「交通渋滞の発生」が47.4%と最も多く、次いで「感染症の拡大」が41.7%、「ごみの増加」が37.6%となっている。



[n=1008]

<その他（自由回答）>

- ・治安の悪さ
- ・駅から遠いこと
- ・海老名を意識しすぎること、または現状維持による衰退
- ・昔ながらの人たちのやり方では観光客が来ないこと
- ・人口減少
- ・過疎化
- ・シャッター街エリアの未活用
- ・海老名市に全部持っていかれる、衰退化
- ・観光資源が乏しい
- ・外国人に来てもらいたくない
- ・登山客のヒル、クマ
- ・駅周辺のマンション
- ・路上駐車
- ・風俗店、キャッチが多いこと

(4) その他、厚木市の観光の現状や今後の観光振興等についての意見・感想

(自由回答)

※別紙を参照

《その他、厚木市の観光の現状や今後の観光振興等についての意見・感想（自由回答）》

(1) 肯定的な意見

分類	意見
自然・公園	<ul style="list-style-type: none"> ・つつじの丘公園のつつじは本当に綺麗なので、もっと皆に周知して欲しい。 ・厚木市はいろいろな魅力のある町だと思います。特に子どもが生まれてからは公園や緑・豊かな場所に気軽に遊びに行ける所が気に入っています。このコロナ渦では中止になってしまったイベントもたくさんあるので、また復活した際には遊びに行きたいです ・ぼうさいの丘公園の鮎つかみどりをまた是非やってほしい。 ・自然豊かな所（山、川、温泉など）が良い ・自然があふれていて良い、自然を残してほしいです。
温泉	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉が意外と知られていないが良い ・七沢、飯山温泉はとても泉質も良いが市民にもあまり知られていないし利用されていないことがもったいない。箱根の陰に隠れてしまいもったいない。小田急新宿や他社地域の電車にも広告をうつ。登山と入浴のセット券の発行。
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプやBBQが出来るのも魅力的 ・長谷寺？は民間だとおもうが有料になって良かったと思う。 ・厚木には七沢城がある。百名城、続百名城には入らなかったが、もし次の百名城の選定があったとしたら、推してみても？歴史的にも山内上杉と扇谷上杉の争いのあったところで、それなりに重要なポイントと思う ・名門ゴルフ場が多いのでTV等でもっと発信してほしいと思う。
くらし	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな災害もない街です ・厚木に住んでいると、生活するにはちょうどいいという声が多いので、短期ステイ等をうまく利用するのも手だと思う ・子育てがしやすくとても住みやすい市 ・家族で楽しめるイベントや自然な場所が多く、PRも行き届いていると思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が増えることによって、一番街などの空き店舗がなくなるといいなと思います ・楽しい体験やイベントが増えたら参加してみたいです ・厚木スマートインターができる事でもっと観光客が増えると思います。 ・プレミアム券は良い試みだったと思います。 ・今回のプレミアム観光券はネットで知った。こんな割安のチケットは大変ありがたい。 ・お祭りなどの事業を楽しみにしている。 ・コロナの影響で遠方へ出かけるのが厳しい中、観光券を利用して厚木市内のまだ行ったことのないお店などに行ってみようと思っている。またこのような企画を用意して欲しい。 ・中央公園でのお祭りが早く開催されることを楽しみにしている。 ・地産地消イベントを楽しみにしている。

(2) 否定的な意見 (1/5)

分類	意見
自然・公園	<ul style="list-style-type: none">・ローズガーデン、できると聞いた時にはとても楽しみでしたが見てびっくり、規模がしょぼかった（泣）もったいないです。作るのであればもっとちゃんとしてほしかった。・相模グリーンライン、相模川周辺等、他市と連携しもっとサイクリングロードを増やしてほしい。現状未整備の所が多く、路面もガタガタで中途半端。このままでは勿体ないと思う。・本厚木駅前開発、新東名、戸田や酒井の会社拡大など、身近な場所の田や畑が変わってしまい交通量が増えて穏やかな農産の多い時期と比べ、生活しにくくなっているので、農家の方々の協力で農業存続に力を入れて欲しい。・素敵な温泉があるのに市民には高すぎ、あまり利用することはない。部屋は立派だが料理がいまいち、友人、親戚にもすすめられない。小田急線の便が良いので来やすいですが温泉は箱根がいい・中津川のバーベキュー後のごみの放置が心配。・河川管理をもっとしっかり行うべき。・七沢温泉の泉質が素晴らしいが、値段が高く気軽に利用できないと感じた。道後や別府などと比べて日帰り入浴なども高い。
交通	<ul style="list-style-type: none">・もっとバス停が分かりやすければいいと思う。・市民が日常生活に不便するほど、公共交通機関が発達していないので、観光振興のためにも小田急線以外の電車の乗り入れや、ポシャってしまったモノレールなどを考えていくべきだと思う。・どの施設も駐車場の整備、増設が必要ではないか・田舎はバス代が高く、本数が少なく不便。高齢者や働き盛りの人に全く優しくない。・交通系の仕事に就いていたので実体験としてあるが、やはり交通の難は否めない。小田急、高速道路、相模川にかかる一般道、どれかひとつトラブルで長時間止まると厚木市内はたちまち大渋滞となる。・渋滞が多い・駐車場は有料でもよいのであったほうが良い。・国道 246 号の渋滞解消・ロマンスカーの発着本数の減少・事業的にも生活的にも幹線道路と地域道路の平面交差が厚木市の致命的な弱点。これが解消されなければ厚木市の将来的な発展は考えられない。・商業施設や駐車スペースは不便で市外からの人はこない・魅力がある大きな商業施設がない上に、駅周辺は駐車場も高ければ公共施設に行くにも無料の駐車場がないのは問題あり。・もっと公共交通機関が便利になれば、良いと思います。・本厚木駅周辺はとにかく駐車場がなく不便である。 駐車場優待も少なく、駐車場代を別にだしてまで駅周辺に滞在したいかといわれると NO です・温泉へのアクセスが悪い。車でないと行きにくい。・駅前のイベントが多いが駐車場がなく困る・交通が不便なので、観光に来た友達を案内するときも自家用車が必要。バスも一旦駅を経由しなければならないのが不便。・無料駐車場に群がり、近隣住宅地付近に無断駐車。・フラワーガーデン等、公園に付属させるようなこと。駐車場は絶対に必要。・交通渋滞をなくす、バスが本厚木駅中心に放射状にしかでていないので改善してほしい。・七沢、飯山等への交通アクセスを充実させること

(2) 否定的な意見 (2/5)

分類	意見
交通	<ul style="list-style-type: none"> • 車でのアクセス（特に駐車場）の整備をきちんとして欲しい。公園や祭りの際不十分だと思う。 • 通勤時間帯の本厚木ー横浜の直通バスが欲しい。
施設	<ul style="list-style-type: none"> • 駅周辺は寂れてしまっているの、郊外の施設を利用した観光振興に活路を見出すしか道はない。 • 本厚木駅周りの活性化 • 郷土資料館をもっと活性化したらどうかと思う。アクストビルの最上階の利用。 • ショッピング施設がない。 • 海老名のショッピングモールに押されて、厚木市内に住んでいる人がみんな海老名に行っているの、本厚木の周辺の再開発を行ってまずは、厚木市民を厚木市内で買い物してもらえようとする政策の方が観光より重要。 • 青山学院大学や昭和音楽大学を奪われた政治的手腕が残念。 • 海老名が、大型の施設で勝ち目はありません。 • 駅周辺で子供たちが遊べる場所、くつろげる場所（施設）を増やして欲しい。 • 大型商業施設の誘致、古くて買い物する所が少ない。 • 飯山観音が大好きでしたが最近参道が整備されてしまい自然な感じがなくなり残念。駐車場が有料高すぎる。無駄な開発はやめて欲しい。厚木の良さ他にはない強みを見つめ直し、大好きな厚木のままで輝いて欲しい。 • 駅前だけでも観光客に向けた案内表示等をもう少し増やした方が良い。 • 子育て世帯が低価格で利用できるレジャー施設を増やして欲しい。 • 駅周辺がさびれているし、行こうと思わなくなっている。
イベント	<ul style="list-style-type: none"> • 鮎まつりとグルメフェスタ以外にあまり人が来ているイメージがない。 • 単発のイベントばかりやっていて、市の振興には役立っていないと思う。（シロコロホルモンやゆるキャラ、屋台など、同じイベントばかりやっていて、長期的な活性化には繋がっていない） • 飯山の桜まつりは規模が小さいのでやるなら一面花畑とかピンクの濃い桜を一面に植えるとか、遠くから見に行く価値のあるものでなければ、やる意味がない。それができないなら、やらない方がまし • 厚木花火大会は、住宅街まで見学客が大勢来て、子供を外に出せなくなる。イベントでは、住宅街への配慮をしてほしい。 • 夏の花火大会は人が多すぎて、駅で気分悪くなり、2度と行かない。 • 各種まつり（特に秋）のイベントが重なっていて残念（農業まつり、大道芸、大学の学園祭、七沢まつり、学校の運動会など）。広報やイベント会場の場所などがわかる地図が欲しい。 • 駅近くであると行きにくいことが多い、是非駅から離れたところでのイベントも開いてほしい。 • イベントの時に困るので、中央公園のトイレが少なく汚いのをどうにかして欲しい。大道芸は毎日同じだから飽きる。 • あつぎマラソンは市民大会なので時間制限なしの方向で検討してもらいたい（老若男女参加、だれでも参加できる大会にして欲しい）。 • グルメフェスタ毎年楽しみにしているのにできなくて残念。
グルメ	<ul style="list-style-type: none"> • もっとめいぶつ料理みたいなものが欲しい • 七沢のレストランの閉店が目につきます。 • 鮎料理を食べたいが塩焼きをザッと食べられるような店がない。 • 今あるグルメもおいしいが旅行に行くところこの地域も似たりよったりなのでもうひとひねりほしい。

(2) 否定的な意見 (3/5)

分類	意見
<p>新型 コロナ ウイルスによる影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> • すべてコロナの驚異がおさまってからです。 • 厚木市内の駅前となる本厚木駅構内の店が、今回のコロナウイルスの関係で店を閉めたところが多く、改札を出て目の前の店からシャッターが閉まっているので今後の観光については不安がつもの。 • コロナでイベント系は中々行きづらい。 • コロナ影響していると思う。 • With コロナとどう向き合っていくか。 • 今はコロナの時期なのでなにもして欲しく無い
<p>くらし</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 住民にもっと税金還元、暮らしやすく優しくしてほしい。市役所職員だけは平均で日本一高い給料を貰っているという… • マナーが悪い • 公園など夜遅くまで騒いでいる人がいるので、取り締まって欲しい • 治安悪い • マナーを守ること。いかがわしい店の排除。 • 高層ビルがかなりたってきたが、小学校など子育てに向けた支援がもっと必要。こんかいコロナでも妊婦やうまれるこどもにたいしても支援がなかった。 • 外国人のトラブル、迷惑が多いので閉鎖的になって欲しい • 観光に限らず、ポイ捨てなどのマナーが悪い。 • 観光客の増加に伴う雑多感が心配、きれいな駅前になると良い。 • ごみの増加で困っている。資源ごみを出す際にセンターの対応が良くないので考えて欲しい。
<p>PR</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 観光のアピール（伊勢原、秦野等から比べるとアピールたりない） • 七沢、広沢寺、飯山などの温泉地区を観光地化するためにアピールの仕方を考える必要がある • 集客できるイベント、施設の運営、宣伝をする • 今ひとつ他の地域との違いがはっきりとしない。特徴をより一層アピールする必要があるかと思われます。 • プロモーションが下手 • 温泉地の廃れがかなり感じるので盛り上げたい！ もっと、あゆコロちゃんを広めてトン漬けをみんなに食べてもらいたい • 海老名市に押されて厚木市が錆びれていく様に感じる。もっとPRが必要だと思う • 観光で名物なるものが少ないのでもっとアピールしてほしい。 • 飯山温泉郷があまり盛んでない気がする、PRで活性化すると良いと思う。 • アウトドア、山、川、温泉を売り物とすべく、鉄道やバス会社、トイレ、宿の受け入れ環境をして、もっと都市部の住人向けにPRを強化する。 • 厚木名物の「鮎」についてももっとPRしてほしい。 • 七沢・飯山温泉のアピールがもっと必要、七沢・飯山までの公共交通機関（路面電車やモノレールなど）を充実させるべき川越市などを見習って観光に力をいれるべき。 • 史跡などに光をあてて広く宣伝する。 • PRを増やしてほしい • あつぎひがし座（人形芝居）をもっと前面に出して欲しい。

(2) 否定的な意見 (4/5)

分類	意見
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特に観光客を増やそうとしなくていい。 ・観光を促進することによって、経済的な効果がどれくらいあるのか、公開してほしい。 ・若い人にも魅力的な町になればいいと思う ・魅力的な場所がない ・都市の性質から観光に力を入れる必要はないと思う ・厚木市政が行う事業は全てが中途半端なイメージで隣接する市に全てが劣っている、丹沢大山は伊勢原が中心、七沢は宮ヶ瀬方面へのただの通り道、もっと真剣に考えた方がよい。 ・厚木は日帰り観光が可能なので近隣に来た際立ち寄ってほしい ・若い世代や、他の地域からの観光客にとって魅力的なものが少ない ・規模が中途半端なものが多く、これといってウリがない。 ・年寄りが多いイメージがあって同化盛り上がり欠ける ・駅南口の工事は税金を使っているのか ・中央商店街の寂れ ・宿泊目的の観光には向かないかも。 ・泊まりは箱根に任せて、日帰り旅行客を狙って駅前観光を充実させるのはどうだろう？” ・観光以前に地場産業の活性化が必要だと思うのですが・・・ ・県外出身の私からすると、県外からの観光客は神奈川といえば横浜や鎌倉や箱根というイメージで厚木は観光で来ようとは思いません。 ・観光地にあるお店が少なく寂れているので活性化しないと、人は集まらないし、観光資源にならない ・何となく周囲の活性化に伴い、元気がなくなってきたように感じることもそれなりにあるので、観光振興が進み街の活性化につながればいいなと思っています。 ・駅にさえ人がいない ・ボランティアで協力したいがどうすれば良いかわからない。 ・無駄なものにはお金をかけないでほしい。 ・地味で魅力がない。若い女性にウケない ・南口をもっと盛り上げてもらいたい。 ・静かな田舎町としての厚木のみままで良いと強く思うので、他所(特に都会)から人に来てもらいたくない。人を集めるのは、海老名におまかせしたい。 ・あまり目玉がない ・観光資源に乏しいと思います ・外からみて厚木に来たいと思う魅力はない。現状海老名の方が行きたいと思うことが多い。だが海老名のように都市化しようとしても厚木は無理。厚木の知名度は全国的に見ると低いから、近隣の市町村の人達がきたくるようにすることから始めるべき。駅周辺に開発するような広い土地はないのだから、今ある自然資源を最大限に活かすべき。 ・現状は観光が盛んではない印象。観光客を呼べる素材はあるので、うまく引き込めるといいと思う。 ・いまいち観光する場所もあまりなく、グルメなど周りの都市に比べて劣っている感じが否めない。 ・若者向けの観光名所が少ないと思う。 ・厚木市が錆びてきている。海老名市に負けている。 ・厚木でしか体験できないことが少ない。 ・10～15年前と比べ街全体の活気が失われつつある、一番街だけでなく観光業が盛り上がる施策を期待したい。

(2) 否定的な意見 (5/5)

分類	意見
その他	<ul style="list-style-type: none">• 最近には街に活気がないような気がする、昔の盛り上がりを再び期待する。• 海老名に負けず自然観光資源を生かして頑張ってもらいたい。• 私は、昔ながらの商店街が好きなので、地元の地産地消や、ここでしかない、雰囲気のある街になってほしい。ごみごみした町ではなく、自然豊かで、人も町ものんびりして、昔懐かしい商店街があつてが、理想です。

(3) 提案事項など (1/2)

分類	意見
<p>自然・公園</p>	<ul style="list-style-type: none"> • どの公園にも薔薇を植えてほしい • もっと緑を多く。自然災害対策を強化。 • 無料足湯を七沢温泉 飯山温泉 駅前に設置できませんでしょうか？有名観光地を見本の良いところを吸収して盛り上げて行ってほしいです。 • もっとお花畑を増やして欲しい。花菖蒲や蓮、チューリップ等 • 県央地区の都心などからのアクセスの良さを活かし、人工物の開発などはいらないから、既にある自然環境を売りとした広報活動で観光を伸ばしてほしい。 • 自然豊かな相模川 中津川 飯山白山ハイキングを利用 • 自然環境を増やしてほしい。 • 自転車公園があったら良いと思います。普通の自転車が乗れるエリアとアップダウンのあるマウンテンバイクエリアがあったらとても楽しいし安心して思い切り自転車に乗れたら子供も喜ぶと思います。 • 自然を大切にした観光 • 中央公園に子供が安心して水遊びができる場所があると良い。 • 貴重な温泉を活かすため設備（内装・外装）を魅力あるものにリニューアルできないか。東町、元町の江戸～昭和にかけての文化、風景の保存。貴重な田んぼや里山の風景の保存。 • 運動公園等をもっと作って欲しい。 • 公園の遊具などをあたらしくしてほしい。（増やしてほしい） 公園内に、おいしい飲食店、温泉などがあるとよい。 • 自然を生かした観光を増やして欲しい。 • 相模川ローズガーデンを見ごたえのある公園にしてほしい。 • 公園内に日陰がもっと多く欲しい。夏場は外遊びもしにくいので大きな屋外の日陰があると良いと思う。手持ち花火ができる場所も欲しい。
<p>施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 厚木市の歴史がわかるように時代別（平安、鎌倉、戦国等）に保存されている場所や建造物を作成し、巡回できるようにしてもらいたい。 • もっとおしゃれな買い物ができる場所があると良い • 大学が撤退していく中、厚木をもちたてていきたいです。 • 駅前の再開発をしてほしい • 駐車場の充実 • 南口をもっと盛り上げてもらいたい。 • プールが乏しい気がするので、それを作ってもらえると嬉しいです • 本厚木駅の観光案内所をもっと目立つようにすべき • 河川敷や高架下の活用。駅周辺の商店街の活性化と道路の整備。シャッター商店街をどうにかしてほしい。河川敷を整備して、駐車場にしたり、公園スペースにしてほしい。 • アミュー厚木の活性化が必須 • 観光案内所の設置、ランニングコースや自転車コースも整備してほしい。 • 企業見学がおもしろいのではないかと、ソニーやリコー、日産等の大きな会社を見たい人は多いと思う。 • 観光地における空き家の解消をお願いしたい。 • 駅の近くに文化会館を移し、都内からでも人が来るような、公演ができるようにする。

(3) 提案事項など (2/2)

分類	意見
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人向けのイベントごとを増やしたら観光客が増えて良いと思う ・他市民がたくさん来るようなイベント ・大道芸のイベントの時だけでなく普段から駅前で大道芸披露するなど。イベントで来たお客さんが駅の周りで何か楽しめるものを置いたほうが良いと思います。 ・県外からというよりは県内の人たちを呼び込むおいしい食べ物やイベントがあれば良いと思います。 ・中央公園でいろいろなイベントを行って欲しい。 ・現状でできる範囲のイベント実施、小規模公園の整備（水道や遊具ゴミ拾いなど）。 ・古いものを生かす、商店街（シャッター通り）や厚木神社のお祭りなど。さつき祭りも復活して欲しい。
新型コロナウイルスによる影響	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで祭りが中止になり残念。コロナは心配ではあるが対策を考えながら観光イベントを少しずつ再開して欲しい。 ・コロナの影響でイベントは厳しいと思うが、観光PRイベントがあれば良いと思う。 ・コロナで自粛しているのではなく、市独自の手法で安全面での住みやすさや自然、ジャズやフード等を引き続き根付くようなSNSや市内での配信県外への売り込みを行っていく。 ・コロナが落ち着くまでは現状を維持してほしい ・感染症対策に力を入れてください ・毎年一番楽しみにしている花火大会が今年はコロナ禍で中止になってしまい大変残念だったので、難しいかとは思いますが外での行事という事も踏まえ、何とか密にならないような対策を考えて実行させて戴きたいと願っています。 ・コロナで困っている厚木の名店の振興のために、グルメなどをるるぶのように紹介する。 ・コロナが落ち着いたら復活できるように考えて欲しい。市民をささえるしくみが広がるとよい。 ・コロナで遠出もなかなかできないので、子連れで楽しめるスポットがあるとうれしい。子連れだと市内のグルメや温泉などは敷居が高いので行きやすくなるとうれしい。 ・コロナ禍で思うように観光客を呼び集めたり、イベントが開催できなくなっていますが子供向けのイベントから少しずつ回復させ来年は鮎まつりなど大きなイベントも開催できるよう祈っています。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と地域が一体となって取り組むべき ・小田急や神奈中など交通機関係の企業ともっとタイアップしてはどうか。 ・どんどん観光事業を盛り上げて、たくさんの人に来て欲しいと思います。 ・マスク義務化 ・ごみのポイ捨て等、マナー向上の啓発活動を推進してほしい ・ゴルフなど含む芸能人の出入りや取材、撮影等TVで取り扱いも多いのでこれらを含めて来て欲しいです ・若者を呼び寄せた方が良い ・リピートされる観光資源の発掘、創造 ・ゴミ拾いなど山側から海を守る活動を期待します。 ・一番街の再開発を希望する。 ・観光の目玉、オリジナリティな事柄。例「犬と遊べる川の街」、「アニメグッズの街」など、税金投入少なく永続的なテーマを考えてみればどうか。 ・歴史ある伝統芸能を守り活かしていくような政策を期待したい。

厚木市の観光に対するニーズ調査結果

1. 調査目的

厚木市観光振興計画策定に当たり、現計画策定時点からの観光を取り巻く動向への変化を鑑み、市外在住者の厚木市の観光ニーズや、市民の観光振興に対する意識について把握するために、2種の調査を実施した。

本調査では、近隣地域の在住者に対しWEBアンケート調査を実施することで、観光資源の認知度・魅力度等を把握し、厚木市の観光のニーズ、ポテンシャル、課題等について分析を行った。

2. 調査概要

アンケート調査の実施概要を以下に示す。

調査名	厚木市の観光に対するニーズ調査
調査対象	神奈川県内在住者（厚木市外）及び、厚木市への来訪者数が比較的多い県の在住者（東京都、埼玉県、千葉県、静岡県、山梨県） ※「年1回以上旅行する人」をスクリーニング調査により抽出
サンプル数	合計 600 サンプル ※性別・年代がそれぞれ均等になるように割付 【居住地別サンプル数内訳】 神奈川県（厚木市民外）：240 サンプル 東京都：120 サンプル 埼玉県、千葉県、静岡県、山梨県：各 60 サンプル
調査期間	8月21日（金）～8月28日（金）
調査手法	【WEBアンケート形式】 WEB上で設問に回答可能なアンケートフォームを構築し、条件に対応したモニターが各設問に回答
質問項目	<ul style="list-style-type: none"> ・厚木市の観光資源の認知度、魅力度 ・厚木市への訪問経験 厚木市の認知度／訪問経験および訪問回数／訪問目的／訪問時の主な交通手段／訪問前後の立ち寄り先／厚木市のイメージ／厚木市を訪問したことがない理由 ・一般的な旅行の傾向 旅行・レジャーに出かける頻度／主な同行者／旅行・レジャーに行く際に閲覧する情報媒体 ・属性 性別／年齢／居住地／職業

3. 調査結果の概要

(1) 一般的な旅行の傾向

- ✓旅行・レジャーに出かける頻度は、「年に2～3回」が46.2%、「年に4～6回」が29.2%、「月に1～2回」が22.5%となっている。
- ✓旅行する際の主な同行者は「夫婦・カップル」が40.2%、次いで「家族（子供連れ）」が23.7%、「ひとり」が13.7%となっている。
- ✓旅行・レジャーに行く際に閲覧する情報媒体は「友人・知人からの紹介・すすめ」が36.3%、「インターネット等」が29.8%、「ポスター・パンフレットなどを見て」が27.8%となっている。

(2) 厚木市への訪問経験

- ✓厚木市の認知度・訪問経験は、「知っている（訪問したことがある）」が46.8%、「知っている（訪問したことはない）」が39.5%、「知らない」が13.7%となっている。
- ✓厚木市への訪問回数は「2～4回」が28.8%、「0回」が26.3%、「1回」が23.8%となっている。
- ✓訪問目的は「観光・レジャー」が46.6%、「訪問（友人知人等）」が28.1%、「買い物」が27%となっている。
- ✓訪問時の主な交通手段は「車（マイカー・レンタカー）」が55.5%、「電車」が40.2%となっている。
- ✓厚木市への訪問前の立ち寄り先としては「海老名・大和方面」が38.3%、「川崎・横浜方面」が21.9%、「大山（伊勢原・秦野）方面」が17.2%となっている。
- ✓厚木市のイメージは「東名高速道路、圏央道等の厚木インターチェンジ」が55%、「B級グルメで有名（ホルモン、とん漬等）」が33.2%、「温泉」が16.6%となっている。
- ✓「厚木市を知っているが訪問したことはない」と答えた回答者の理由としては、「観光施設やレジャー施設を知らないから」が43.9%、「なんとなく」が36.7%、「特産・名産・名物を知らないから」が27.4%となっている。

(3) 厚木市の観光資源の認知度、魅力度

- ✓市内の観光資源の認知度は「相模川・中津川」（50.5%）、「丹沢大山国定公園」（43.7%）、「厚木ホルモン」（39.5%）が比較的高い傾向にある。

《居住地ごとの傾向（認知度の高い観光資源）》

- ・神奈川県（厚木市を除く）：相模川・中津川／丹沢大山国定公園
- ・県外（東京都、埼玉県、千葉県、静岡県、山梨県）：相模川・中津川／丹沢大山国定公園
- ・東京都：相模川・中津川／丹沢大山国定公園

- ✓市内の観光資源の魅力度（「魅力的である」または「少し魅力的である」と回答した割合）は、「飯山温泉郷・東丹沢七沢温泉郷」（84.3%）、「ハイキング・登山コース」（78.7%）、「丹沢大山国定公園」（77.5%）に対する評価が比較的高い傾向にある。

《居住地ごとの傾向（魅力度の高い観光資源）》

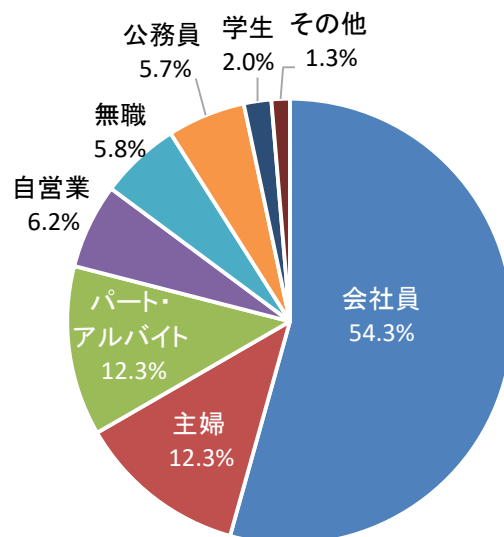
- ・神奈川県（厚木市を除く）：丹沢大山国定公園／飯山温泉郷・東丹沢七沢温泉郷
- ・県外（東京都、埼玉県、千葉県、静岡県、山梨県）：飯山温泉郷・東丹沢七沢温泉郷／ハイキング・登山コース
- ・東京都：ハイキング・登山コース／飯山温泉郷・東丹沢七沢温泉郷

4. 各設問の調査結果

(1) 回答者の属性

<全体>

○回答者の職業は「会社員」が54.3%と最も多く、次いで「主婦」が12.3%、「パート・アルバイト」が12.3%となっている。

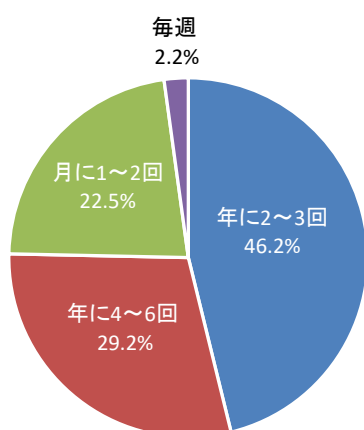


[n : 600]

(2) 一般的な旅行の傾向

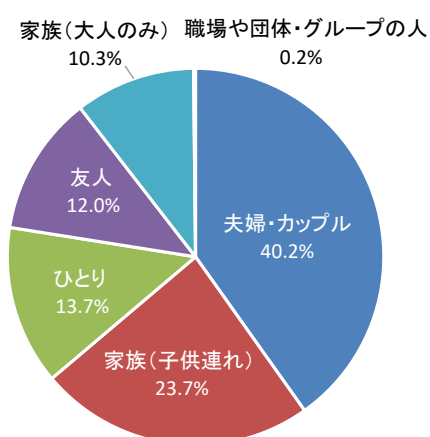
- 旅行・レジャーに出かける頻度は、「年に2～3回」が46.2%と最も多く、次いで「年に4～6回」が29.2%、「月に1～2回」が22.5%となっている。
- 旅行する際の主な同行者は「夫婦・カップル」が40.2%と最も多く、次いで「家族（子供連れ）」が23.7%、「ひとり」が13.7%となっている。
- 旅行・レジャーに行く際に閲覧する情報媒体は「友人・知人からの紹介・すすめ」が36.3%と最も多く、次いで「インターネット等」が29.8%、「ポスター・パンフレットなどを見て」が27.8%となっている。

ア 旅行・レジャーに出かける頻度



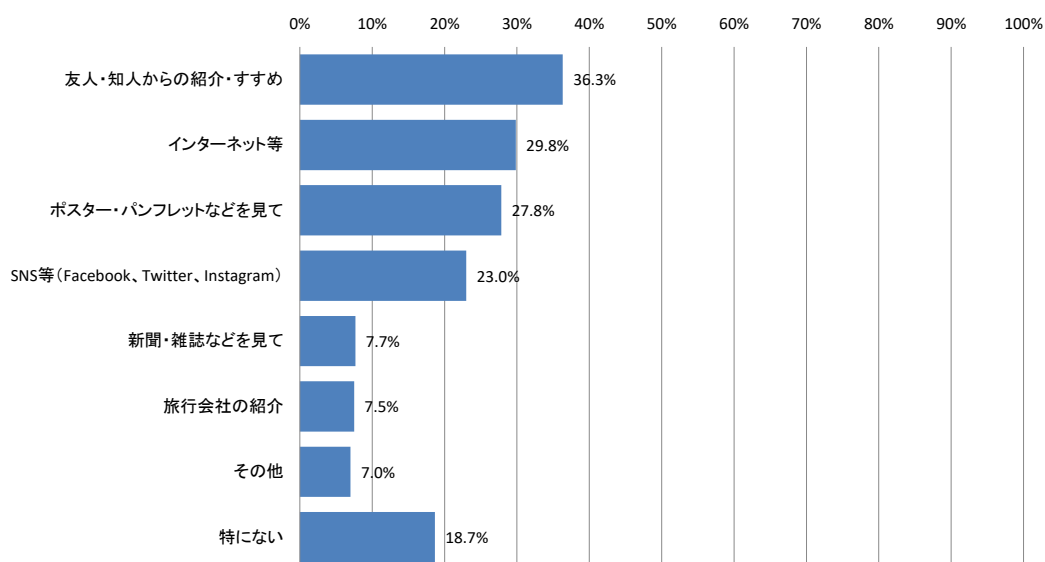
[n : 600]

イ 旅行する際の主な同行者



[n : 600]

ウ 旅行・レジャーに行く際に閲覧する情報媒体



[n=600]

(3) 厚木市への訪問経験

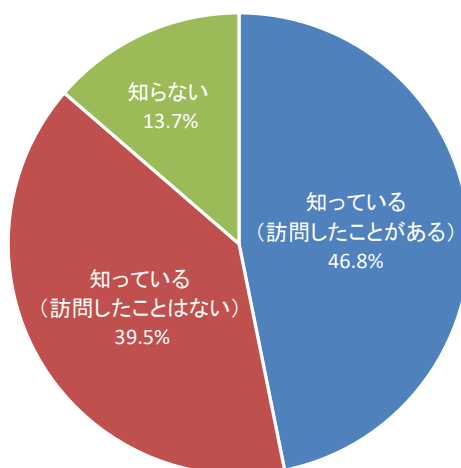
ア 訪問経験および訪問回数

○厚木市の認知度・訪問経験は、「知っている（訪問したことがある）」が最も多く46.8%、次いで「知っている（訪問したことはない）」が39.5%、「知らない」が13.7%となっている。

○厚木市への訪問回数は「2～4回」が28.8%と最も多く、次いで「0回」が26.3%、「1回」が23.8%となっている。

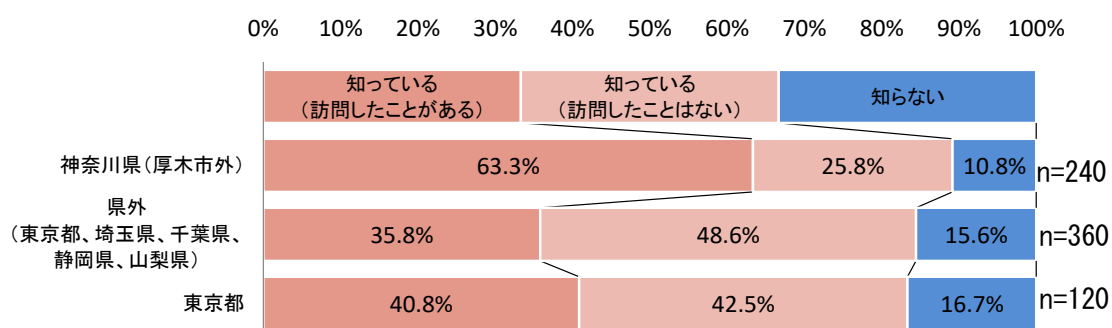
(ア) 認知度・訪問経験

<全体>

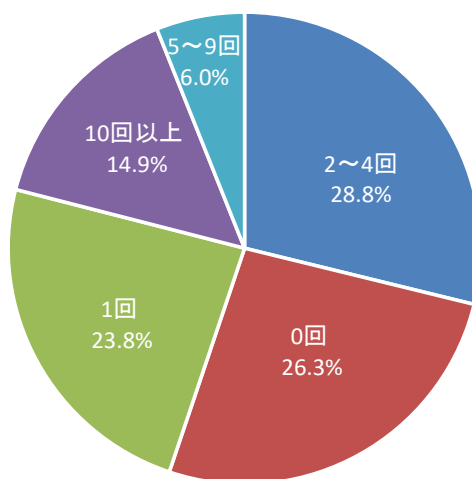


[n=600]

<居住地別>



(イ) 訪問回数

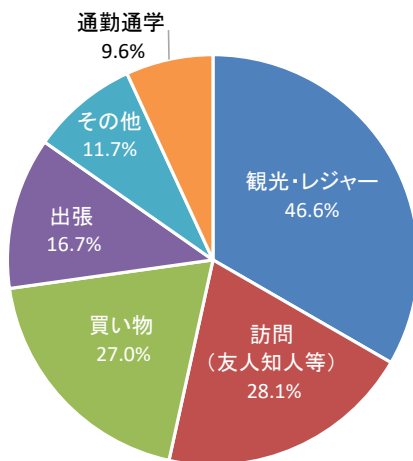


[n=281]

※訪問回数は過去3年間の合計を尋ねた

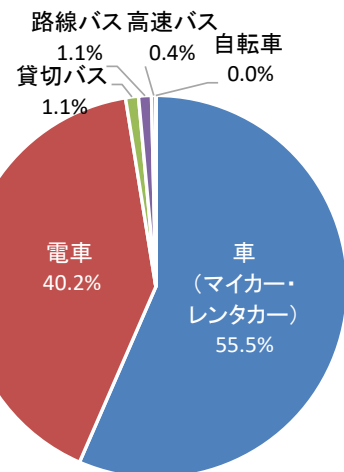
- 厚木市への訪問目的は、「観光・レジャー」が46.6%と最も多く、次いで「訪問（友人知人等）」が28.1%、「買い物」が27%となっている。
- 訪問時の主な交通手段は「車（マイカー・レンタカー）」が55.5%と最も多く、次いで「電車」が40.2%となっている。
- 厚木市への訪問前の立ち寄り先としては「海老名・大和方面」が38.3%と最も多く、次いで「川崎・横浜方面」が21.9%、「大山（伊勢原・秦野）方面」が17.2%となっている。
- 厚木市への訪問後の立ち寄り先としては「海老名・大和方面」が28.9%と最も多く、次いで「小田原・箱根方面」が25.0%、「川崎・横浜方面」が21.9%となっている。

(ウ) 訪問目的



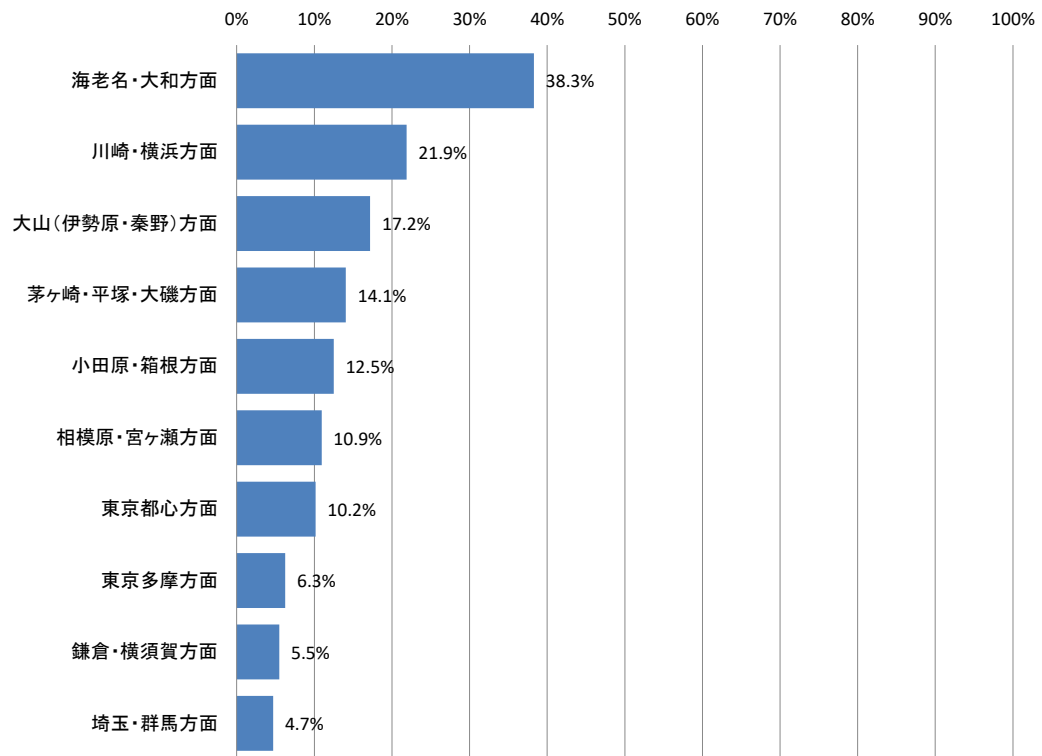
[n=281]

(エ) 訪問時の主な交通手段



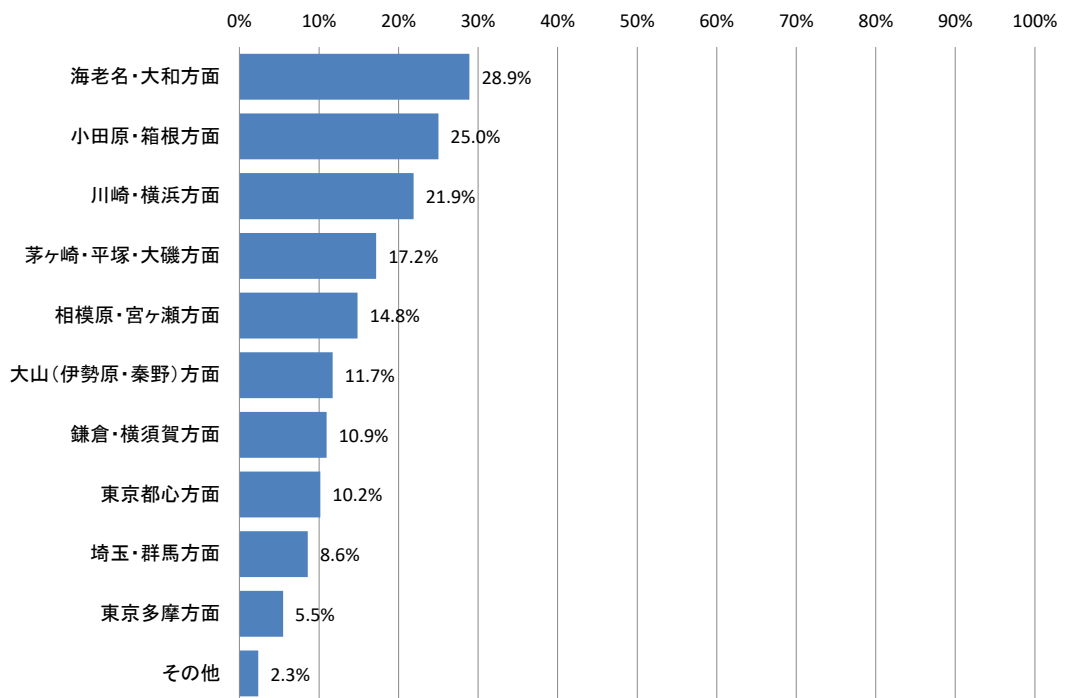
[n=281]

(オ) 厚木市への訪問前、訪問後の立ち寄り先
 <訪問前>



[n=128]

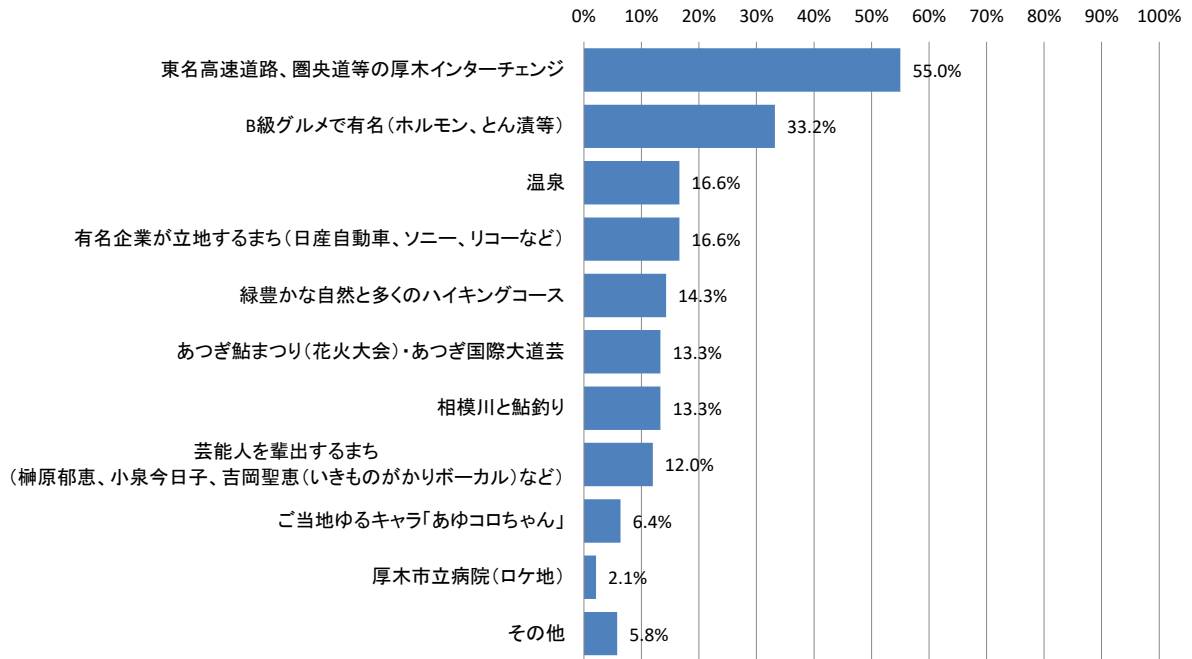
<訪問後>



[n=128]

イ 厚木市のイメージ

○厚木市に対するイメージは、「東名高速道路、圏央道等の厚木インターチェンジ」が最も多く55%、次いで「B級グルメで有名（ホルモン、とん漬等）」が33.2%、「温泉」が16.6%となっている。



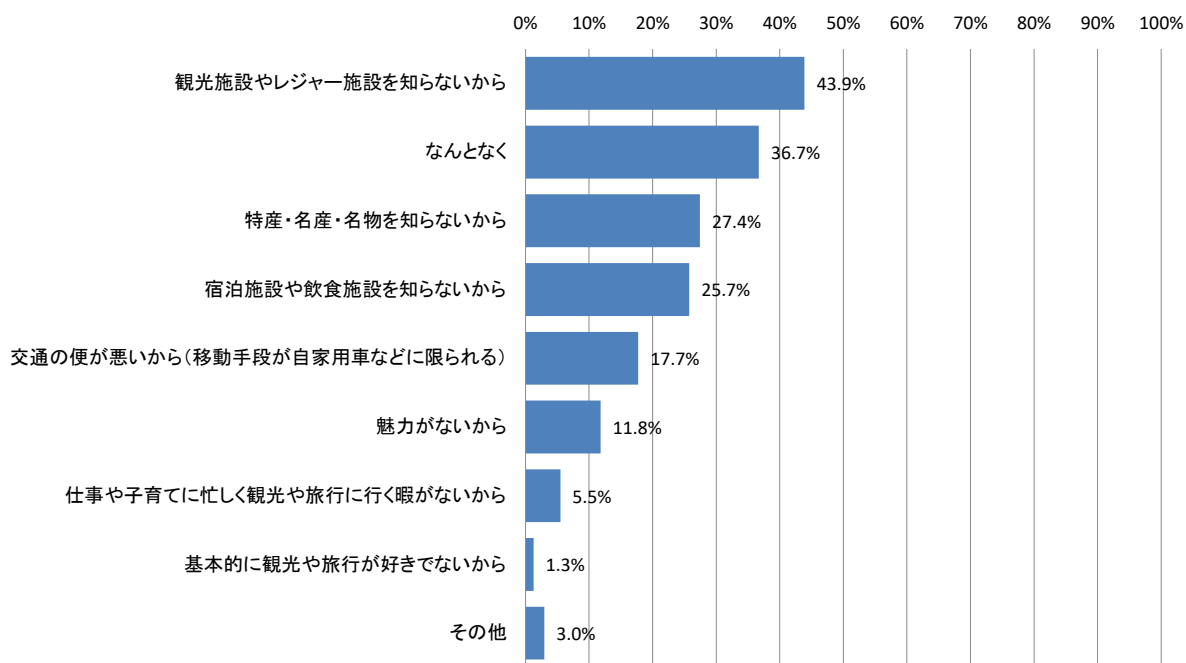
[n=518]

<その他（自由回答）>

- 基地（自衛隊、米軍）
- 厚木商業高校
- 都内からのアクセスがいい
- 道が混雑している
- ベッドタウン
- ゴルフ
- 治安が悪い
- リニアモーター

ウ 「厚木市を知っているが訪問したことはない」と答えた回答者の理由

○「厚木市を知っているが訪問したことはない」と答えた回答者の理由としては、「観光施設やレジャー施設を知らないから」が最も多く43.9%、次いで「なんとなく」が36.7%、「特産・名産・名物を知らないから」が27.4%となっている。



[n=237]

<その他（自由回答）>

- 遠い
- 近過ぎてかえって興味がわからない
- あえて行きたいと思わない
- きっかけがない

(4) 厚木市の観光資源の認知度、魅力度

ア 厚木市の観光資源ごとの認知度・魅力度ギャップ

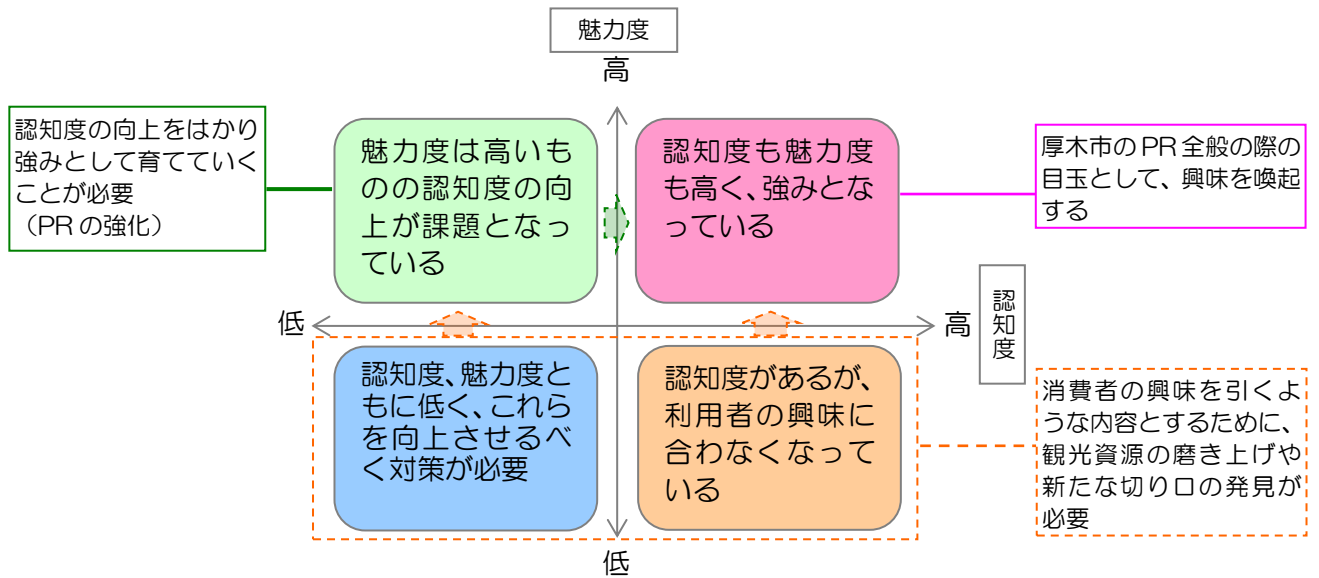
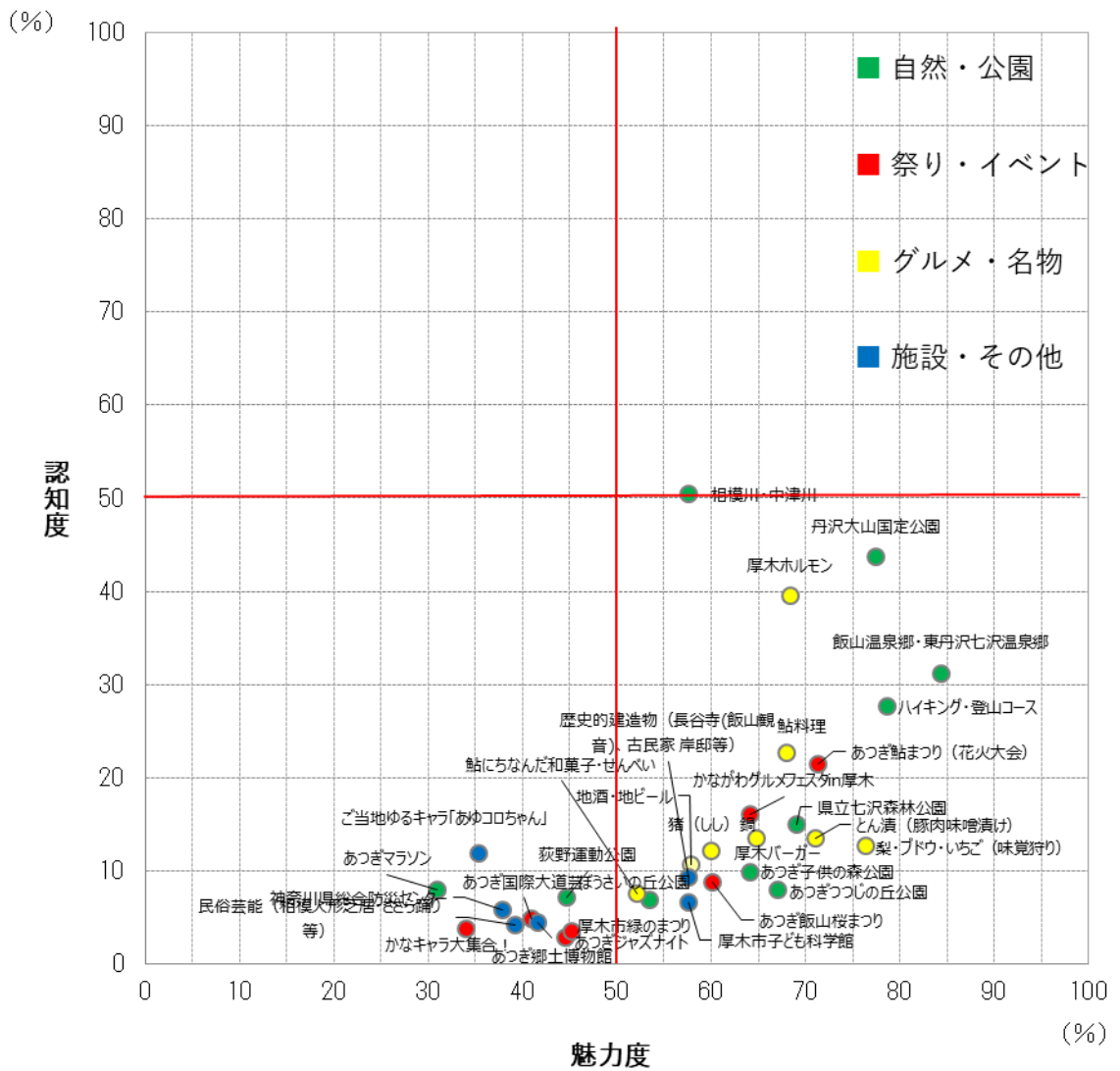


図1 認知度・魅力度ギャップ分析のイメージ

<全体>

○市内観光資源の魅力度・認知度について、「自然・公園」、「グルメ・名物」は比較的の魅力度が高い傾向にあるが低認知とギャップがある。また、項目全体として認知度の低さが目立つ。

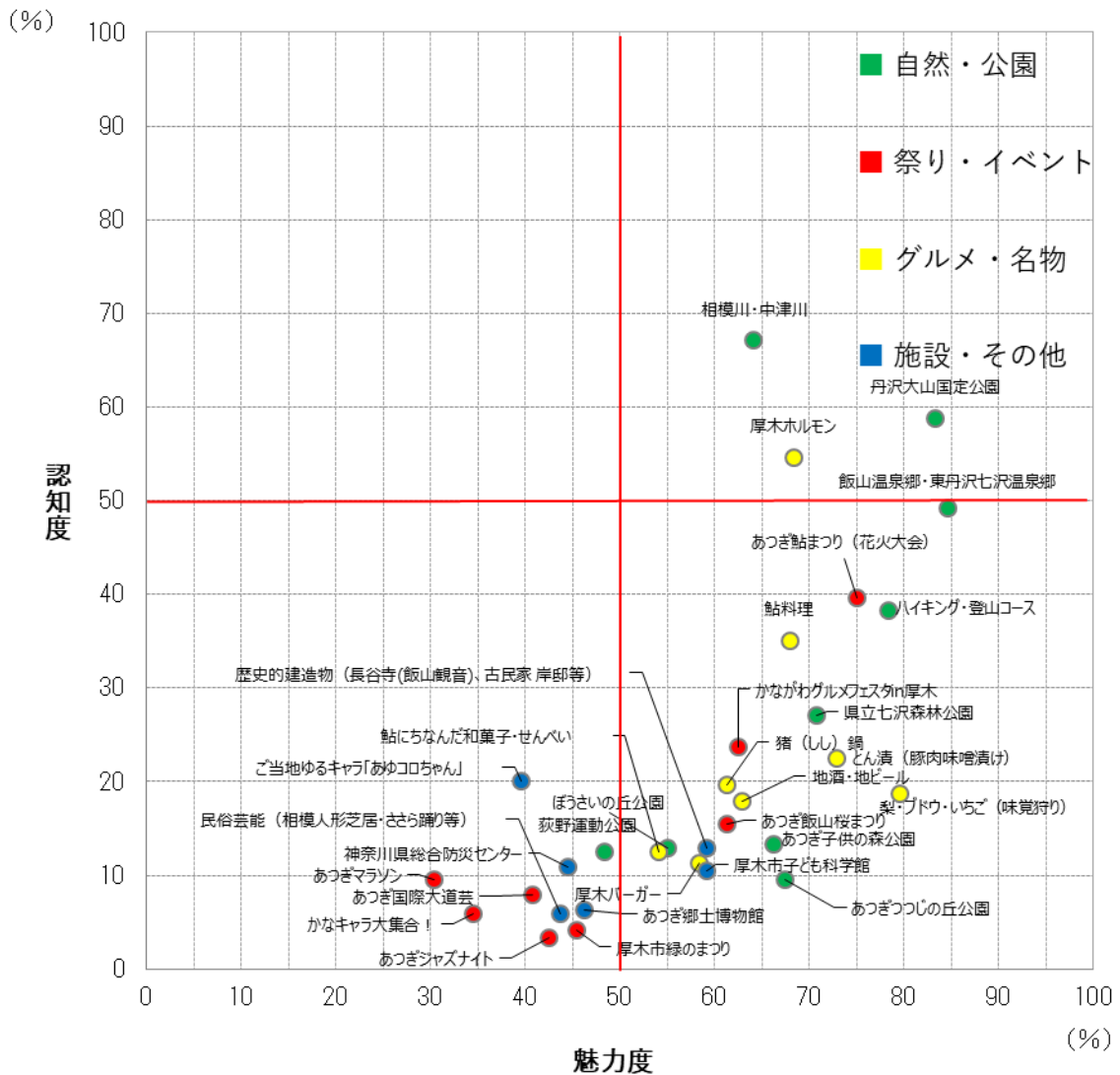


[n=600]

<居住地別>

(ア) 神奈川県（厚木市を除く）

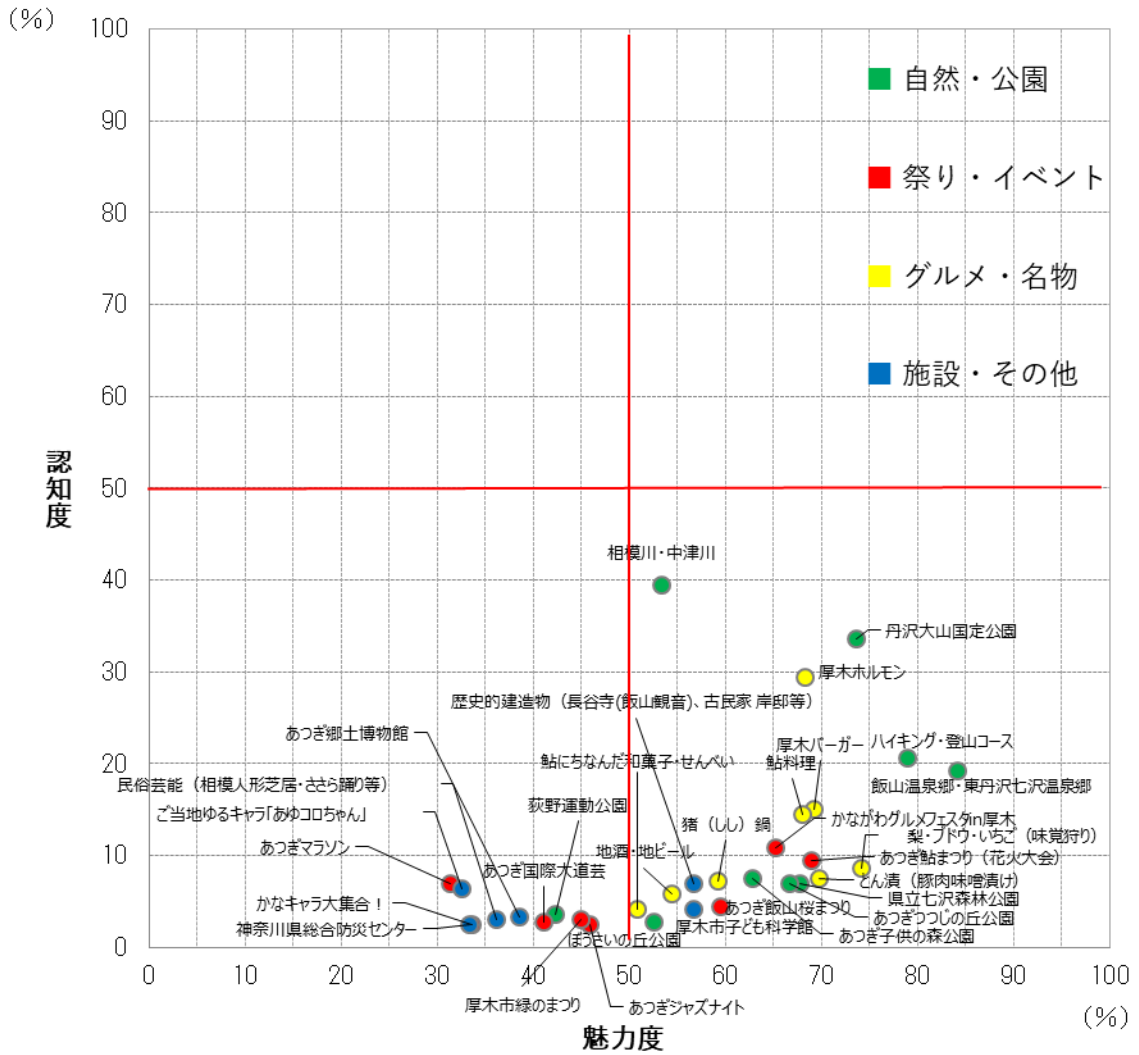
○市内観光資源の魅力度・認知度について神奈川県（厚木市外）在住者の回答では、「自然・公園」、「グルメ・名物」は比較的魅力度が高い傾向にあるが低認知の資源が多くギャップがある。また、「祭り・イベント」、「施設・その他」は認知度の低さが目立つ。



[n=240]

(イ) 県外（東京都、埼玉県、千葉県、静岡県、山梨県）

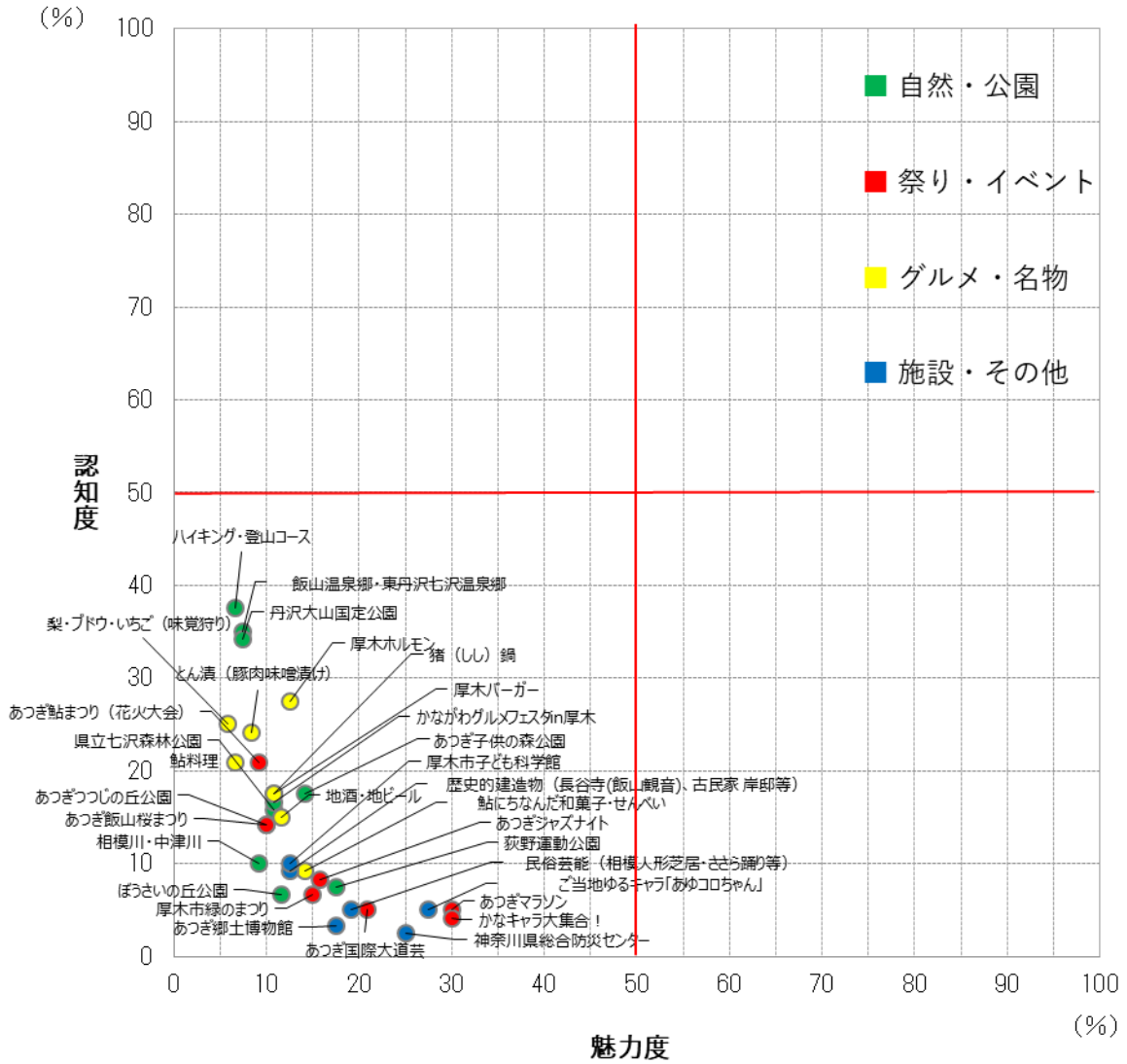
○市内観光資源の魅力度・認知度について神奈川県外在住者の回答では、「自然・公園」、「グルメ・名物」は比較的魅力度が高い傾向にあるが低認知とギャップがある。また、項目全体として認知度の低さが目立つ。



[n=360]

(ウ) 東京都

○市内観光資源の魅力度・認知度について東京都在住者の回答では、項目全体として魅力度・認知度ともに低い。



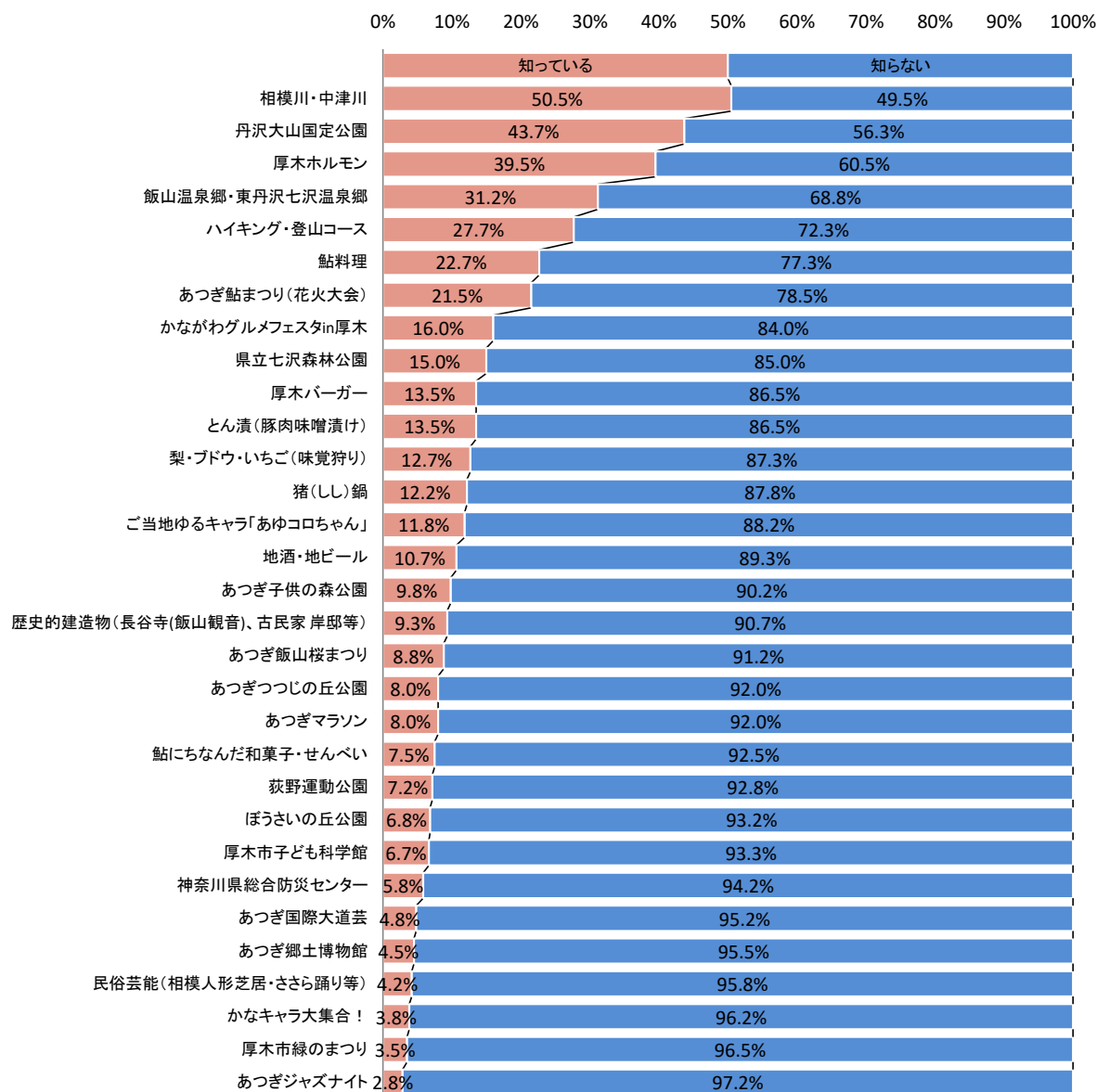
[n=120]

イ 厚木市の観光資源の認知度

○各観光資源の中で「知っている」と回答した割合は、「相模川・中津川」が50.5%と最も高く、次いで「丹沢大山国定公園」が43.7%、「厚木ホルモン」が39.5%となっている。

○各観光資源の中で「知らない」と回答した割合は、「あつぎジャズナイト」が97.2%と最も高く、次いで「厚木緑のまつり」が96.5%、「かなキャラ大集合！」が96.2%となっている。

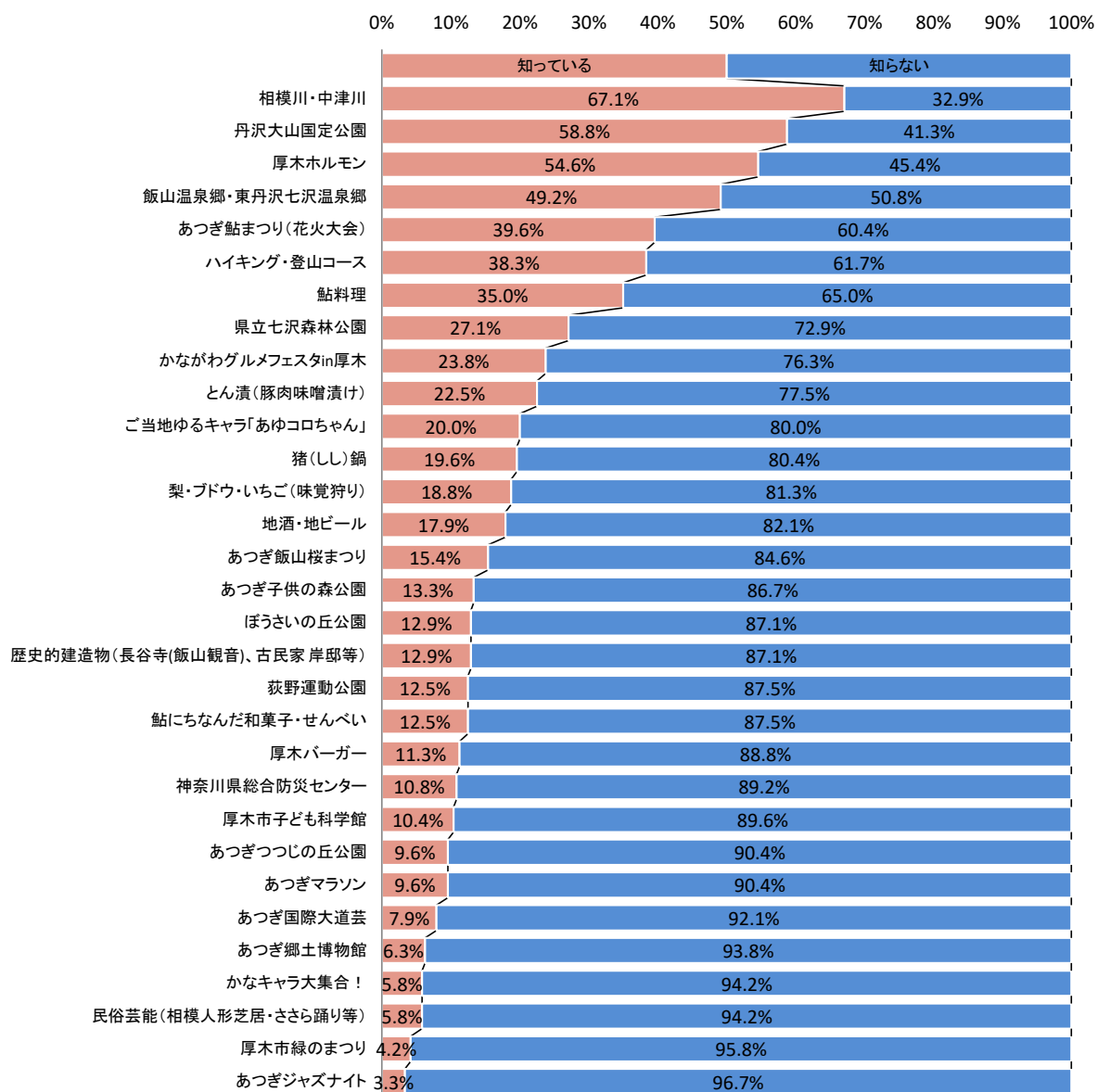
<全体>



[n=600]

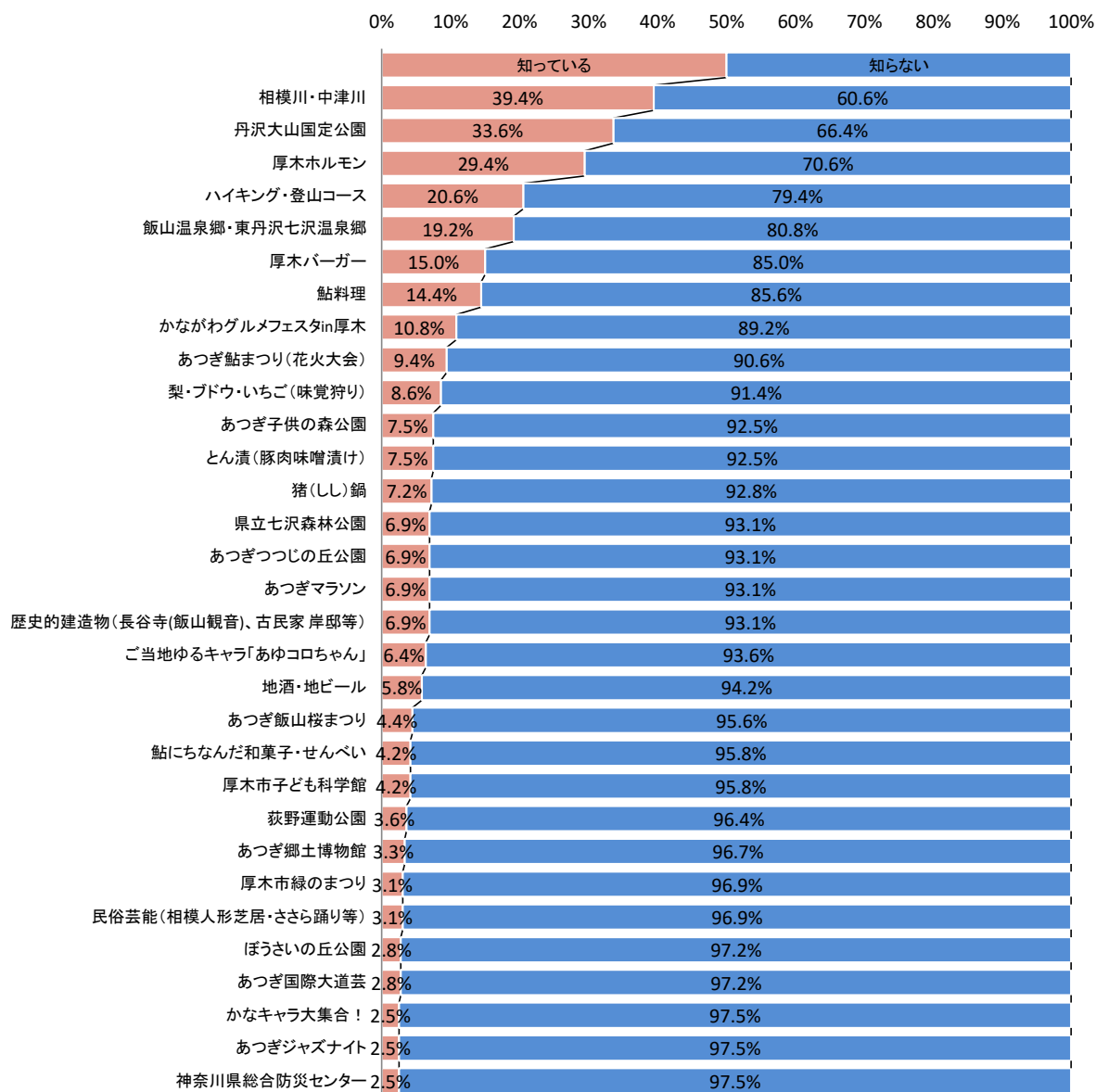
<居住地別>

(ア) 神奈川県 (厚木市を除く)



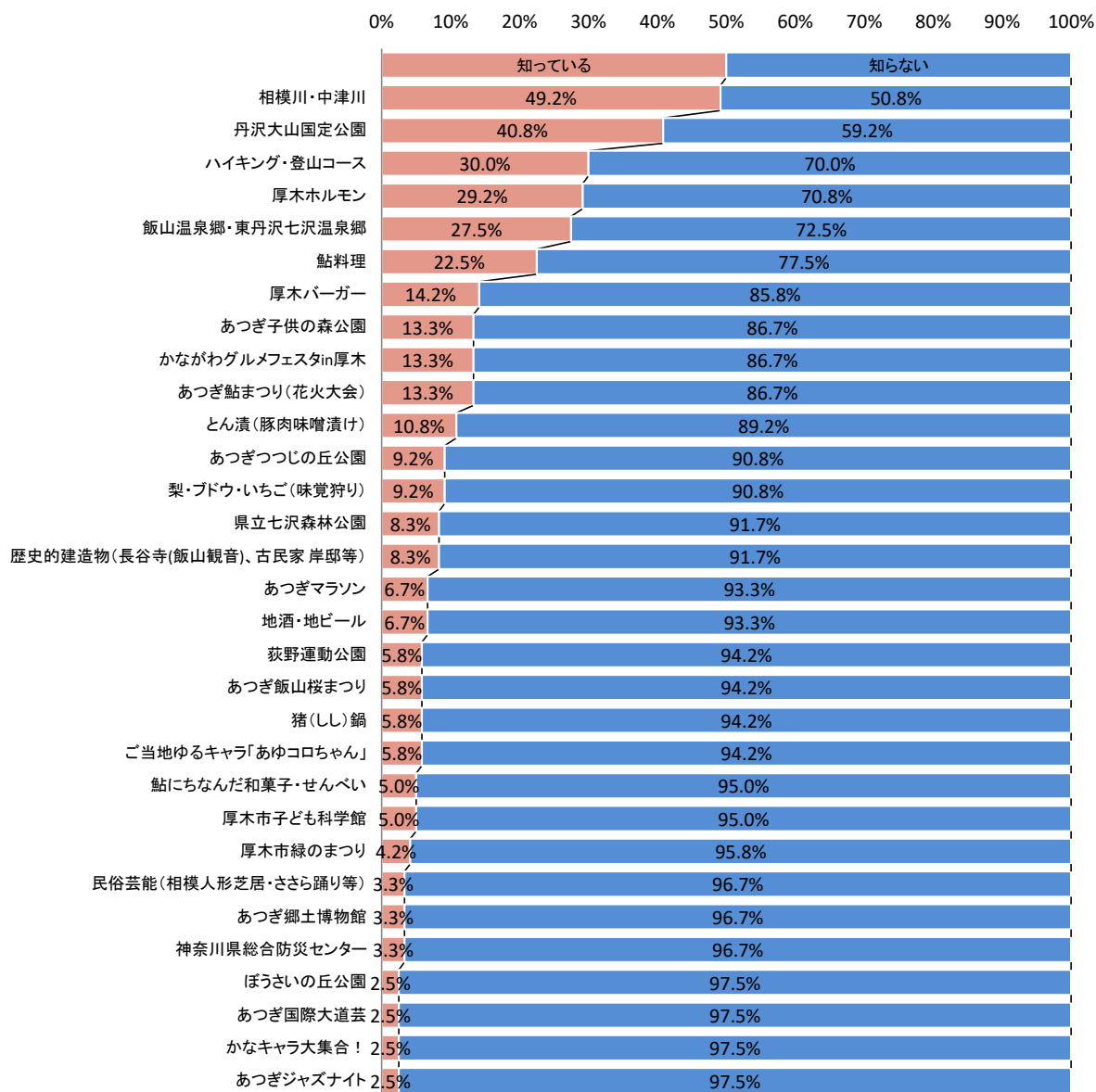
[n=240]

(イ) 県外（東京都、埼玉県、千葉県、静岡県、山梨県）



[n=360]

(ウ) 東京都



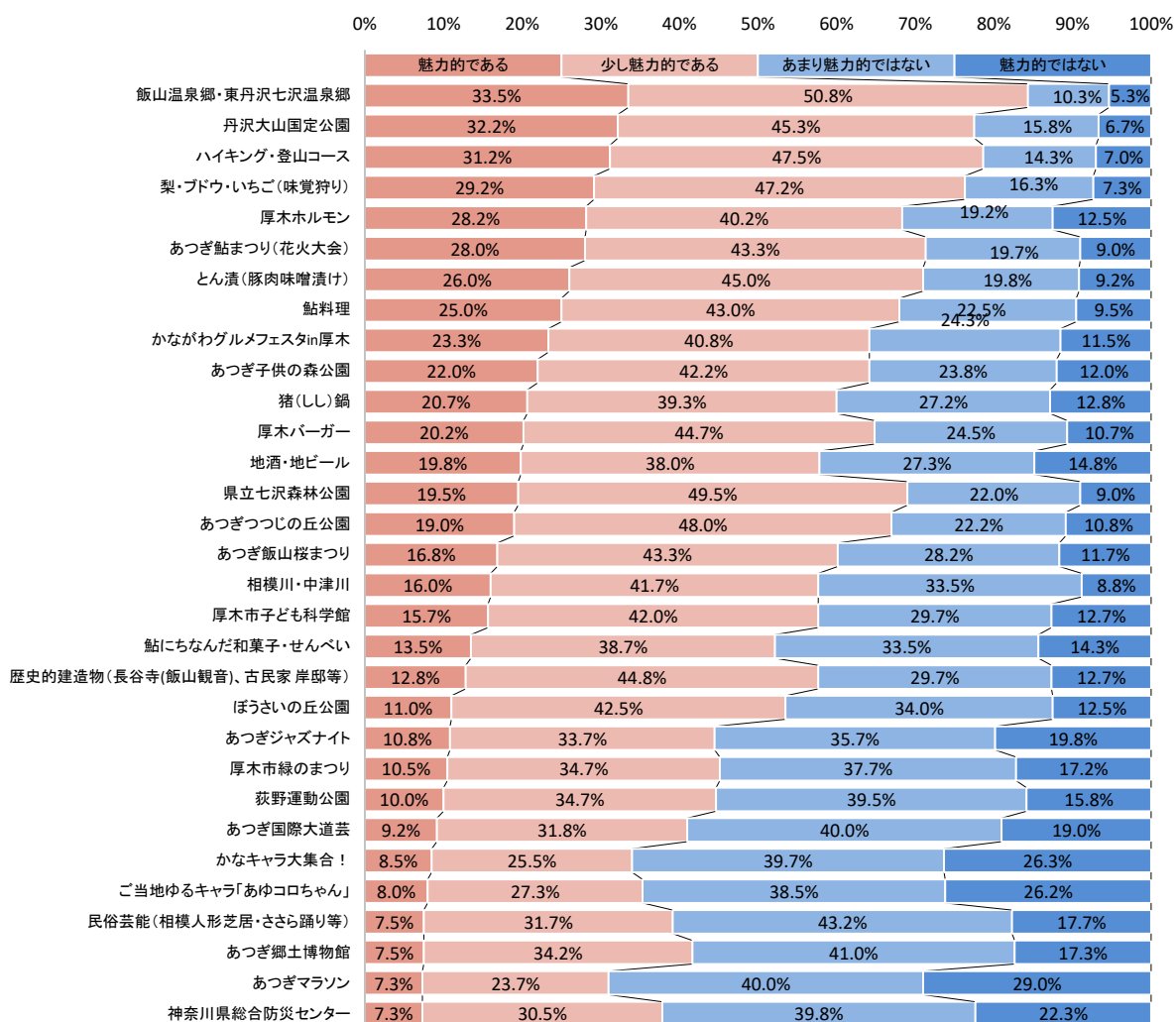
[n=120]

ウ 厚木市の観光資源の魅力度

○各観光資源の中で「魅力的である」「少し魅力的である」と回答した割合は、「飯山温泉郷・東丹沢七沢温泉郷」が84.3%と最も高く、次いで「ハイキング・登山コース」が78.7%、「丹沢大山国定公園」が77.5%となっている。

○その内、「飯山温泉郷・東丹沢七沢温泉郷」に関しては、「魅力的である」と回答した割合が33.5%と最も高い。

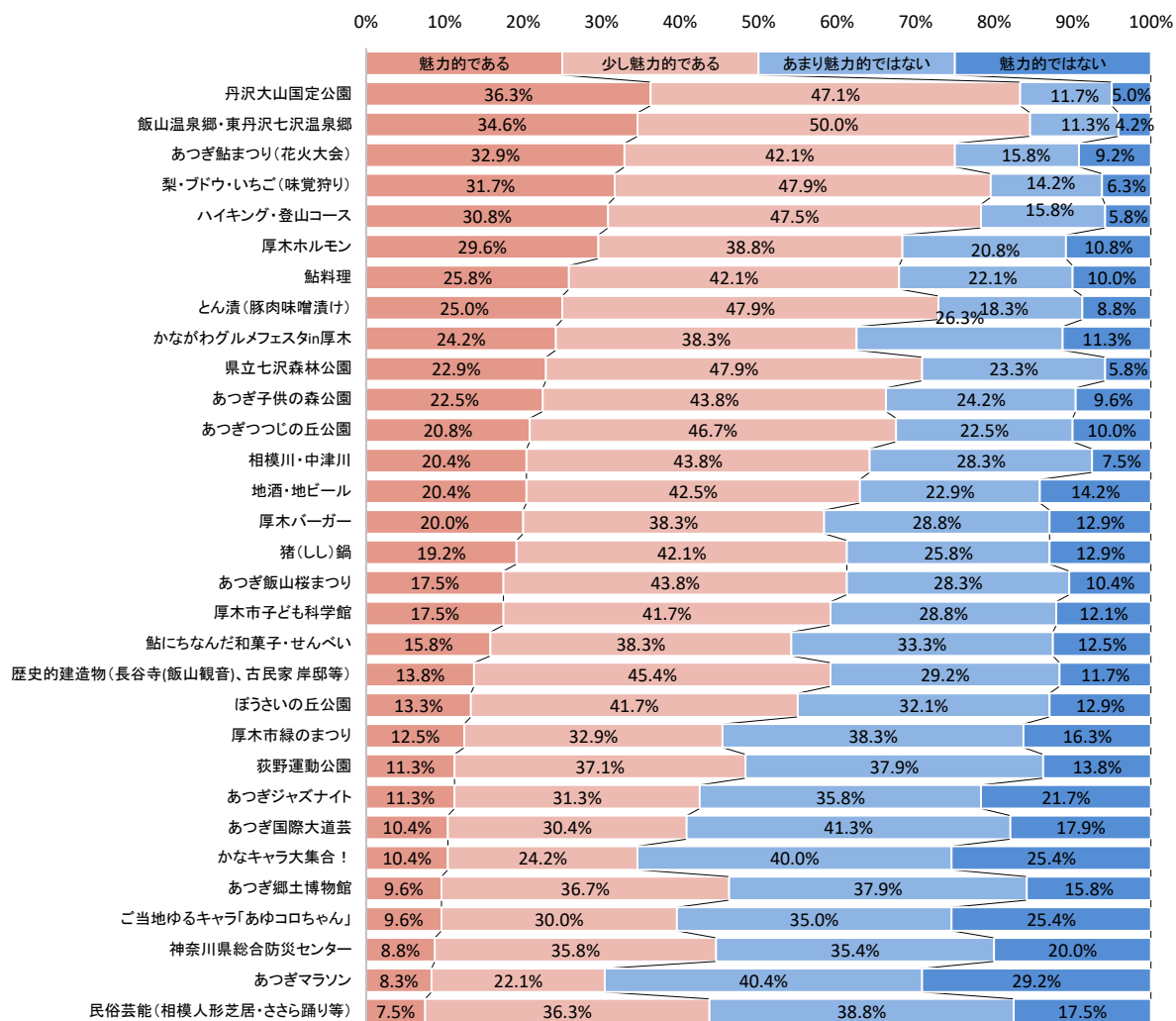
<全体>



[n=600]

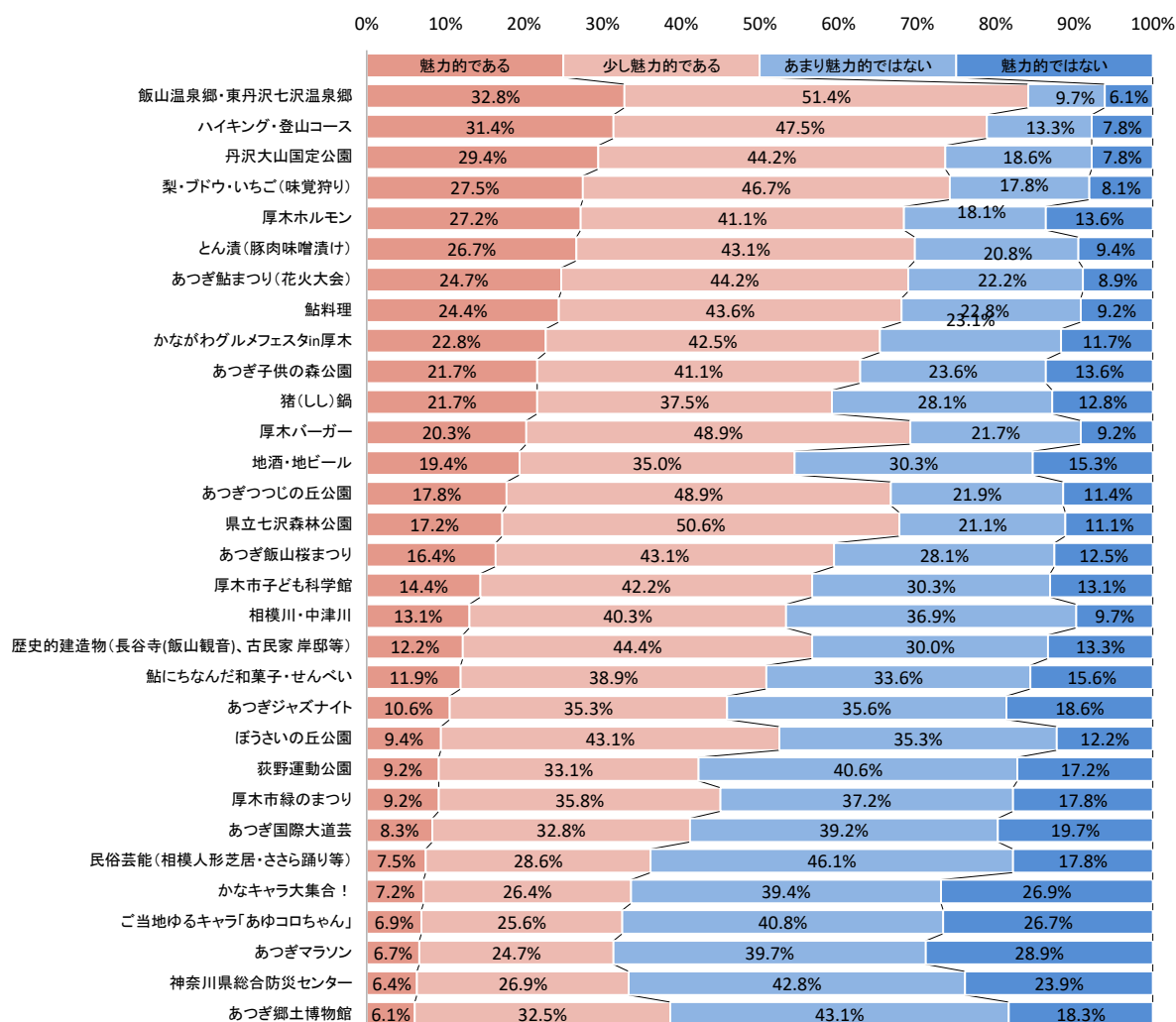
<居住地別>

(ア) 神奈川県 (厚木市を除く)



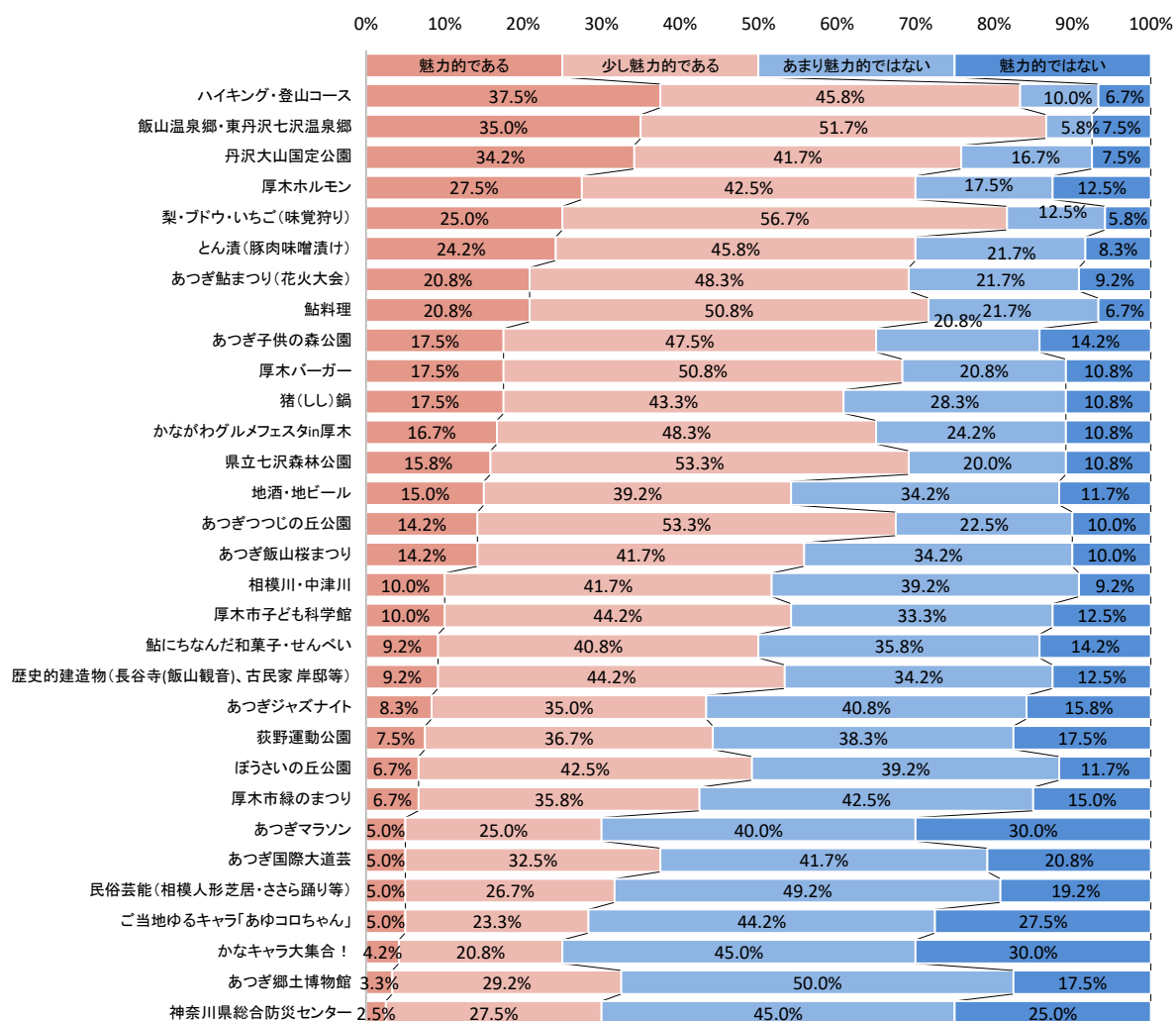
[n=240]

(イ) 県外（東京都、埼玉県、千葉県、静岡県、山梨県）



[n=360]

(ウ) 東京都

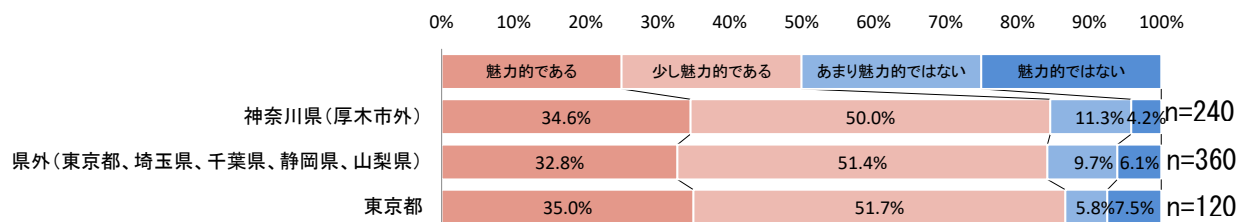


[n=120]

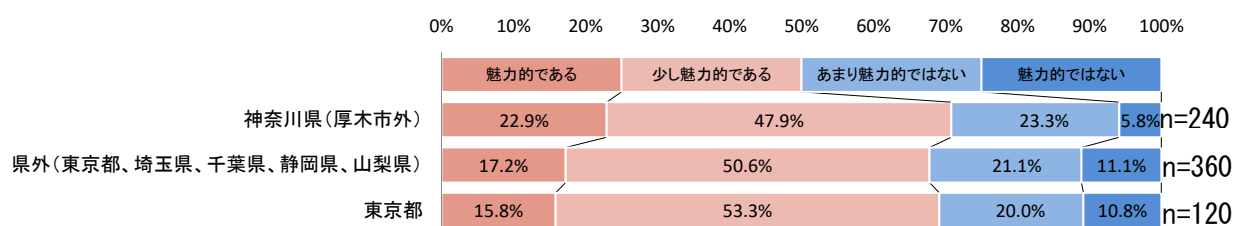
<観光資源ごとの回答状況（居住地別）>

【自然・公園】

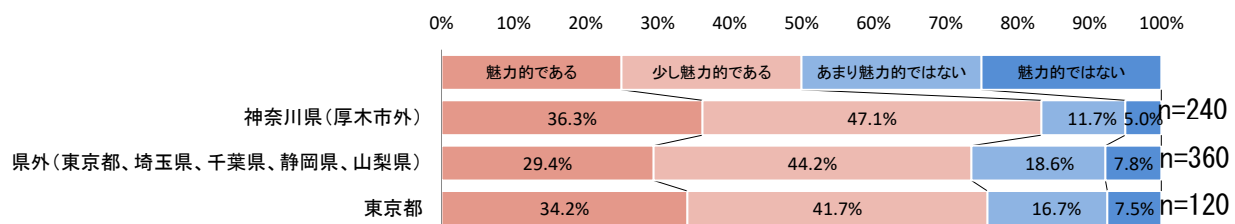
(ア) 飯山温泉郷・東丹沢七沢温泉郷



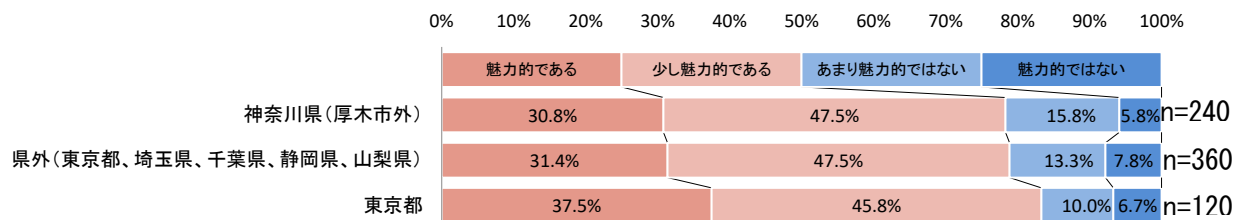
(イ) 県立七沢森林公園



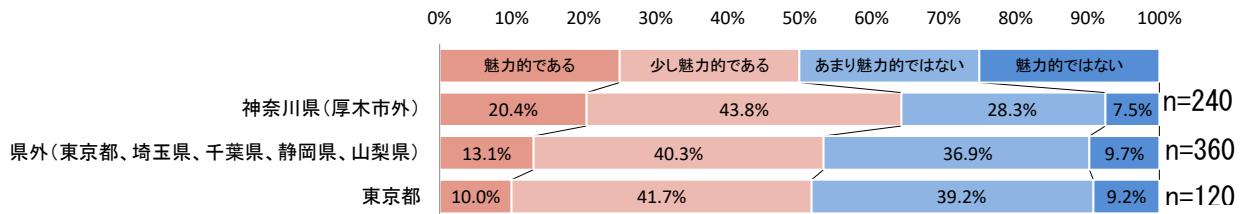
(ウ) 丹沢大山国定公園



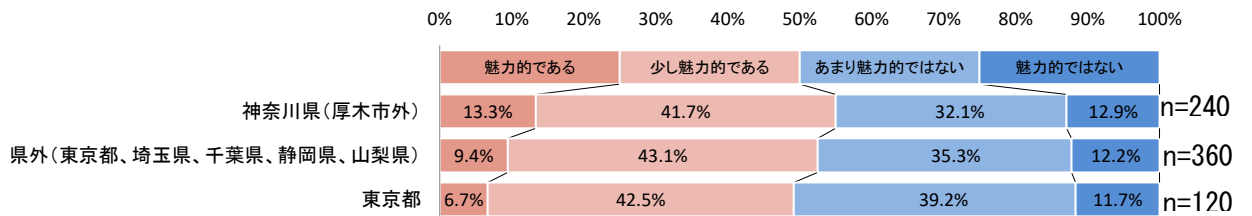
(エ) ハイキング・登山コース



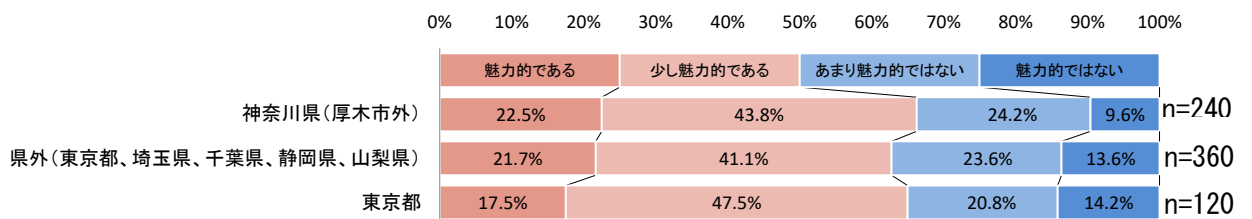
(オ) 相模川・中津川



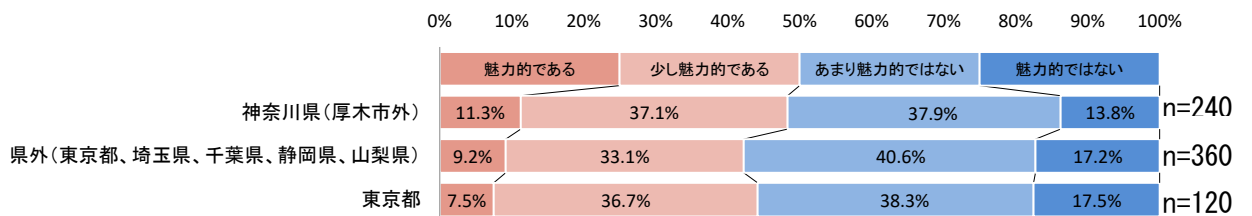
(カ) ぼうさいの丘公園



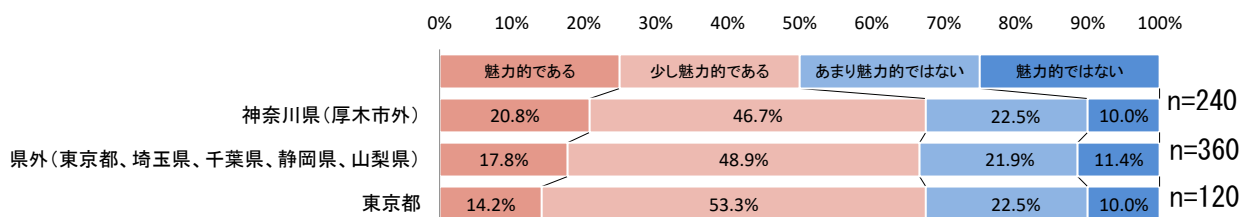
(キ) あつぎこどもの森公園



(ク) 萩野運動公園

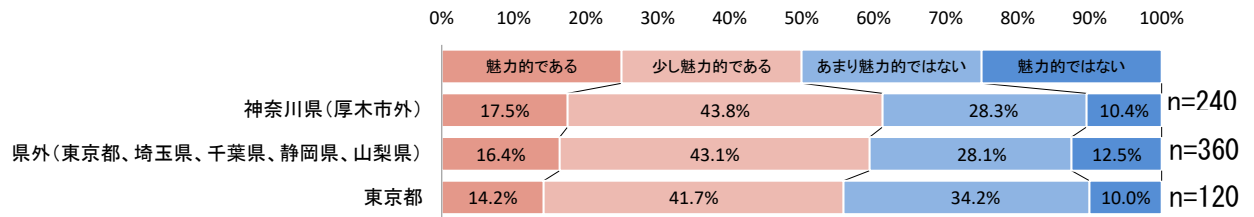


(ケ) あつぎつつじの丘公園

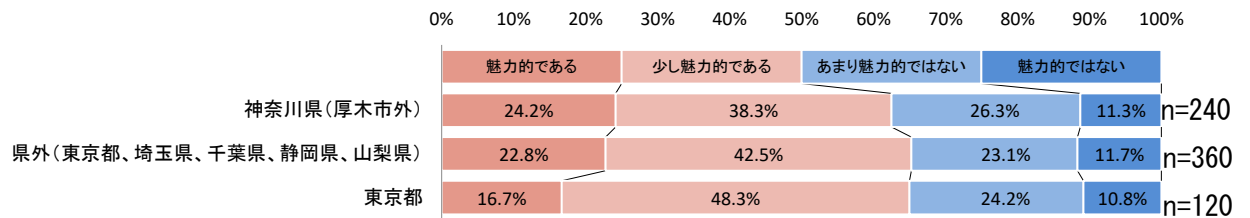


【祭り・イベント】

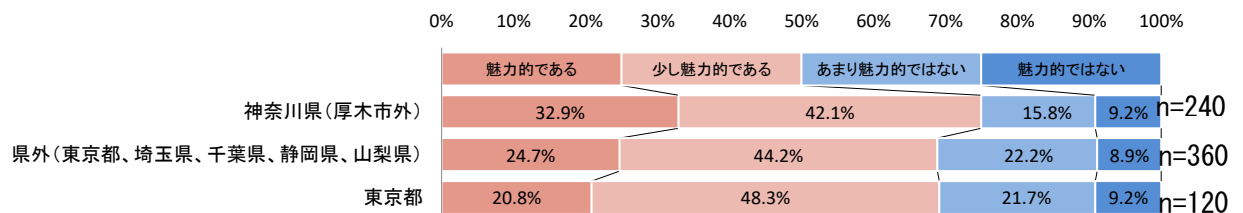
(コ) あつぎ飯山桜まつり



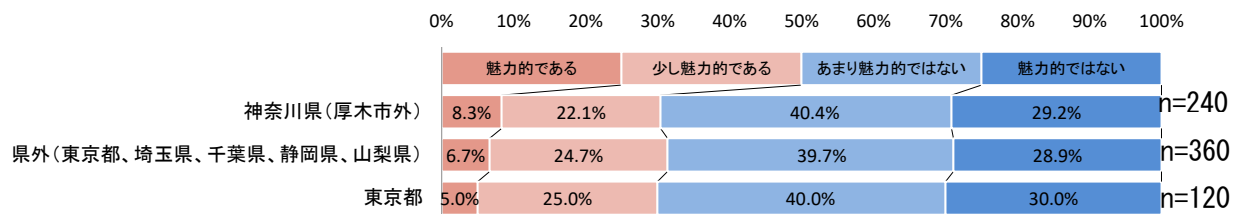
(サ) かながわグルメフェスタ in 厚木



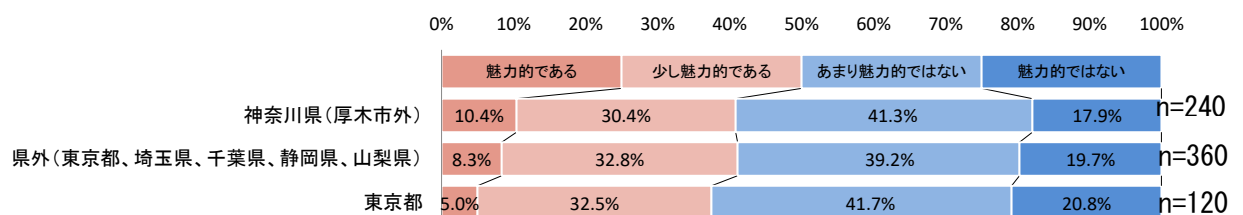
(シ) あつぎ鮎まつり (花火大会)



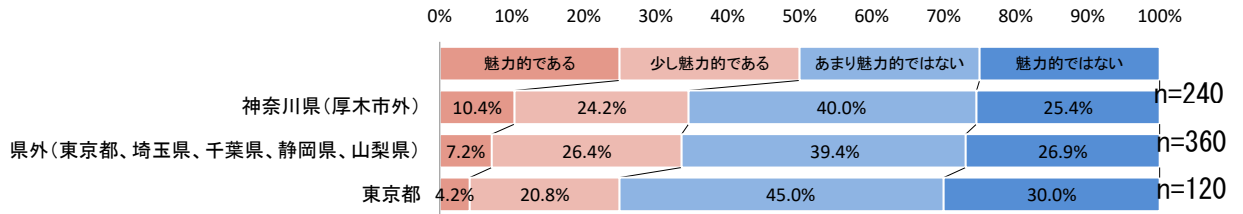
(ス) あつぎマラソン



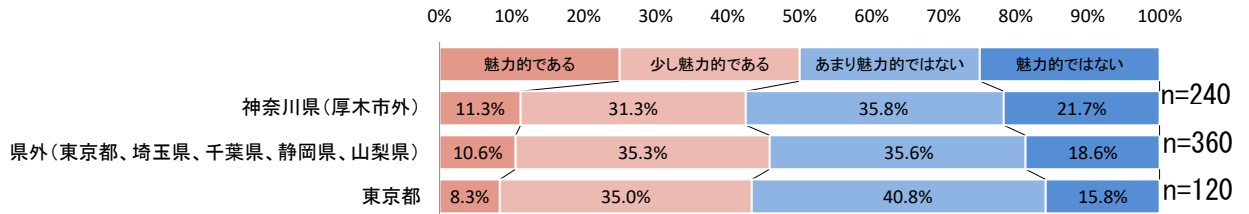
(セ) あつぎ国際大道芸



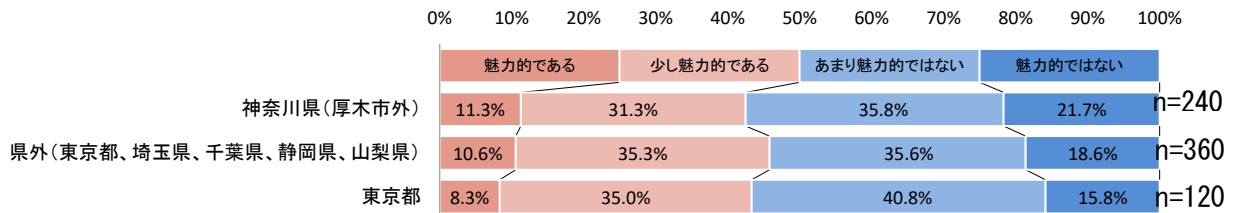
(ソ) かなキャラ大集合



(タ) あつぎジャズナイト

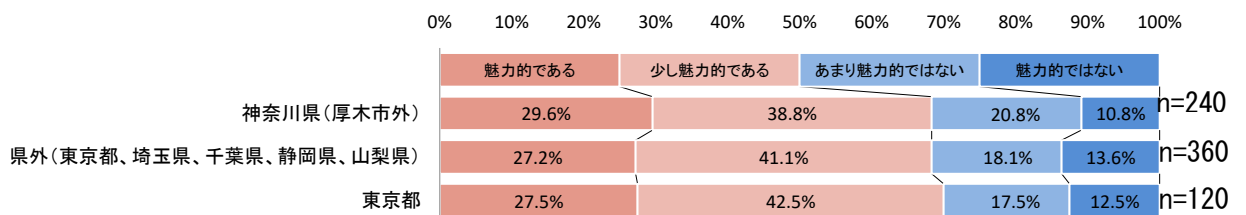


(チ) 厚木市緑のまつり

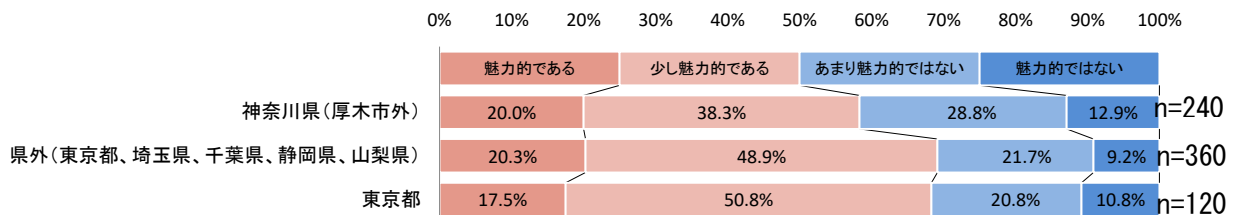


【グルメ・名物】

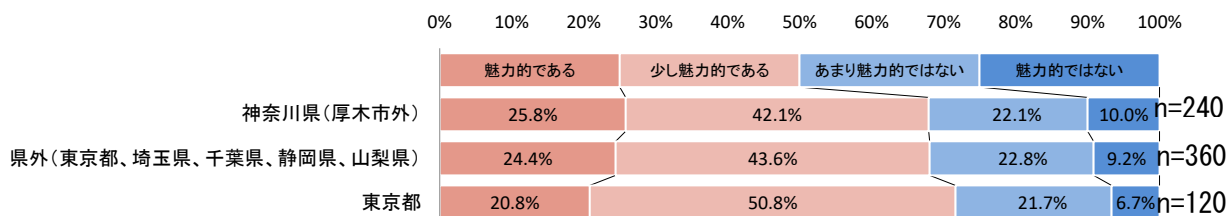
(ツ) 厚木ホルモン



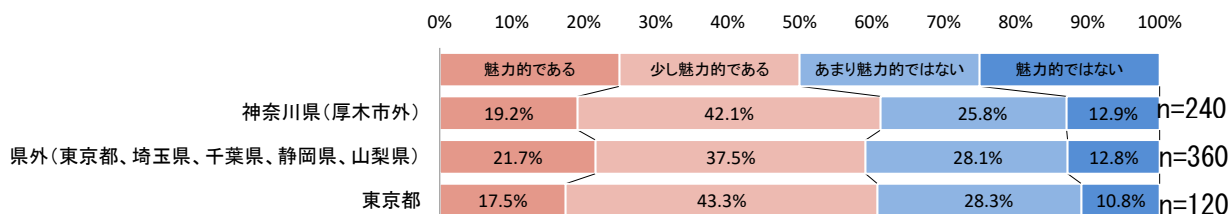
(テ) 厚木バーガー



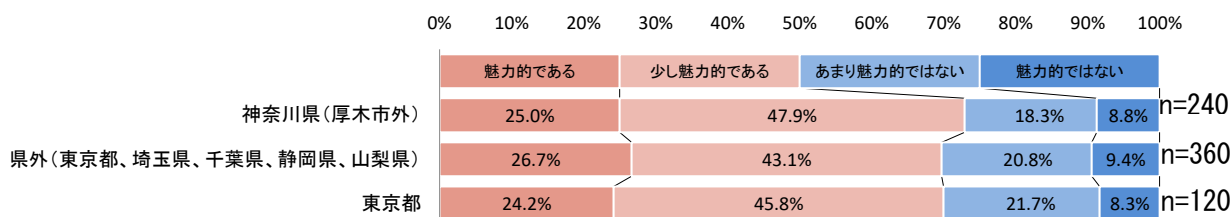
(ト) 鮎料理



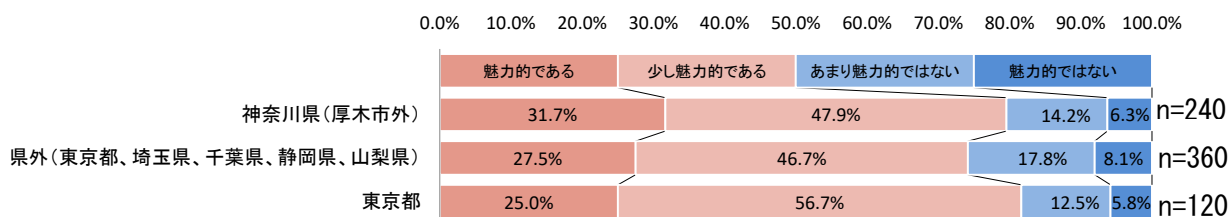
(ナ) 猪(しし)鍋



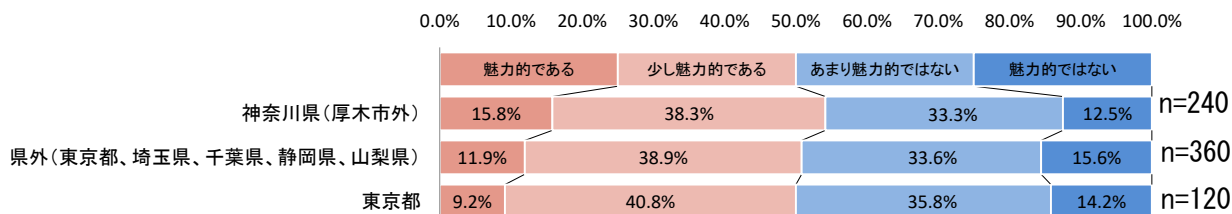
(ニ) とん漬(豚肉味噌漬)



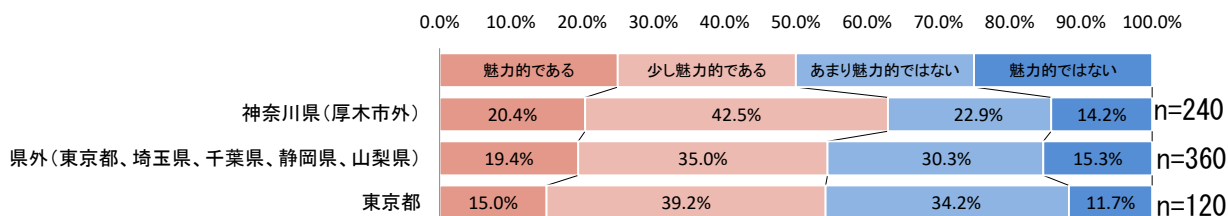
(ヌ) 梨・ブドウ・いちご(味覚狩り)



(ネ) 鮎にちなんだ和菓子・せんべい

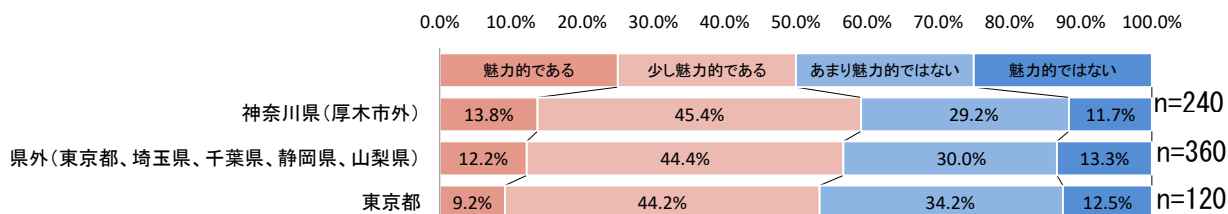


(ノ) 地酒・地ビール

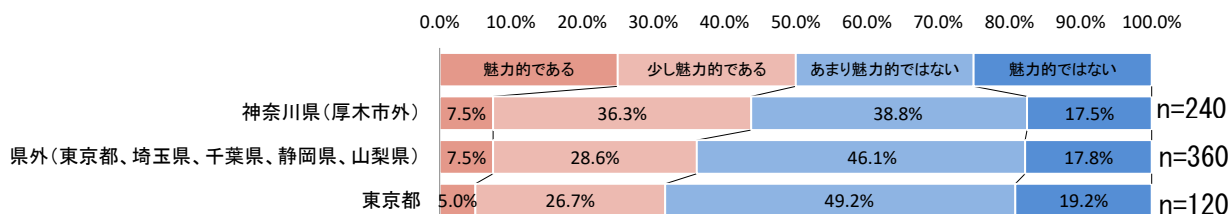


【施設・その他】

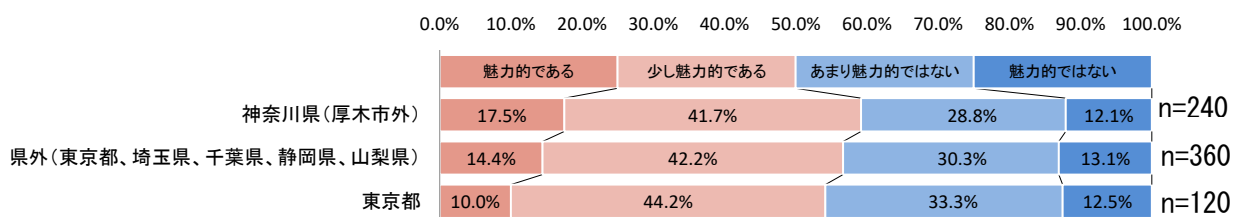
(ハ) 歴史的建造物（長谷寺(飯山観音)、古民家 岸邸等)



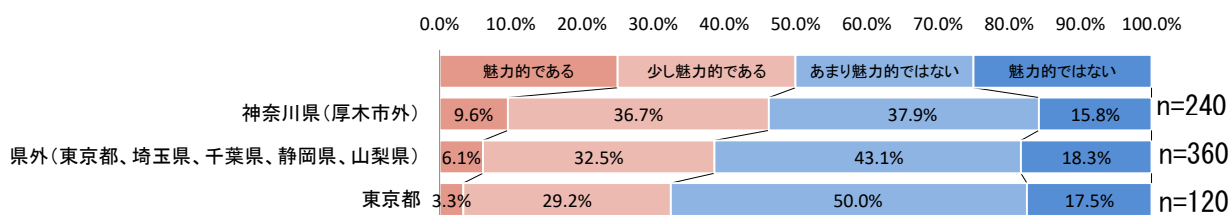
(ヒ) 民俗芸能（相模人形芝居・ささら踊り等）



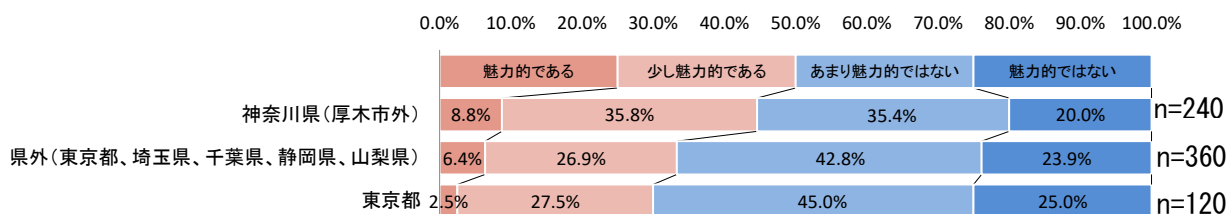
(フ) 厚木市子ども科学館



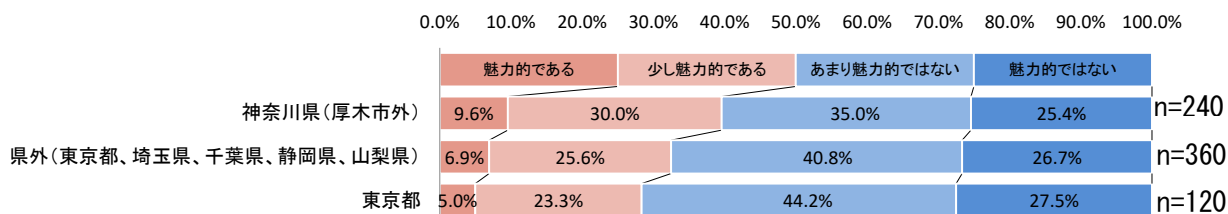
(ヘ) あつぎ郷土博物館



(ホ) 神奈川県総合防災センター



(マ) ご当地ゆるキャラ「あゆコロちゃん」



<その他の自由回答（知っている観光資源）>





分類	記載事項
自然・風景	<ul style="list-style-type: none"> ・大山 ・旧街道散策 ・街中のグラフィティアート ・自然豊かなドライブコース ・サイクリングロード
グルメ	<ul style="list-style-type: none"> ・ラーメン ・Gatoh 雅藤のケーキ ・南蛮屋本店のコーヒー ・厚木ハム ・たばこ ・神奈川食肉センター ・厚木パーキングエリアの食事
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・基地（自衛隊、米軍） ・ゴルフ場 ・キャンプ場 ・日産自動車の工場 ・宮ヶ瀬ダム
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・本厚木駅前のイルミネーション ・ミロード ・宮ヶ瀬のクリスマスツリー ・アミューあつぎ
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・小田原厚木道路 ・リニア中央新幹線


[参考] 観光資源の認知度・魅力度に関する設問

Q1. 厚木市内の以下の観光資源のうち、あなたがお存じの観光資源を教えてください。

Q2. 厚木市内の以下の観光資源について、それぞれの観光資源に対する魅力度を教えてください。

(観光資源一覧表)

No.	ジャンル	観光資源名	説明文	画像
1	自然・公園	飯山温泉郷・東丹沢七沢温泉郷	市内には、二つの温泉郷があり、いずれも強アルカリの泉質で肌をつるつるに整えることから「美肌の湯」として有名です。	
2		県立七沢森林公園	横浜スタジアムの約 24 倍もの面積をもつ公園です。自然樹林が豊富にあり、野草や野鳥、リスや野ウサギ、時にはシカの姿など自然の豊かさを十分に味わうことができます。	
3		丹沢大山国定公園	丹沢山地は、神奈川県北西部に横たわる、面積約4万 ha の山塊です。この地域は、都心からわずか 50km の首都圏の一角に位置しているにもかかわらず、豊かな自然が残されている山地として注目されてきました。昭和 40 年に丹沢大山国定公園として指定されています。	
4		ハイキング・登山コース	都心から近い厚木ですが、丹沢山系の東端に位置し郊外に出れば深い緑の自然が広がります。手軽なハイキングから本格的なトレッキングまで、レベルに応じて楽しめる各種のトレイルコースが整備されています。	

5		相模川・中津川	厚木を流れる清流で、魚たちが豊富に生息し、釣り場としても有名です。六月一日は鮎の解禁となり、毎年多くの釣り人たちが賑わいます。	
6		ぼうさいの丘公園	面積が 9.4ha の総合公園であり、厚木市の広域避難場所に指定されている「防災公園」です。コンビネーション遊具やローラー滑り台、小動物園や多目的広場、水遊びのできる池など、数多くの遊戯施設を備え、1日楽しめる公園です。	
7		あつぎ子供の森公園	「森のすべり台」と「森の空中回廊」、ふたつの“日本一長い”アトラクションがある里山公園です。様々な遊具で遊べるだけでなく、ガイドによる自然観察やピザ焼き体験などのイベントが、1年を通して開催されています。	
8		荻野運動公園	約 16 ヘクタールの面積を有するこの運動公園は、体育館、競技場、テニスコート及びプールのスポーツ施設と野草園、花原及び多目的広場のレクリエーション施設からなっています。	
9		あつぎつつじの丘公園	市民の手で植えられた約 5 万 2000 本のつつじが華やかな公園です。整備された散策路から、斜面にひろがるつつじを楽しむことができます。	
10	祭り・イベント	あつぎ飯山桜まつり	桜の名所の「飯山」で行う催しで、満開の桜の下、飯山白龍太鼓や白龍の舞、飯山温泉芸妓衆によるさくら輿などが繰り広げられます。	

11	<p>かながわグルメフェスタ in 厚木</p>	<p>県内のご当地グルメが厚木に集結し、ナンバー1を決めるイベントです。おいしいグルメやスイーツ、かわいいキャラクターとの触れ合いが楽しめます。</p>	
12	<p>あつぎ鮎まつり(花火大会)</p>	<p>厚木市最大のイベントで、1万発の大花火大会やパレード、ダンスコンテストなど、市民参加型の催しが2日間にわたり繰り広げられます。なかでも花火大会は毎年 50 万人以上の見物客でにぎわいます。</p>	
13	<p>あつぎマラソン</p>	<p>厚木最大のスポーツイベントで、多くのランナーが健脚を競います。毎年秋に開催されています。</p>	
14	<p>あつぎ国際大道芸</p>	<p>選りすぐりのパフォーマーが厚木に集結。パントマイムやジャグリングなど自慢の技を繰り広げ、街中が劇場に変わり非日常空間が広がります。</p>	
15	<p>かなキャラ大集合！</p>	<p>厚木市マスコットキャラクターの「あゆコロちゃん」のお友だちキャラたちが大集合するイベントです。「かながわグルメフェスタ in 厚木」と同時開催で行われます。</p>	
16	<p>あつぎジャズナイト</p>	<p>屋外常設ステージのある厚木公園で、プロ・アマプレーヤーによるJAZZステージと多彩な食を楽しむ催しです。</p>	

17		厚木市緑のまつり	草花や野菜の苗の即売会や植木市、市の花「さつき」展示会、盆栽展・山野草展、スタンプラリー、学校・企業・団体による出店などが行われるイベントです。	
18	グルメ・名物	厚木ホルモン	厚木でホルモンの「シロ」と言えば、豚ホルモンのこと。厚木の豚ホルモンは、脂身を残した柔らかい生の大腸を炭火で焼き、柔らかい歯ごたえと口いっぱい広がるジューシーな脂身が特徴です。	
19		厚木バーガー	厚木名産の「とん漬け」を中に挟み込み手軽に食べられるようにしたご当地バーガー。軽く焼き上げた「とん漬け」のコクの深い味わいがシンプルなマフィンにぴったりの逸品です。	
20		鮎料理	古くから、市内を流れる相模川では鮎漁が盛んにおこなわれており、江戸時代、捕れる鮎は幕府献上品にも使われていたほどです。現在も、6月から10月までの鮎釣りのシーズンには、多くの釣り人でにぎわいます。	
21		猪(しし)鍋	みその香りが食欲をそそる猪鍋は人気の郷土料理です。猪肉は低カロリー・低脂肪でありながら栄養価が高く、コラーゲンもたっぷりです。美肌効果抜群です。主に、10月から3月頃まで、市内の温泉宿で食べることができます。	

22		とん漬(豚肉 味噌漬け)	産地直送の上質な豚肉を各店自慢の特製のみそに漬け込んだもので、思わずご飯が欲しくなる味。家庭の食卓だけでなく、お土産や贈答品としても喜ばれる厚木の名産品です。	
23		梨・ブドウ・いちご(味覚狩り)	厚木では市内の農園で、梨・ブドウ・いちご狩りを楽しめます。お土産や贈答にも人気となっています。	
24		鮎にちなんだ和菓子・せんべい	「鮎もなか」、「鮎の塩焼きせんべい」など、鮎にちなんだ和菓子が市内の老舗和菓子店で販売されています。	
25		地酒・地ビール	厳選された酒米と七沢の仕込み水で醸造された「大吟醸盛升」や、フルーティーな香りが楽しめる地ビール「ゴールデンエール」、クラフトビール「丹沢のしずくスタウト」などがあります。	
26	施設・その他	歴史的建造物(長谷寺(飯山観音)、古民家岸邸等)	飯山観音長谷寺は、春のサクラ、初夏のアジサイ、秋のモミジが美しい高野山真言宗の寺院です。 古民家岸邸は明治24年に建造されたといわれる歴史的な建物で市指定の文化財です。広大な敷地の中に母屋や薬医門、土蔵などが保存されています。	

27		<p>民俗芸能 (相模人形芝居・ささら踊り等)</p>	<p>相模人形芝居は、県を代表する民俗芸能の1つで、毎年秋に行われる「厚木市郷土芸能まつり」で観覧することができます。</p> <p>ささら踊りは、「ささら」という竹で作られた楽器や太鼓を鳴らして踊る盆踊りで、江戸時代中頃から相模地方の農村に伝わりました。</p>	
28	厚木市子ども科学館		<p>館内のプラネタリウムでは、500万個の恒星を映し出す投影機とコンピューターグラフィックスが大宇宙を描き出します。</p>	
29	あつぎ郷土博物館		<p>厚木の歴史、自然、文化などを紹介する「基本展示室」を常時公開しています。そのほか、魅力たっぷりの特別展・企画展、学習講座や体験学習なども、定期的で開催しています。</p>	
30	神奈川県総合防災センター		<p>神奈川県総合防災センターの防災情報・体験フロアには、地震や風水害などの体験ができるコーナーや様々な防災情報の展示があります。</p>	
31	ご当地ゆるキャラ「あゆコロちゃん」		<p>厚木市のマスコットキャラクターです。市内イベントに登場するほか、観光案内所ではグッズを購入することができます。</p>	

観光事業者等に対する調査について

1 調査の目的

新たな「厚木市観光振興計画」の策定に当たり、本市における観光の現状及び課題、今後の方向性等について、観光事業者、観光関連事業者等の意向を把握し、新たな計画の策定に資することを目的に本調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象・調査方法

厚木市内の観光に関連する観光関連団体、観光事業者に対して、原則として対面式によるヒアリング調査を実施する。

	調査対象	実施時期
観光関連団体	厚木市観光協会	令和2年9月 日
	厚木商工会議所	令和2年9月 日
	厚木市商店会連合会	令和2年9月 日
	相模川第二漁業協同組合	令和2年9月 日
	J Aあつぎ (夢未市を含む)	令和2年9月 日
	あつぎ観光ボランティアガイド協会	令和2年9月 日
	飯山観光協会	令和2年9月 日
	飯山温泉旅館組合	令和2年9月 日
	七沢観光協会	令和2年9月 日
	東丹沢七沢旅館組合	令和2年9月 日
	厚木ホテル協議会	令和2年9月 日
交通事業者	小田急電鉄株式会社	令和2年9月 日
	神奈川中央交通株式会社	令和2年9月 日
	神奈川県タクシー協会相模支部	令和2年9月 日
行政・その他	神奈川県観光企画課	令和2年9月 日
	県央地区県政総合センター企画調整課	令和2年9月 日
	県立七沢森林公園指定管理者	令和2年9月 日

(2) 調査内容・項目

- ア コロナ禍前に感じていた観光振興に対する課題意識
(ここ2～3年程度で顕在化してきた変化など)
- イ コロナ禍後の現状と課題について
- ウ 本市の観光が目指すべき方向性について
(観光振興に対する期待度、理由、目指すべき観光地像、観光客来訪に伴う懸念点、広域観光連携、市に対する期待・要望など)
- エ その他 (自由意見、提案、提言など)

【アンケート調査票】

会員名を記入いただき、各問の該当するところに○をつけてください。

○会員名 (_____)

問1 御社の業種を教えてください。

- 1 飲食業
- 2 宿泊業
- 3 小売業
- 4 製造業
- 5 運輸業
- 6 その他団体
- 7 その他 (_____)

問2 御社（団体の場合は業界総体として）の経営状況についてお聞かせください。

- 1 近年（令和元年までの過去5年間程度）の業績
 - ア 順調に増加してきた。
 - イ やや増加した。
 - ウ 横ばいである。
 - エ やや減少した。
 - オ かなり減少した。
- 2 今後（5年先程度を見通した場合）の業績の展望
 - ア 順調な増加が期待できる。
 - イ やや増加する。
 - ウ 横ばいにとどまる。
 - エ やや減少する。
 - オ かなり減少する。
- 3 今後の設備投資の予定
 - ア 積極的に設備投資をしたい。
 - イ 状況を見て、環境が整えば設備投資を行いたい。
 - ウ しばらくは設備投資を行う予定はない
 - エ 設備の削減（規模の縮小）を考えている。

問3 新型コロナウイルス感染症の拡大により、御社の事業（売上）への影響はありましたか。

- 1 極めて深刻な影響がある。
- 2 大きな影響がある。
- 3 やや影響があった。
- 4 あまり影響はない。
- 5 良好に展開している。

問4 新型コロナウイルス感染症によって、今後、御社の業績（売上）に与える影響をどのように考えますか。今秋以降の感染再流行の状況を見極めないと判断できないと思いますが、現時点でのお考えをお聞かせください。

- 1 極めて深刻であり観光に対する嗜好が変化し、長期にわたって影響をもたらす。
- 2 一定の影響はあるものの、ワクチン開発等により数年で業績は回復する。
- 3 既に回復基調にあり（影響がなかった）、今後、大きな影響があるとは考えていない。
- 4 その他（_____）

問5 厚木市における観光資源や観光の強みはどのようなものと思われますか。
（複数回答可）

- 1 歴史・文化・神社仏閣
- 2 自然・温泉・景観・公園
- 3 イベント（鮎まつり、大道芸など）
- 4 グルメ（伝統食、郷土料理、地酒、農産物）・買い物
- 5 体験施設
- 6 スポーツ施設
- 7 産業観光（工場見学など）
- 8 農業体験・もぎ取り・収穫体験
- 9 鉄道・高速道路網などによる優れた交通利便性
- 10 厚木市マスコットキャラクター「あゆコロちゃん」
- 11 その他（_____）
- 12 分からない

問6 観光客が増加することで期待される効果はどのようなものと思われますか。

(複数回答可)

- 1 観光客の消費によって観光事業者が潤う。
- 2 観光客の入り込みによりまちの賑わいが生まれる。
- 3 経済的な波及効果により地域の関連産業が活気づく。
- 4 観光地・暮らしやすいまちとしてのイメージアップにつながる。
- 5 イベントなどで観光客との交流が生まれる。
- 6 本市への理解が深まり、移住・定住促進につながる。(交流人口増加による定住促進)
- 7 その他 (_____)

問7 観光客が増加することで心配される影響はありますか。(複数回答可)

- 1 感染症の拡大
- 2 観光客増加によるマナーの低下
- 3 騒音やゴミの増加
- 4 交通混雑、駐車場不足、路上駐車など交通環境の悪化
- 5 歴史的文化的資源の破損
- 6 自然環境・景観の破壊
- 7 治安の悪化
- 8 その他 (_____)
- 9 特に心配されるような影響はない

問8 観光振興を推進するために、今後、どのようなことを積極的に取り組む必要があると思われますか。(複数回答可)

- 1 道路、バス、駐車場等の交通機能の充実
- 2 観光資源(拠点)を結ぶ公共交通機能の整備
- 3 観光スポットの案内板や標識(多言語表示)
- 4 ユニバーサルデザインによるトイレ、休憩所等の整備
- 5 観光客が参加しやすい観光イベント
- 6 高齢者や障がい者への配慮(バリアフリー化)
- 7 観光パンフレット・マップによる情報発信
- 8 スマートフォンなどを通じたネットによる情報発信
- 9 宿泊施設、飲食店、土産物等の充実
- 10 観光案内所、観光ガイドの充実
- 11 グルメ、土産物等の商品開発
- 12 駐車場
- 13 その他 (_____)

問9 観光振興の望ましい取組方法についてどのようにお考えですか。

- 1 厚木市が県などと連携し、行政機関として積極的に観光振興に取り組む。
- 2 観光協会、商工会議所等の団体が主体となり、行政機関はその活動を支援する。
- 3 観光事業者が主体となり取り組む。
- 4 その他 (_____)

問10 その他、厚木市の観光の現状や今後の観光振興等について、御意見や御感想があれば御記入ください。

(自由記述)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

以上です。ご協力ありがとうございました。